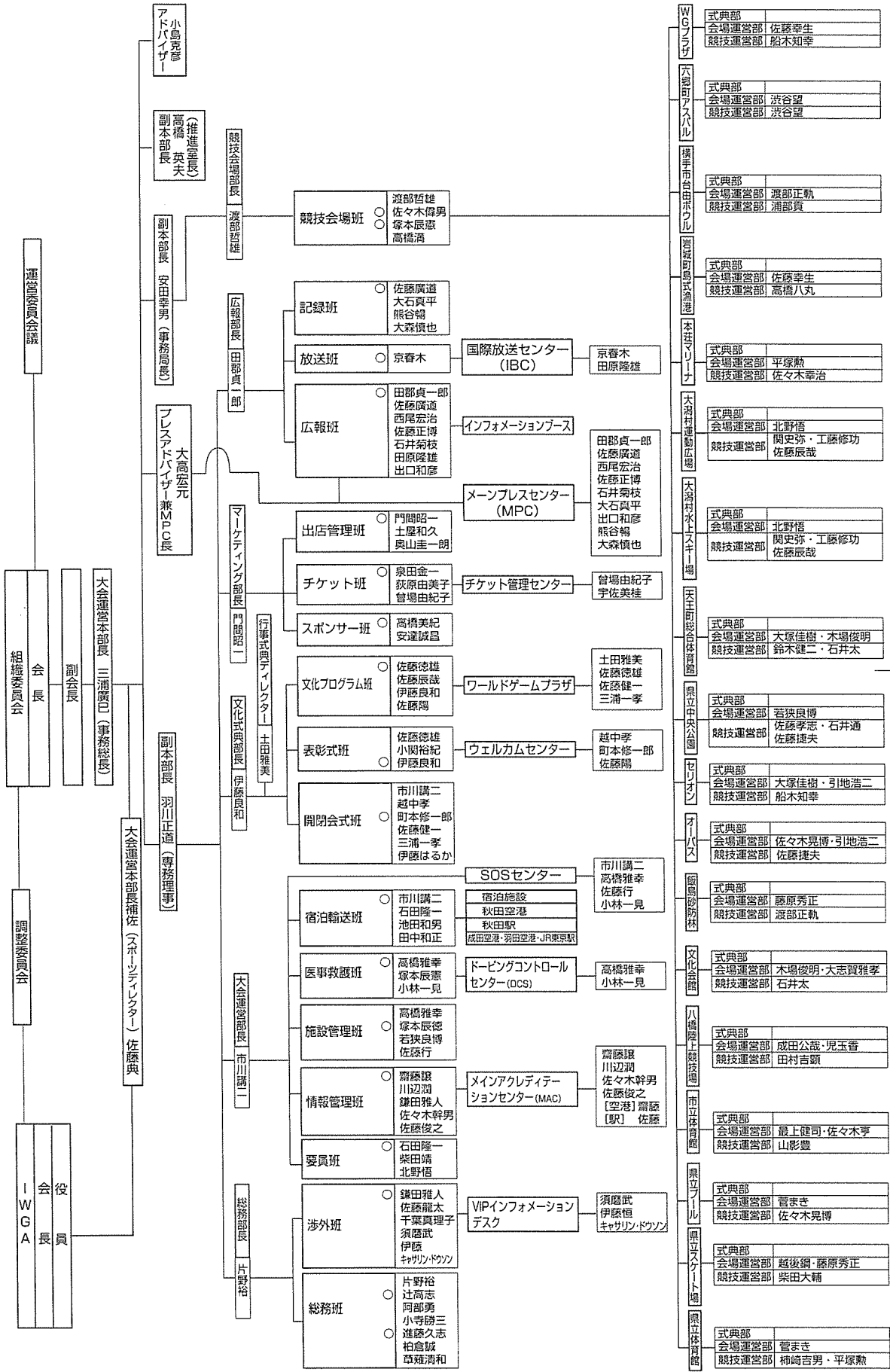




III

大会運営

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)



大会運営 (運営本部組織図)

The 6th WORLD GAMES 8/16(rm)~26(Sun)

○印はチーフ

※式典部は会場運営部が兼務

渉 外

1. IFとの折衝

各参加国際競技連盟（IF）との折衝は主にEメールで行われたが、毎年秋に開催されたGAISF年次総会では、AOCのプロモーション・ブースを設け、直接そのIFの会長や事務総長と話し合う機会をもった。

99年10月、大阪市で開催された第34回GAISF年次総会の際は、各IFの会長・事務総長を秋田に招待し、各競技会場を視察するなど個別具体的な協議を行った。このほかにも個別に来秋した競技団体の担当者とは、その都度会場設営や競技運営に関して綿密な打ち合わせを行った。

2. VIP 接遇

(1) IWGA役員

大会期間中來秋したIWGA役員9人（医事委員2人を含む）のうち会長、副会長、事務総長の3人については、運転手付き専用車と英語の専属通訳を配置し、自由に活動できるようにした。また、医事委員を除く4人の役員については、2台の車と2人の雇用通訳を適宜割り振り、できるだけ希望どおりに活動できるよう配慮した。医事委員については、ドーピング・コントロール・チームとしてアテンド、通訳及び専用車を配置した。宿泊は、すべて本部ホテルの秋田キャッスルホテルに確保した。

(2) IWGA招待者

IWGA招待者の中で特別な接遇が必要となる所謂VIPは主に以下に掲げる方々であり、本部ホテルへ配宿するとともに、必要に応じて乗用車を手配し、競技会場視察等への便宜を図った。乗用車は運転手付きで、前日までに活動日程を聞き取りし、それに応じて配車を調整した。アテンドはIOC委員等のために雇用した通訳2人を適宜割り振ったほか、大会運営本部内で英会話可能な職員が行った。

- ・IWGA終身名誉会長／金 雲龍
- ・IOC副会長／ケバン・ゴスパー
- ・IOC委員／(Liaison Officer/連絡調整役員)猪谷千春(同伴者1人)

- ・IOC委員/GAISF副会長タマス・アジャン
- ・GAISF事務総長／ドン・ポーター
- ・IOCスポーツ・ディレクター／ギルバート・フェリー（同伴者2人）
- ・その他IOC委員（オランダ2人、台湾1人、香港1人、パキスタン3人、シンガポール2人）

これら以外のIWGA招待者は、基本的に本部ホテルへ配宿すると共に、各競技会場へのアクセスは、ホテルから出発する専用バスを利用してもらった。

3. 入国手続き

第6回ワールドゲームズへの参加選手・役員のうち、日本への入国に際して査証（ビザ）が必要となる国からの参加者の取り扱いについては、2000年9月頃より外務省等と協議を開始した。

ワールドゲームズはオリンピックに比べ内閣の了解（外務・法務の協力）を得られるほどの知名度がないこと、また参加選手の選出が競技団体毎に行われるため、参加国及び参加選手数等の確定が大会直前まで困難であることが予想されたことから、長野オリンピック等で採用された方式（IDカードに査証申請又は入国審査の際の証明能力を兼ねた機能を持たせる方式）は取れなかった。したがって、査証が必要な参加者については、通常の旅行者と同様、在外公館において本邦への「短期滞在査証」を取得し入国手続きを取ってもらうこととなった。（外務省の後援名義使用承認は2000年5月に取得済み）

査証申請に当たっては、在外公館での審査をスムーズに行ってもらえるよう、資格審査申請書（アクレディテーション・フォーム）を受領した場合には、「招へい状（招へい保証書／招へい理由書）」に加え、本人の写真入りの「参加申請確認通知書」を発行・郵送し、査証申請書と共に在外公館へ提出するように各参加者に案内した。しかし、「申請書」の到着の遅れにより「通知書」の発行も遅れたこと、また申請後の参加者の交替等もあり、在外公館からの問い合わせや事実確認等の連絡も多く、

7月中旬から8月上旬にかけては、そうした事態への対応に追われた。

「招へい状」の発行に関しては、トラベルプランに記載される本邦への出入国のデータが必要となるが、6月21日時点でのトラベルプランの提出があまりにも少なかったため、当初予定していたデータベース・システムが全く活用できず、1人分ずつ作成しなければならなかった。

このため6月下旬から1ヶ月半ほどは終日「招へい状」の作成作業に追われることとなった。

外務省との協議は、大臣官房文化交流部人物交流課を窓口として継続し、特に査証に関して直接の所管となる領事移住部外国人課へも報告・協議を行った。8月はじめになって招へい状の様式等にかかる簡素化が認められ、またデータベース・システムも活用できるようになったことから、必要書類の作成はかなりスピードアップされることとなった。最終的に42ヶ国・地域の選手・役員968人分の招へい状を作成しEMS等で郵送した。

参加選手・役員の入国に際して直接所管することになる法務省入国管理局についても、2001年4月以降、担当者と連絡をとりながら調整を行った。トラベルプランの提出は依然低調であったが、最終的に8月10日時点での判明分を区切りとして全参加者に関する入国日程データを提出し、入国審査ができるだけスムーズに行われるよう依頼した。

なお、参加者全体の相当数が新東京国際（成田）空港経由で入国する見込みであったため、同空港公団へ出向きアドバイスを求めると共に、税関、動植防検疫、入国管理の成田空港の各担当窓口へも直接説明に出向き理解と協力をもとめた。幸いにして、入国時に審査等で問題となったケースは何も報告されなかった。

来会したIOCメンバー

	Name	Country	Remarks
1	Gosper, Richard Kevan	Australia AUS	IOC Vice President
2	Aján, Tamás	Hungary HUN	GAISF Vice President
3	Ali, Syed Shahid	Pakistan PAK	
4	Fok, Timothy Tsun Ting	Hong Kong/China HKG	
5	Geesink, Anthonius Johannes	Netherlands NED	
6	Grandi, Bruno	Italy ITA	FIG President
7	Igaya, Chiharu	Japan JPN	
8	Kim, S.E. Un Yong	Korea KOR	GAISF President WGA (then President) President
9	Ng, Ser Miang	Singapore SIN	
10	Wu, Ching-Kuo	Chinese Taipei TPE	

	Felli, Gilbert	Switzerland SUI	IOC Sport Director
--	----------------	-----------------	--------------------

来会したNOC

	NOC	Country
1	Belgium	ベルギー BEL
2	People's Republic of China	中華人民共和国 CHN
3	Colombia	コロンビア COL
4	Japan	日本 JPA
5	Korea	大韓民国 KOR
6	Netherlands	オランダ NED
7	South Africa	南アフリカ RSA
8	Chinese Taipei	チャイニーズ・タイペイ TPE
9	United States of America	アメリカ合衆国 USA

来会した各国政府系スポーツ団体

	Organization	Country
1	Spanish Sport Council	スペイン ESP
2	Hungarian Sports Confederation	ハンガリー HUN
3	Portuguese Sport Federation	ポルトガル POR
4	Singapore Sports Council	シンガポール SIN
5	Sports Authority of Thailand	タイ THA



通 訳

1. 計 画

(1) 雇用通訳

大会公用語を英語及び日本語とし、必要箇所に通訳者を配置することとした。通訳者の内、専門的な知識経験及び相当レベルの語学力が必要であり、一般的なボランティア通訳で対応困難と思われる業務については、業務委託を行うこととした。

(2) ボランティア通訳

各人の会話可能な言語、語学力のレベルにより選定・配置し、研修を行い通訳業務を行う他、雇用通訳のサポート業務を行うこととした。

通訳者配置場所

1) 大会本部

- ・メインプレスセンター (MPC)
- ・国際放送センター (IBC)
- ・SOSセンター
- ・メインアクレディテーションセンター(MAC)

2) VIP 随 行

3) 車両……………競技団体輸送車両

4) 案内所……………八橋運動公園、秋田 駅、秋田空港、ワ ールドゲームズプラザ、秋 田ふるさと村

5) 競技団体付き…各競技団体に1人

6) 競技会場付き…当該会場の競技実施日

2. 実施内容

(1) 雇用通訳

(株)イーシーと通訳派遣の業務委託契約を結び、延べ911人(実数98人)の通訳派遣を受けた。

大会公用語を英語及び日本語としたが、競技の特性上、他言語通訳の必要性の強い競技もあり、5競技については英語以外の通訳者が担当した。

競技に精通した通訳者の確保が困難なものもあり、4つの競技にあっては、競技団体推薦の通訳者を委託先に登録させたうえで派遣を受ける形態で対応した。

業務上、競技内容に関する通訳を特段必要としない競技の通訳については複数競技、複数会場を担当させることで通訳

者の派遣人数の削減につとめた。

英語以外の言語の通訳者については、原則的に本部(SOSセンター)一括管理とし、各会場からの派遣要請に応じて派遣した。

	本部付き	VIP随 行	競技団体付き	競技会場付き	計
英 語	17	7	20	11	55
仏 語	5		2		7
独 語	4		1		5
西 語	6				6
伊 語	4				4
蘭 語	4		1		5
露 語	5		1		6
中国語	5				5
ハングル	5				5
	55	7	25	11	98

大会期間中の雇用通訳者管理のため(株)イーシーのコーディネーター3人が大会本部に常駐した。

(2) 語学ボランティア

ボランティア通訳という区分は行わず、ボランティアが担当する業務の内、相当レベルの語学力を必要とされるものについて、TOEIC-IPテストのスコアと自己申告の語学レベルに応じて配置を行った。

便宜的に『語学ボランティア』という括りとし、県内在住のネイティブスピーカー、相当レベルの語学力を持つ日本人ボランティアを各競技会場の選手・役員係等の主要箇所に配置した他、雇用通訳同様に本部付けとして競技会場等からの要請に基づいて派遣した。

3. 問題点等

競技毎の参加国の確定が遅れたことから、各競技会場等で必要とされる言語の特定が出来ず、英語以外の言語に対する雇用通訳手配、語学ボランティアの配置に支障をきたした。

競技団体付き、競技会場付き雇用通訳の業務依頼内容について、競技団体と競技担当者との間で十分な確認が出来ず、現場での依頼業務の変更があった。

案 内

1. インフォメーション・デスク (IWGAゲスト用)

AOCでは、本部ホテルである秋田キャッスルホテルロビー中央にインフォメーションデスクを8月13日～27日、午前7時から午後9時まで設置し、スタッフ3～4人が、主にIWGAゲストへの、競技会場等へのバス時刻、競技日程等の各種情報提供、また、IWGA役員、IOC委員等主要ゲスト付き雇用通訳との日程や配車に関する連絡調整等を行った。

2. インフォメーションブース (一般用)

(1) 計 画

当初、大会関連情報及び観光情報等をファクシミリ、パソコン等を利用して、一般観光客及び市民に提供するために以下の案内所を設置する計画とした。

開設場所	開設期間	開設時間
八橋運動公園	2001年8月9日 ～8月26日	午前11時～ 午後5時
秋田駅	2001年7月1日 ～8月26日	午前11時～ 午後5時
秋田空港	2001年8月9日 ～8月26日	午前11時～ 午後5時
秋田ふるさと村	2001年4月中 ～8月26日	午前9時30分～ 午後5時
ワールドゲームズプラザ	2001年8月16日 ～8月26日	午前9時30分～ 午後5時

(2) 実施状況と結果

実施にあたり、八橋運動公園と秋田ふるさと村については、一般観光客及び市民の主たる移動経路からはずれており、来所可能性が低く、早い時期に開設してもPR効果も疑問であると考慮されたため、内容について再検討を加えた。

大会関連情報以外の特に観光情報の提供については、AOCには情報の蓄積も無いので、秋田県観光課と共同でブース運営を実施することで補完することとした。

再検討の結果、八橋運動公園よりも市立体育館の方が常時観客が多いと見込まれたため、市立体育館にブースを設置することとした。しかし、市立体育館に来場する観客は体操系及びダンス観戦を主



目的にしている所以他の競技の情報を求めるとは考えがたく、観光情報・交通情報の提供が主となると予想されたことから、秋田県観光課に運営を一任することとした。

また、横手市の秋田ふるさと村についても、直接ワールドゲームズ情報を求められる場合はほとんど無いと考えられるため、こちらも観光情報の提供を主として、秋田県観光課に運営を一任することとした。

ワールドゲームズプラザについては、プラザ全体の案内所の機能が優先されるため、文化式典部の所管として、競技関連情報を広報部から提供することとした。

大会前の事前PRを含むインフォメーション施設としては、秋田駅と秋田空港に絞り運営することとし、秋田駅に8月1日より、秋田空港には8月8日より開設し、その他は全て大会期間に合わせて開設し、運営した。

開設場所	開設期間	開設時間
秋田駅	2001年8月1日 ～8月26日	午前9時～ 午後7時
秋田空港	2001年8月8日 ～8月26日	午前9時～ 午後7時30分
ワールドゲームズプラザ	2001年8月16日 ～8月26日	午前9時30分 ～午後5時
秋田市立体育館	2001年8月16日 ～8月26日	午前9時～ 午後5時
秋田ふるさと村	2001年8月16日 ～8月26日	午前9時30分～ 午後5時



大会運営
〔本部運営・案内〕

The 6th WORLD GAMES 8/16(Fri)～26(Sun)

輸 送

1. 基本方針

参加者から事前に提出されるトラベルプラン（国際航空路線利用データ、国内移動データ）及び各競技の公式スケジュールに応じて、国内及び県内移動を安全、確実かつ円滑に行うこととした。

関係者の到着・出発時および会場への移動などの公式スケジュールに応じて安全かつ確実な輸送をすることを基本とした。

各車両の現在地や到着予定時刻等の輸送状況を把握・管理し、緊急の輸送にも対応するため、本館内に輸送センターを設置する他、(株)秋田中央交通内に配車センターを設置しバスを中心とする車両の運行管理を行うこととした。

2. 空港・駅での案内

(1) 計 画

1) 県外交通拠点

成田空港・羽田空港・東京駅に要員を配置し大会関係者の入国から秋田入りまでの国内移動のサポートを行った。

各競技の公式日程に基づいて8月14日から8月22日までの受け入れと8月19日から8月27日までの送り出しに対応した。

2) 県内交通拠点

秋田空港・秋田駅に要員を配置し宿泊施設までの移動のサポートを行った。

関係者の秋田空港及び秋田駅からの送迎用車両として延べ120台のバスを準備することとした。

(2) 実施内容

1) 県外交通拠点

3つの交通拠点に責任者として支援職員を配置した他、首都圏のボランティアグループ等に協力を依頼し、延べ400人のボランティアスタッフの配置を行った。

(8月14日から8月22日までの受け入れのみ)

アテンド業務を(株)ジェイティービーに委託した。

トラベルプランデータから受け入れのアテンド業務の委託を8月23日まで延長

した。

また、8月19日から31日まで羽田空港における乗り継ぎ等の案内誘導を(株)ジェイティービーが担当し、送り出しに対応した。



2) 県内交通拠点

秋田空港及び秋田駅に責任者として支援職員を配置した他、ボランティアスタッフを配置(延べ750人)し、大会本部との密接な連絡のもとに到着時の宿泊施設までのバス輸送、出発時の交通機関へのアクセスのサポートを行った。

県内交通拠点からの送迎用車両として大型・中型・小型バス延べ777台を運行した。

トラベルプランを提出していない者など、少人数の移動用には延べ724台のタクシーによる輸送を行った。



3. 選手・役員輸送

(1) 計 画

選手・役員輸送は各競技団体単位とし各競技の公式日程に合わせた運行計画に基づき、延べ346台のバスを運行することとした。

各輸送車両に添乗員を乗車させ、乗客

への案内を行う他、輸送センターとの間で運行時刻の遅延等の情報連絡を行った。

選手団等の送迎時の荷物輸送車両を必要により配備した。



(2) 実施内容

競技によってはチーム別、選手・役員別のバスの設定が必要となったほか、台風の影響による飛行機の欠航が予想されたため、8月21日、22日の両日、秋田・成田空港間に延べ7台のチャーターバスを無料で運行し、222人を輸送した。

輸送車両への添乗員の人数が確保できなかった為、空港等からの送迎バスおよび一部のVIPバスのみの添乗に終わった。

選手団等の送迎時の荷物輸送車両として延べ97台のトラックを運行した。



4. VIP 輸送

(1) 計画と実施内容

IWGA役員(7人)および一部VIPに対し、アテンド通訳を付けた7台の専用車を設定し、空港等送迎、競技会場間の輸送を行った。

IWGA招待者に対し、公式行事並びに

競技開催日程に合わせ、延べ69台のVIP(メディア兼用)バスを準備したが、結果的に延べ47台のバスを運行した。

VIPバスの運行は秋田市内の競技会場は循環形式、それ以外の競技会場はシャトル形式とした。

(2) 問題点等

関係者に対する輸送の基本データとなるトラベルプランの提出が6月21日の期限まで提出のあったものが2割、最終的にも5割に留まったため、空港等からの送迎が見込みによる対応に終始し、実態との乖離が大きかった。

各競技の公式日程に基づいた輸送計画を策定したが、提出されたトラベルプランの多くが公式日程と合致せず、直前になって計画の大幅な見直しを余儀なくされた。

5. 観客輸送

8月16日～8月26日の間、指定乗降場所と競技会場間に競技スケジュールに合わせた一般観客用無料送迎バスを運行することとし、延べ110台のバスを運行した。

無料送迎バスの運行を周知すると共に、公共交通機関の利用を働きかけた。



6. スタッフ輸送

大会期間中、ボランティアを含むスタッフは基本的に現地集合・現地解散とした。

宿 泊

1. 選手・役員の宿泊

(1) 計 画

2001年1月1日から2001年6月21日（開会式の8週間前）までに提出される資格認定申請書並びにトラベルプランに基づいて大会に参加する選手・役員（競技団体運営スタッフを含む）の受け入れに必要な宿泊施設を確保することとした。

宿泊施設の確保及び精算等の業務については（株）ジェイティービーに委託し、以下の配宿方針に従って確保することとした。

- 1) 各競技会場のある市町村内宿泊施設または隣接市町村内宿泊施設に配宿する。
- 2) IF単位を基本とし、会場等への移動の利便性を考慮する。
- 3) 部屋割りについては、IFが責任を持って行うこととする。
- 4) 各IFに割り当てたIFパスポート数を超える宿泊希望者が発生した場合は、可能な限り同じ宿泊施設に配宿する。

(2) 実施内容

公式滞在日程前・後の宿泊手配については、（株）ジェイティービーへ直接申し込みとした。

必要ベッド数算定に当たっては、各競技団体に対して参加者見込み数調査を行い、公式滞在日程に基づき、選手役員・競技団体スタッフ4,248人（内、組織委員会負担2,389人）に対し28施設、延べ23,490泊の宿泊を手配した。

最終的に、大会期間中の宿泊提供は29施設、延べ21,697泊であった。

(3) 問題点等

資格認定申請が期限通りに行われなかったため、受け入れに必要なベッド数の算定が進まず、配宿作業が大幅に遅れることとなった。

必要宿泊数（ベッド数）は確保できていたものの、各宿泊施設から提供されたルームタイプが、競技団体が想定していた内容と大幅に乖離していたことから、直

前になってIF毎の宿泊施設の分割が発生し、連動して輸送スケジュールの手直しを余儀なくされた他、FIG（国際体操連盟）に関しては、IF単位という捉え方が異なり、直前になってFIG内のNF単位の配宿としたことから、部屋割り作業等に大きな支障をきたし、空港等での宿舍案内も大きな混乱があった。

直前になって各国オリンピック委員会（NOC）からNOC単位の配宿希望が殺到したことから、調整作業に苦慮した。

2. VIPの宿泊

(1) 計画と実施内容

秋田市内の秋田キャッスルホテルを本部ホテルとした。同ホテルにIWGA招待者（150人）を中心に大会期間中延べ1,302泊の宿泊受け入れを行った。

また、インフォメーションデスクを設置し、大会情報、VIPバス運行情報（乗車受付）等の提供、秋田県内の観光案内や航空機または列車の予約変更等の取り扱い対応を行った。

(2) 問題点等

選手・役員同様、資格認定申請及びトラベルプラン提出が期限から大幅に遅れたことで、AOC招待者やスポンサー等、その他の関係者の宿泊申し込みとの調整に支障をきたすこととなった。

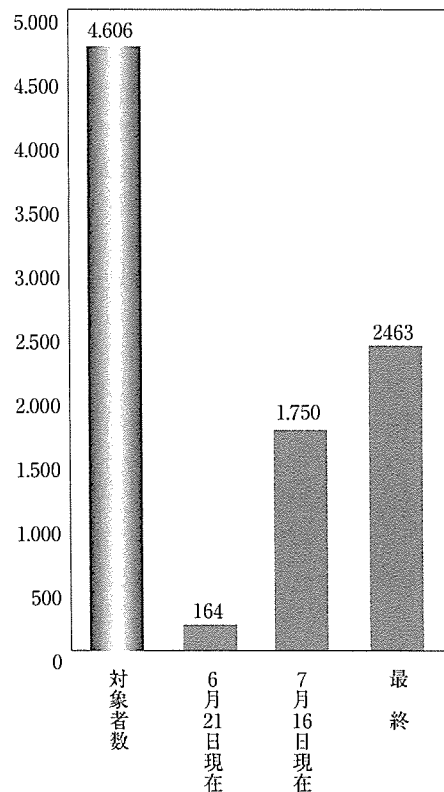
利用宿泊施設一覧

宿 泊 施 設 名
秋田キャッスルホテル（本部ホテル）
秋田ビューホテル
ホテルメトロポリタン秋田
アキタニューグランドホテル
三井アーバンホテル秋田
秋田ワシントンホテル
アキタスカイホテル
ホテルパールシティ秋田
アキタパークホテル

アルバートホテル秋田
ホテルハワイ・ラグーン
ホテルハワイ・新本店
ホテルハワイ・駅前店
アキタシティホテル
プラザ・クリプトン
サンルーラル大潟
ユースパル
MSUA学生寮
秋田県自治研修所（総合教育センター含）
横手ステーションホテル
横手プラザホテル
横手グランドホテル
横手セントラルホテル
ホテルアイリス
本荘グランドホテル
ホテルエクセルキクスイ
まるご旅館いちゑ
県営トレーニングセンター

トラベルプラン提出率

カテゴリー	対象者数	6月21日	7月16日	最終
A/(IWGA招待者等)	228	0	56	124
BC/(選手・役員等)	4,378	164	1,694	2,339
合計	4,606	164 4%	1,750 38%	2,463 53%



3. その他関係者の宿泊

(1) 計画

スポンサー関係者の宿泊に関しては、手配依頼があった場合は公式旅行代理店に斡旋を依頼することとした。

報道放送関係者の宿泊に関しては、手配依頼があった場合は公式旅行代理店に斡旋を依頼することとした。基本的に、通信インフラができる限り整った宿泊施設をメディアホテルと位置付け、まとめて配宿することとした。

(2) 実施内容

選手役員の宿泊確保を最優先としたため、配宿の確定が大幅に遅れたが、最終的にスポンサー関係者には延べ533泊、報道関係者には延べ1,268泊を提供した。

食 事

1. 計 画

IWGA関係者、選手・役員、随行コーチ・トレーナーに対し、大会スケジュールに合わせて適切かつ効率的な場所での食事提供に努めることを基本とした。

朝食及び夕食は宿泊施設内で提供することとし、昼食は大会スケジュールに合わせて宿泊施設または競技会場で提供することとした。

朝食及び夕食は、洋食をビュッフェスタイルで提供することを基本とし、標準的メニュー構成を検討した上で各宿泊施設及び食事提供施設と調整し、一定水準の食事を提供することとした。

昼食を競技会場で提供する場合は、洋食のビュッフェスタイル又はランチボックススタイルで提供することとし、標準的メニュー構成を検討した上で業者と調整し一定水準の食事を提供することとした。

各食事の提供対象者及び提供見込み数は次の通りである。

対象者	朝食	昼食	夕食	計
IWGA招待者	約2,000	約1,800	約2,000	約5,800
公式競技選手・役員	約13,800	約13,400	約13,800	約41,000
その他競技関係者	約9,700	約7,800	約9,700	約27,200

一定期間に多数の人々に食事を提供することから、食品衛生所管部署の指導のもと食中毒等の事故防止に努めた。

2. 実施内容

朝食及び夕食を宿泊施設で提供することとしていたが、ビジネスホテルタイプの施設の利用が多く、一度に多人数への食事提供スペースが確保できないため、食事のために近隣の宿泊施設に移動を余儀なくされた競技団体が複数あった。

栄養学関係者、厨房担当者、食品衛生担当者等をメンバーとするミール検討委員会を設置し、様々な観点から標準メニューの策定を行い、料理の英語表記、カ

ロリー表示等を付してビュッフェスタイルでの提供を行った。

食品衛生担当者からの指導により、食事提供方法等の変更もあったが、競技スケジュールに合わせて適切かつ効率的な場所での食事提供が出来た。

食事提供実績はほぼ計画どおりだった。

また、ボランティアを含むスタッフには、各会場ごとに保冷車を利用して弁当を配布した。

3. 問題点等

IWGA招待者の滞在中の行動を把握するのに困難をきたし、昼食の手配等に支障を生じた。

遅い時刻の到着・早い時刻の出発に対する食事提供については、トラベルプランによる事前把握が出来なかったため、宿泊施設及び食事提供施設に無理を強いることとなった。

警 備

1. 組織委員会による警備

(1) 計 画

開閉会式及び各競技会場警備の主要な部分は警備会社に委託して対応。会場内外誘導、駐車場誘導等は支援職員およびボランティアでの対応とした。

(2) 実施内容

警備業務について指名競争入札を実施し主要警備業務について警備会社に委託。

具体的な内容は以下の通り。

1) 目 的

- ①開閉会式および競技会場における火災、盗難、破損行為、不正行為、加害行為の予防・防止・早期発見
- ②開閉会式および競技会場の円滑な運営
- ③開閉会式および競技会場に來場する観客の保護
- ④開閉会式および競技会場の保全

2) 警備物件

- ①八橋陸上競技場およびその周辺
- ②県立中央公園内駐車場
- ③本荘マリーナビーチハンドボール会場
- ④岩城町道の駅周辺ライフセービング会場
- ⑤大湯村運動公園内パラシューティング会場
- ⑥大湯村水上スキーコース
- ⑦秋田駅西口バスターミナル

3) 警備方法

開閉会式および競技会場での適切な人員体制による常駐警備

4) 警備業務

- ①開会式における手荷物検査
- ②開会式における入場口管理
- ③開会式における会場内巡回警備
- ④開会式における会場周辺巡回警備・交通整理
- ⑤開会式における駐車場整理・自動車誘導
- ⑥閉会式における駐車場整理・自動車誘導
- ⑦ ③～⑥会場の機器監視警備
- ⑧火災、盗難、不法行為、人身事故、緊急事件等発生時における関係機関

担当職員への通報・連絡

⑨警備業務に関する報告

5) 警備委託期間・人数

8月10日～27日まで延べ228人

以上の警備内容の他、支援職員およびボランティアが入退場の規制や各会場内および駐車場整理業務にあたった。

2. 警察による警備

(1) 計 画

秋田県警察本部内に設置されたワールドゲームズ対策本部を窓口の開閉会式会場および全競技会場について実地調査を実施、警備検討票を作成し警備内容を各管轄署と共に検討した。

(2) 実施内容

1) 開会式

県警による実施本部と秋田署による移動交番を設置。警備機動隊等により会場各所の警備が実施された。

2) 各競技会場

各競技会場の状況を把握の上、会場の事情に応じた警備・交通整理を実施した。

3) 閉会式

秋田署による移動交番を設置し、場内の誘導・警備にあたった。

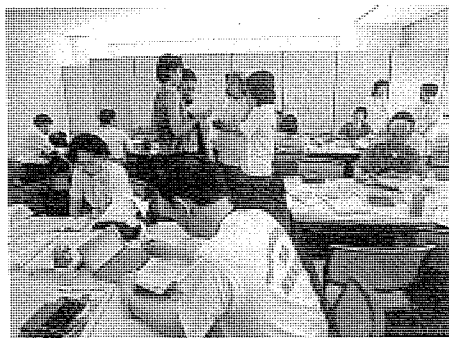
医事・救護

1. 医療体制

(1) 計画

大会に参加する選手役員の滞在中の傷病に対応するため、関係市町村の救急医療機関に対し対応を依頼、病院から要請がある場合は通訳等の手配をする事とした。

また、選手・役員・観客等の傷病に対応するため各会場に看護婦を配置、医師・救急車については競技の特性に合わせた配置とした。IWGAルールに基づき、競技ルールにより医師の配置が義務づけられている競技に関しては、競技団体が医師の手配をする事とした。



(2) 実施内容

1) 開会式

日本赤十字社秋田県支部と秋田赤十字病院の協力により救護用エアータントを設置したほか救護テント9カ所と医師8人、看護婦・保健婦を12人、救急車2台を配置し熱射病等の疾病に対応した。



2) 各競技会場

競技の特性に合わせ医師・看護婦を各競技会場に配置、柔術・空手道・ラ

グビー・パラシューティング・水上スキーの会場には自衛隊及び消防署の協力により救急車を待機させた。

※開閉会式および各競技会場に配置した看護職員は全て秋田県および秋田市看護職員延べ115人で対応した。

2. SOSセンター

(1) 計画

1) 目的

傷病、トラブル等、外国人からの通報があった場合、言語補助を行い、関係機関と連携しながら適切に対処するほか、通訳派遣の要請に応じ出動することとした。

2) 場所

県庁第2庁舎35会議室に設置。この部屋は語学ボランティアの控室ともなり、他言語センターとしての機能も併せ持つ。

3) 期間

8月14日午前9時から27日午後5時までの間、24時間体制とした。

4) 要員配置

①日中

- ・本部担当職員 2人
- ・雇用通訳 36人(英語・仏語・独語・西語・葡語・伊語・中国語・露語・ハンゲル各4人)
- ※14～15日(16日9:00まで)は英語のみ2人。
- ・語学ボランティア 10人前後
- ※勤務時間は基本的に8:00～15:00、15:00～22:00の2交替制
- ・警察職員 4人
- ・国際交流員 4人(英語・露語・中国語・ハンゲル)
- ※勤務時間は9:00～17:00

②夜間

- ・本部担当職員 2人
- ・雇用通訳 9人(英語・仏語・独語・西語・葡語・伊語・中国語・露語・ハンゲル)
- ※14～15日は英語のみ。
- ・警察職員 4人

5) 設 備

- ①専用の電話回線 (ISDN回線)
- ②ID確認用パソコン

(2) 実施内容

開設期間中雇用通訳延べ400人、語学ボランティア延べ210人、秋田県警延べ56人が常駐し各種トラブルに対応した。

受理件数は次の通り

通訳依頼	43件
宿泊輸送・競技照会	83件
出入国関係	17件
傷 病	20件
金 融	12件
相 談	9 件
地理・案内	45件
遺失物拾得	15件
事 件	1 件
その他	37件
合 計	282件

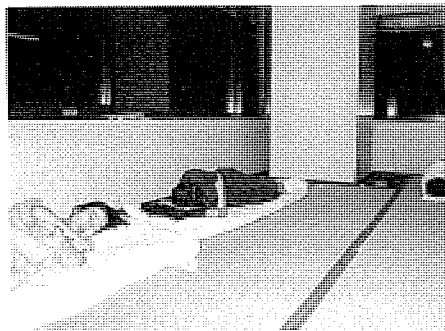
通報者割合

外国人57.4% 日本人42.6%

通訳派遣回数.....32回

警察対応.....17件(内1回出動)

※SOSセンターの目的からして当初対象は外国人参加選手・役員のみであったが、マスコミ等の報道により、一般からの問い合わせが極端に増え上記件数となったが、本来の目的に見合った相談件数は100件以下であった。



つかの間の休息 (SOSセンター)

3. 協力団体

- 秋田県医師会
- 秋田市医師会
- 秋田県薬剤師会
- 秋田県歯科医師会

- 市立秋田総合病院
- 秋田組合総合病院
- 中通総合病院
- 秋田赤十字病院
- 秋田赤十字病院救命救急センター
- 秋田大学医学部附属病院
- 県立脳血管研究センター
- 藤原記念病院
- 湖東総合病院
- 秋田県警察
- 秋田県国際交流協会

4. ドーピング・コントロール

(1) 計 画

本大会におけるドーピング・コントロールは、IOC医事規定に準拠しIWGA医事委員会で定めた規則に従って、全ての公式競技を対象として実施することとした。

1) 選手の抽出

検査対象となる選手は、参加選手の10パーセント以内とし、その内訳、抽出方法はIWGA医事委員会の決定による。また、この内容についてはIWGAの責任においてIOC医事委員会に報告される。

2) ドーピングコントロールステーション (以下「DCS」という)

検体を採取するためのDCSを秋田市、横手市、天王町及び大湯村に設置する。DCSは3つの部屋とトイレから成り、2つは男女別に選手およびその同伴者が待機するウェイトングルーム、もう一つは検体の採取業務用のワーキングルームとして使用する。ワーキングルームにはトイレが含まれる。

3) 開設日

設置場所	設営日	運営日
秋田市老人福祉センター	8月15日(木)	8月17日(金)~26日(日)
横手市保健センター	8月21日(火)	8月21日(火)
天王町保健センター	8月18日(土)	8月18日(土)午後
大湯村保健センター	8月23日(木)	8月23日(木)午後

4)開設時間(予定)

秋田市老人福祉センター

開設日	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
開始予定 時間(時)	13	10	13	10	13	12	/	11	/	10	12	予備
終了予定 時間(時)	17	17	22	20	22	22	/	23	/	22	20	予備

横手市保健センター：午前10時～午後9時

天王町保健センター：午前10時～午後8時

大潟村保健センター：正午～午後8時

5)所在地

設置場所	住 所
秋田市老人福祉センター	秋田市八橋茂川原2-18
横手市保健センター	横手市横山町1
天王町保健センター	南秋田郡天王町上江川47-610
大潟村保健センター	南秋田郡大潟村中央1-13

6)配置人員

医事委員長：Pierre Dernier MD

医事委員会メンバー：Dr Karl Heinz Kerll

医事委員会メンバー：湊 昭策 医師

ドーピング・コントロール係官2人

(常駐：秋田市保健所派遣)

秋田県内医師への協力依頼のアンケートを実施、協力が得られる医師に対し事例研究等の研修を実施し、組織委員会からIWGA医事委員会に推薦、IWGAが任命する。

また、8月18日午後は2班に分かれ秋田市DCSと天王町DCSをそれぞれ分担する。

雇用通訳を3人(仏語、ロシア語、スペイン語)期間中DCS待機とする。

ドーピング・コントロール・エスコート(語学ボランティア)

ドーピング・コントロール・エスコート(以下エスコートという)は抽出された選手にドーピング・コントロール通知書を渡し、競技者を監視下に置き、最寄りのDCSまでの案内業務を行う。エスコートはAOCがIOC医事規定等の研修を実施の上任命する。

	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
人数	10	21	16	6	8	12	8	21	14	予備

運転手・車輛(支援職員)

	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日	24日	25日	26日
人数	10	12	12	6	8	12	9	12	9	予備

ドーピング・コントロール・クーリエ
(支援職員3人)

ドーピング・コントロール・クーリエ(以下クーリエという)は採取された検体を責任を持って分析機関まで輸送する。クーリエはAOCがIOC医事規定等の研修を実施の上任命する。

輸送日	8月20日(月)	8月23日(木)	8月27日(月)
輸送検体数	66検体(×2)	44検体(×2)	50検体(×2)

7)搬送先(検体分析機関)

東京都板橋区志村3丁目30番1号
(株)三菱化学ビーシーエル・ドーピング
検査室長・植木真琴

8)DCS勤務職員・ボランティア

上記の他DCSに勤務する職員、通訳、ボランティアについてもIOC医事規定等の研修を実施の上任命する。

(2)実施内容

- 1)ドーピング・コントロール・ステーション(DCS)設置場所
秋田DCS：秋田市老人福祉センター
横手DCS：横手市保健センター
天王DCS：天王町保健センター
大潟DCS：大潟村保健センター
- 2)DCS設置期間
2001年8月15日～2001年8月26日
- 3)DCS運営要員
IWGA医事委員長：Pierre Dernier MD
IWGA医事委員：Dr Karl Heinz Kerll
AOC医事委員：湊 昭策 医師
参加医師：13人(延べ19人)
係 官：2人(延べ16人)

清掃・廃棄物処理

エスコート：16人(延べ79人)
 運 転 手：38人(延べ88人)
 ケーリエ：3人(延べ9人)
 通 訳：4人(英語、仏語、西語、
 露語延36人)

- 4)検査実施数：145検体
 (143人：男性87人、女性
 56人)(参加選手の6.6%)
 5)検査委託先：(株)三菱化学ピーシーエル

(3) 結 果

2001年10月のIWGA総会で、ドーピング
 検査結果が下記のとおり報告された。

- 1)選手のリストが最新情報に更新されて
 いなかったため、対象者を間違っ
 てピックアップすることがあった。
 (欠場した選手を指名するなど)
- 2)選手のノミネートを競技のない日
 に行ったため、(外出などで)選
 手が捕まらないことがあった。
- 3)選手が入賞者でない場合、(無名
 のため)選手の名前と顔が特定
 できず、結果、エスコートでき
 ないことがあった。IFの協
 力が必要であった。
- 4)若年選手にドーピングの必要性
 が理解されておらず、選手が
 パニックに陥ることがあった。
 (※IFへのアンケートで事前に
 ドーピング検査があることを
 周知していた団体は53%であ
 った。)
- 5)陽性(positive)反応は全部
 で4件であった。(2.75%；
 カンナビノイド2件など)。
 また、検体が水にすり替えら
 れているものが1件発見され
 た。

ワールドゲームズ実施会場は全て既存
 施設であるため、各会場の清掃・廃棄物
 処理方法に準じて行うこととし、各会
 場の簡易清掃については会場ごとに清
 掃班を編制し、支援職員及びボラン
 ティアが対応した。

情報管理

1. 情報システム

(1) 計画

1) 大会参加者管理システム

大会参加者の個人情報・入出国情報・宿泊情報並びに大会運営スタッフ計約10,000人を事前に登録することとした。

円滑な大会運営のため必要とされる情報は、すべて登録データベースから提供し、リザルトと対応する形で顔写真や戦歴等選手情報の一部をインターネット上で公開することとした。

2) 競技情報システム

競技に関する各種データ、過去の競技記録、競技進行に伴う新たな情報をインターネット上で提供し、競技運営を支援することとした。

また、各種の大会情報をリアルタイムにインターネット上に発信することとした。

3) システムの特性

各競技会場等の担当者が直接インターネットに入力することにより、リアルタイムで競技進行状況や競技結果が確認できる。

また、提供情報は日本語と英語で行い、紙ベースでも情報提供することとした。

(2) 実施内容

資格審査申請書を受理した大会参加者11,944人について、その表記内容をすべて登録し、競技結果と選手情報のリンクをはじめとして多面的にデータを活用した。また、競技プログラムなどに使用する本人画像や、競技記録確認のための申請書内容を画像で提供した。

競技の進行状況や競技結果についてもインターネット上で情報提供した。

(3) 問題点等

1) 当初設計したデータベースの内容が後日不十分であることが判明し、必要最低限の確認用データファイルを別途作成したが、二重管理となり、データの

メンテナンス等に余計な労力を要した。

2) 入出国情報・宿泊情報を事前に登録することで、輸送業務等の円滑な実施が期待されたが、その元となるトラベルプランの提出が大会参加者の約半数にとどまったため、業務支援システムの提供を断念した。

3) リザルトについては、競技開始直前になって、フォームの変更が生じ、結果として手作業が多くなった競技があり、リザルト更新にバラツキがでた。

2. アク্রেディテーション手続き

(1) 計画

1) 資格登録申請

大会参加者は、IWGA 会長・IF 会長等の資格審査者の署名入り資格登録申請書をAOC事務局に提出することとした。各カテゴリーごとの資格審査は下表の通り行うこととした。

※A～Eカテゴリーについては「IDカード」の項(116ページ)を参照

カテゴリー	資格審査者	付与カード
Aカテゴリー	IWGA責任者、AOC責任者	Aカード
Bカテゴリー	IF責任者	Bカード
Cカテゴリー	IF責任者	Cカード
Dカテゴリー	AOC責任者	Dカード
Eカテゴリー	AOC責任者	Eカード

2) 資格審査申請書様式

大会参加者はそのカテゴリーに応じた資格審査申請書により資格審査を申請する。

3) 資格審査申請手順

資格登録申請書は、AOCから各IF等に発送する。

資格登録申請書の締切日は、大会開始日の8週間前(2001年6月21日)とする。

各IFは、取りまとめの上、締切日までにAOCに申請する。

4) 資格登録申請書の内容確認・登録・参加申請確認通知書の送付

AOCが受理した資格登録申請書は、情報管理班が仕分けし、申請書内容を確認の上、データベースに登録する。

資格登録申請書の受理は、参加申請確認通知書により本人に通知する。

(2) 実施内容

多少、フォームの発送に手間取ったところがあり、計画より1週間ほどの遅れで実施した。

また、参加を希望する者が多岐に渡っていたため、当初の資格審査申請書様式で括ることが困難になり、最終的には申請書の様式を14パターン作成した。

なお、申請書の受理数は、締切日時点で4,092人と参加想定数の40パーセント程度であったため、一旦6月末まで締切日を延長した。しかし、延長後の締切日においても51パーセントにとどまったことから、大会直前まで延長して対応することになった。

(3) 問題点等

1)当初設定した締切日が事実上意味をなさなかったため、大会参加者の確定が大会直前まで先送りされることとなった。このため大会運営のあらゆる面で大きな負担となった。

2)資格審査申請書のカテゴリーに基づきIDカードを交付したが、受け取りの段階で、カテゴリーが違う旨のクレームが生じる例があった。

IWGAあるいはIFで資格審査したものであり、クレームの発生自体が考えられないことである。そもそも資格審査やカテゴリーについて、どの程度周知されていたか、IWGAやIFがどのような指示指導をしていたかが疑問である。

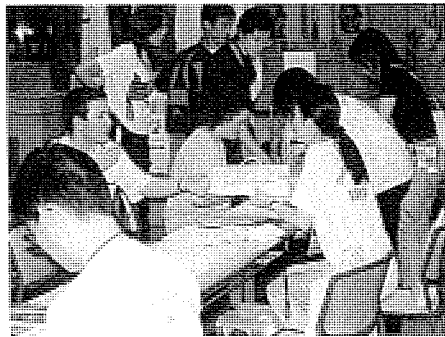
3. メインア krediyeshonセンター(MAC)

(1) 計画

1)MACの機能

IDカードの作成・交付・保管業務を行うほか、大会におけるIDカードに関する業務を一元的に行う。ただし、事

前にトラベルプランを提出したABCカテゴリーの大会参加者については、秋田空港・JR秋田駅に受渡しカウンターを設置し、交付業務のみ行うこととした。また、利用者の利便性を考慮に入れ、複数の言語に対応するとともに、ある程度のインフォメーション機能を持たせることとした。



2)MACの設置場所

MACは、県庁第二庁舎1階県民ホール内に設置した。



3)MACの開設期間等

MACは、2001年8月10日(金)午前8時から8月26日(日)午後6時までとした。なお、開設期間の初日と末日を除き、MACの開設時間は24時間とした。

また、秋田空港・JR秋田駅については、8月13日(月)から8月22日(水)まで、トラベルプランに準じて、IDカード受け渡しカウンターを設置することとした。

(2) 実施内容

計画通りに実施した。

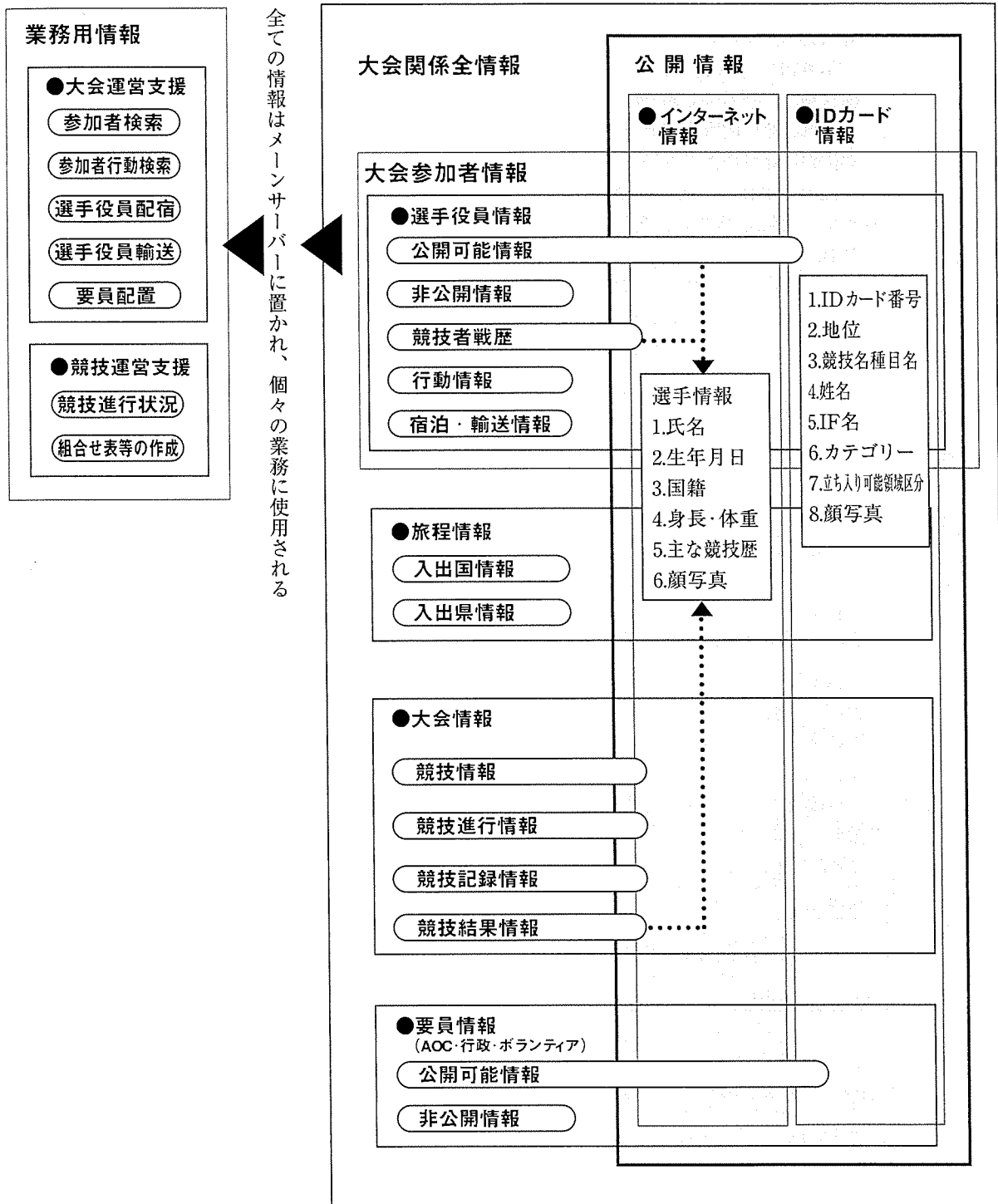
午前0時から8時までの間は、県庁第2庁舎3階に設置したMACバックヤードで対応した。

秋田空港・JR秋田駅のIDカード受け渡しカウンターは当初の計画どおり設置したが、23日以降も多くの空港利用者が見込まれたことから8月25日(土)までカウンターを設置した。

**(3) 問題点等**

- 1)バックヤードでの対応は数件にとどまり、設置期間・運用時間に、特段の問題はなかった。
- 2)最終便で秋田入りする大会参加者も多かったが、設置当初MACから宿舎までの輸送方法が確立しておらず、多少の混乱があった。
- 3)JR秋田駅では、インフォメーション・ブースに外国語対応能力がなく、IDカード受け渡しカウンターがその役割を担うことになり、負荷が大変大きくなった。所掌業務と必要なマンパワーの乖離について、事前にどのように認識していたのかが問題である。
- 4)MACに設置したパソコン、プリンターに障害が多発し、業務が停滞する例があった。インストールしたソフト同士の相性やプリンターの能力等、十分な事前確認を怠ったためと思われる。

各種情報の管理・運用・その他に関する全体図



※1.インターネット発進情報はMPC、各競技会場でも掲示板等に、紙ベースで配信する。

※2.リザルトは速報性を最優先する。リザルトと選手情報のリンクは試合終了後速やかに行う。

IDカード

(1) 計画

1) IDカード

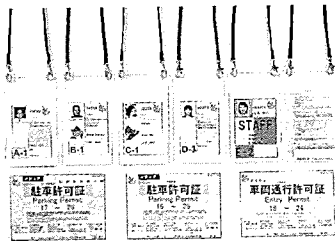
第6回ワールドゲームズにおける各種特権は、所持するIDカードにより付与され、その内容はIDカテゴリーごとに詳細に区分されるものとした。

IDカードは、IWGAとの協議を踏まえて、AOCが作成し、発行した。

2) IDカテゴリー

標準的なIDカテゴリーは次のとおり。

種類	対象者
Aカード	VIP・AOC役員・次回開催地役員・スポンサー代表者等
Bカード	IF技術代表者
Cカード	IF競技者役員等
Dカード	放送報道関係者
Eカード	AOCスタッフ・運営スタッフ・スポンサー・サプライヤー



3) IDカテゴリー区分表および立ち入り可能領域指定区分表の作成

標準的IDカテゴリーを踏まえて、カテゴリー別、所属組織別、大会役職名別に分けけたより詳細な一覧表を作成することとした。

IDカテゴリー区分表を踏まえて、役職名ごとに立ち入り可能領域指定表を作成することとした。

種類	主なアクセスエリア
Aカード	ドーピングルーム・撮影エリアを除くすべてのエリア
Bカード	関係競技会場内のすべてのエリア
Cカード	関係競技会場内の競技・準備・観客エリア
Dカード	撮影エリア等
Eカード	観客席を除くすべてのエリア

4) IDカードの作成発行

IDカードはMACのみが作成し、その発行システムを運用・管理することとした。IDカードは、資格審査申請書に基づき登録したデータにより作成し、カテゴリー別・競技別・国籍別等に仕分けして保管することとした。

5) IDカードの交付

IDカードはMACにおいて交付する

ことが原則であるが、ABCカテゴリーに限り、かつ、事前にトラベルプランにより秋田空港もしくはJR秋田駅で受け渡し可能な大会参加者については、当該空港・駅で受け渡すものとした。

なお、対応カテゴリー以外もしくはトラベルプラン未提出・変更により到着場所・日が異なる者については、すべてMACでIDカードを交付することとした。

(2) 実施内容

駅・空港におけるIDカードの受け渡しは、想定しうる事柄を10パターン化し、それぞれをマニュアル化して対応した。

また、トラベルプランの提出が少なかったため、約半数がイレギュラーな秋田県入りであったが、円滑にMACで対応できるよう、マニュアルを柔軟に変更しながら、輸送担当者の協力を得て、大きな混乱もなくMACに誘導できた。

カテゴリー毎の交付数は次のとおり。

種類	申請者数	交付者数	交付率
Aカード	626	578	92.3パーセント
Bカード	79	68	86.1パーセント
Cカード	4,515	3,986	88.3パーセント
Dカード	1,127	1,081	95.9パーセント
Eカード	5,597	5,597	100.0パーセント
計	11,944	11,310	94.7パーセント

(3) 問題点等

1) 秋田空港では、トラベルプランで把握した者の1.4倍にあたる2,781人の大会参加者が利用したため、MAC行きを余儀なくされ、結果MACに大きな負荷がかかった。

2) 一部参加者は、トラベルプランの変更を連絡済であり、ここでIDカードをもらえないのはおかしいとの強いクレームがあり、対応に苦慮した。

	当初予想人数	実際人数	差異
秋田空港	1,981	2,781	800
JR秋田駅	245	281	36
計	2,226	3,062	836

3) トラベルプランの把握に如実に現れているが、ひとつの情報が、競技担当者、輸送担当者、情報管理班の間でどのように共有されていたかが問題であり、疎通について反省すべき点である。

通信システム

1. 計画

(1) 通信設備整備

1) 通信ネットワークの基本

通信ネットワークは、秋田県が敷設管理情報ハイウェイ利用を基本とした。各競技会場にはISDN回線を臨時に敷設し、ダイヤルアップ・ルーターを介して大会本部と結ぶこととした。

2) 補完的な通信設備

補完的な通信設備は、電話系設備と無線系設備とした。

(2) 準備

通信設備整備のため、次のような調査等を実施した。

- 1) 情報ハイウェイ利用可能性調査
- 2) 需要数調査
- 3) 競技会場の現況調査
- 4) 無線機器の電波伝搬状況調査
- 5) 通信設備・機器の確保
- 6) 動作試験

(3) 大会時の通信設備の運用

本部・競技会場間は、情報ハイウェイおよび既存通信回線を利用した。

(4) メインプレスセンター (MPC)

- 1) 国際公衆電話
- 2) 個別電話
- 3) ファクシミリ
- 4) インターネット利用可能回線
- 5) 提供期間
 - ①…プレスセンター開設期間中
 - ②…24時間利用可能
 - ※ 2)～4)は個別ブースのみ

(5) 保守体制

- 1) 情報ハイウェイ…県情報企画課に依頼
- 2) 公衆電話等…NTT等通信事業者に依頼
- 3) 無線系機器…業者に依頼

(6) 予定される通信機器等の概要等

●本部

- 1) 本部はAOC事務室とし、電話回線、電話機、コピー機、パソコン、LAN等

現状設備を使用した。

- 2) 各種運営業務、ID関連作業、競技結果のデータを一元的に管理し、メインサーバとバックアップサーバを設置した。
- 3) 各種データの送受信は情報ハイウェイ経由とした。

●競技会場 (1会場あたりの機器等 - 合計18会場を想定)

- 1) 最新の大会運営スケジュールと競技結果の送受信のため、パソコンを設置した。
- 2) ISDN及びTAを使用し、常時2回線を確保した。
- 3) 電話機は1台をFAX兼用機とした。
- 4) トランシーバーは会場内連絡用として使用した。
- 5) プレスに対し、回線や機器の提供等は行わない。

●SOSセンター・他言語センター

- 1) 語学ボランティアを複数常駐させた。
- 2) 最低1回線に空きがあるように、複数回線を用意することとした。
- 3) ID確認のためにパソコンを設置することとした。

●MPC

MPCの通信設備等は、個別ブース(希望により有償で準備する)と共用スペースの両方に対応することとした。

●MAC

- 1) 常時ID発行体制を維持するため、複数のパソコンを用意した。
- 2) カード印刷用カラープリンタを用意した。
- 3) 緊急連絡用携帯電話を複数用意した。

●インフォメーション・ブース (1カ所あたり)

- 1) 最新の大会運営スケジュールと競技結果の送受信のため、パソコンを設置した。
- 2) FAX兼用電話とした。

●輸送車両

輸送用車両1台につき、携帯電話最低1機を用意することとした。

(7) 通信ネットワークに関する留意点

- 1) 情報ハイウェイ
 - ① 県情報企画課との使用協議済み

(2001年3月13日付け)

- ②通信回線の確保・ルーター設置等が必要
- 2)NTT
- ①国際公衆電話の確保
 - ②保守協力体制の構築

2. 実施内容

計画通り実施し、円滑な大会運営に資することができた。

通信ネットワークは、情報ハイウェイを幹線とし、ISDN回線によって幹線に接続した。

電話系ネットワークは、電話回線、ファクシミリ回線及びデータ通信回線を設定した。メインプレスセンター(MPC)及び競技会場には、国際公衆電話機、カード公衆電話機を設置した。さらにMPCからの要望によりEメール利用環境を構築した。

また、無線系ネットワークは、携帯電話、トランシーバー及びMCAを活用した。なお、携帯電話の回線容量が少ない雄和会場には、NTTドコモの協力により臨時のアンテナを設置し、回線確保に努めた。さらに、MPC内にはPHSの仮設アンテナを設置し、通信の確保に努めた。

保守体制については、情報管理班を一元的な窓口として、故障・クレームにあたり、迅速な対応が可能となった。

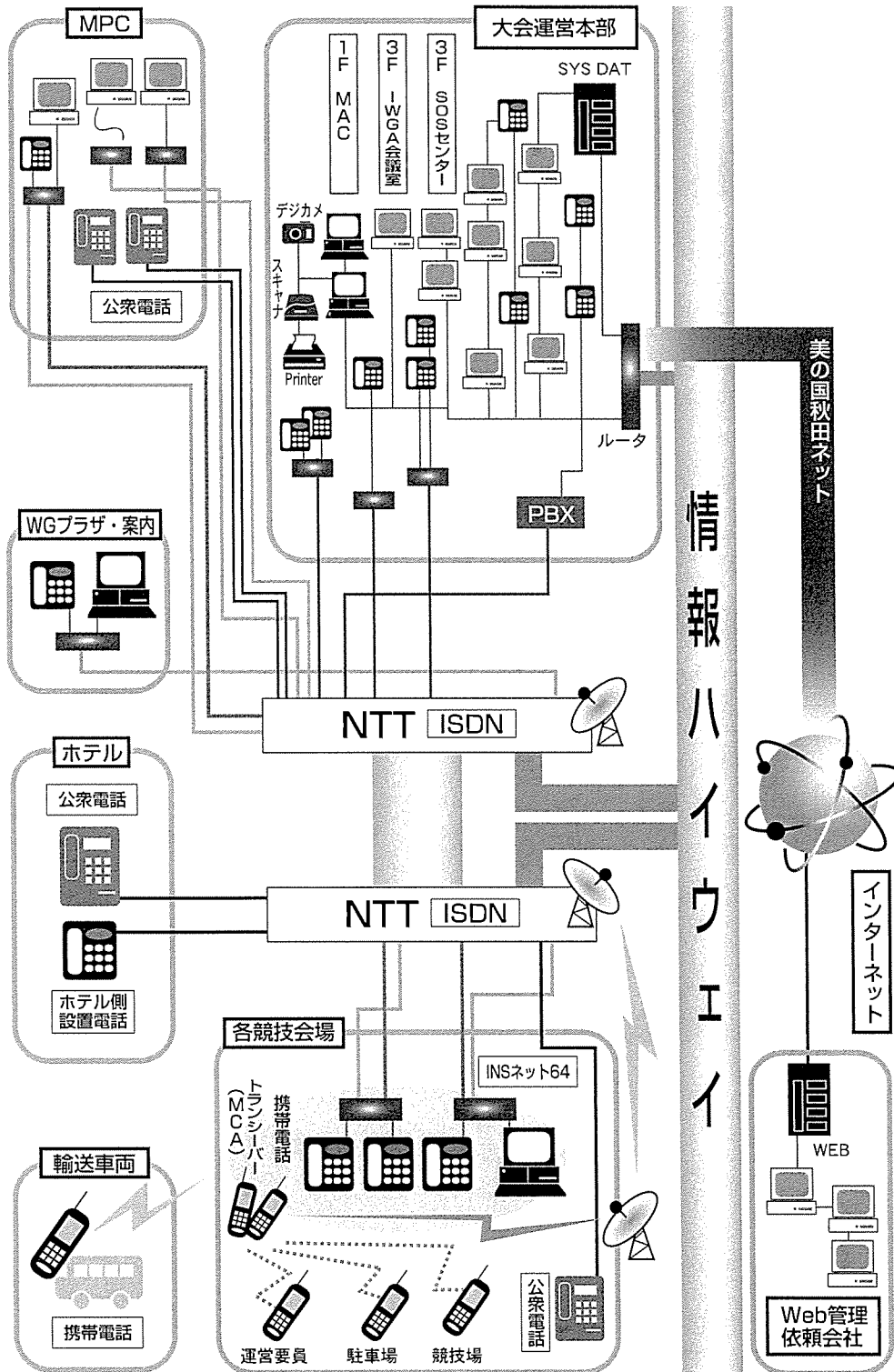
また、通信について中心的な役割を担ったNTTは、準備期間から「特別保守体制」を組み、通信系の保守連絡体制を強くサポートしてくれた。

3. 問題点等

- 1)当初、MPCにはEメール環境の構築を想定していなかったが、急遽要望され、結果一般プロバイダーとのメールアドレス取得契約を結ぶこととなった。報道委員会等を通じて、当初から想定できた案件と思われるが、大会直前の突発的な要求は情報管理班に大きな負荷をかける結果となった。
- 2)無線系のトランシーバー、MCAの利用方法について、事前周知が徹底しなかった。また、携帯電話も含め、計画

上の必要台数を過少評価したため、使用上窮屈な面があった。

3)通信システムについては、大きな混乱はなかったが、予算担当の判断を含めた計画段階での読みの甘さ(「何とかなる、大丈夫。’)が大いに反省させられる。



大会運営〔本部運営／通信〕

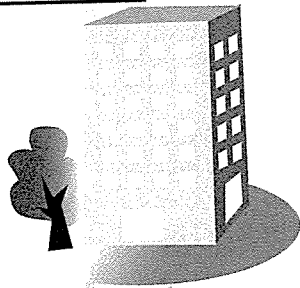
The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)

1. 情報ハイウェイの借用・・・●高速なデータの送受信が可能である。
2. ISDN・・・●競技会場から情報ハイウェイまでを64kbit/sでつなぎ、Webでデータの送受信を行う。
3. 公衆電話・・・●臨時公衆電話の設置（既設台数を増加）。
4. 携帯電話・・・●輸送車両からの連絡、および通信回線のバックアップとして使用。

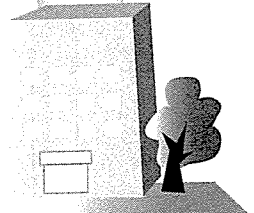
The 6th WORLD GAMES 8/16(thu)~26(sun)

大会運営 (本部運営/通信)

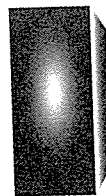
総合庁舎
RAS



1500



INS64



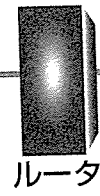
ダイヤルアップルータ

PC 1台



情報ハイウェイ

第二庁舎



ルータ

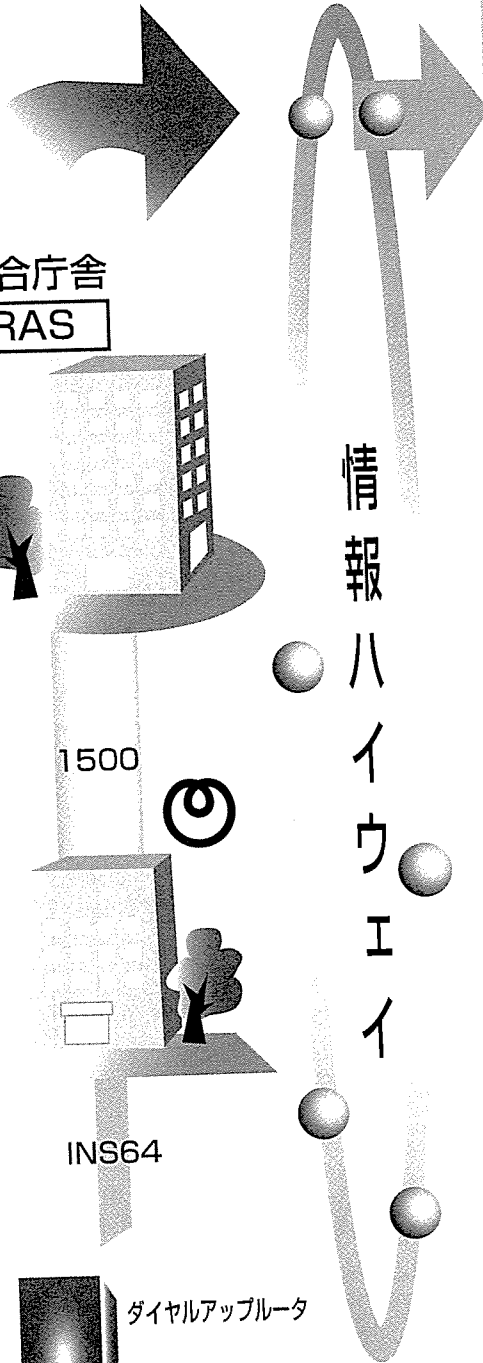
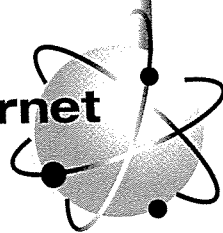
サーバ



美の国 Net

1.5M

Internet



ボランティアおよび民間業者の語学研修

1. 目 標

英語をはじめとする外国語の会話能力があるボランティアに対し研修を実施し、その語学力を一層高める。また、タクシー、小売店、銀行、郵便局、ホテルなどの従業員に対しても、基本的な英会話研修を実施し、外国人の利用者に対応できるようトレーニングを行う。



2. 体 制

総務部渉外班がこれらの研修事業を所管し、研修計画に基づいて準備・実施した。

3. 募集と教育

ボランティア登録者に対しては、2000年4月から、英語に加え、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、ロシア語、中国語、ハンガルの7カ国語について、全県最大12市町村において毎週1回、1時間から1時間半の研修を実施した。講座数は計115、延べ受講者数は約1,600人であった。

各業種の従業員に対する英会話研修については、2000年9月より各企業からのリクエストに応じて実施し、県内11市町村において延べ290講座を開講、約1,700人が参加した。

4. まとめ

ボランティアの語学研修については、英語は希望者が多数あり講師や会場の確保が困難となるケースもあった。一方、逆にイタリア語などは講師が確保できず、実施できなかった。

業種別の英会話研修は、1年以上前か

ら研修を実施していたが、業務の合間をぬって参加している状態で継続的な学習が困難であった。企業側の協力体制にもよるが、大会直前に一定期間集中的な研修が行えれば、より効果があがったのではないかと思われる。

実施概要

	受講者数(延数)	講座数	開催市町村数
業種別英会話研修	1,696	290(延べ)	11
ボランティア語学研修	1,580	115(開講数)	(最大)12



大会運営【本部運営／ボランティアおよび民間業者の語学研修】

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)～26(Sun)

保 険

1. 計 画

保険の種類

(1) 普通傷害保険(レクリエーション保険)

ボランティア等の運営スタッフ及び式典等の出演者(延べ34,000人)に対し、大会期間中(会場設営期間、リハーサルを含む)のまさかの事故に備え、傷害 保険、賠償責任保険に加入することとした。

大会関係施設へ入場する観客(概算延べ130,000人)に対し、施設入場者傷害危険担保の保険に加入することとした。

(2) 施設賠償責任保険

大会関係施設へ入場する観客(概算延べ130,000人)に対し、借用施設管理者として、第三者への賠償責任保険に加入することとした。

(3) 興業中止保険

天候等に起因するイベントの中止による損害を担保するため、開会式及び屋外競技開催に対し、費用補償保険に加入することとした。

(4) 受託者賠償保険

借用施設内の動産に対し、火災、破損等所有者に対して負担する賠償責任を担保するため賠償責任保険に加入することとした。

(5) 動産総合保険

関係機関から借用する物品(テント等)に対し、所有者に対して負担する賠償責任を担保するため賠償責任保険に加入することとした。

2. 実施内容

計画の通りスポンサーである安田海上火災保険(株)と契約した。

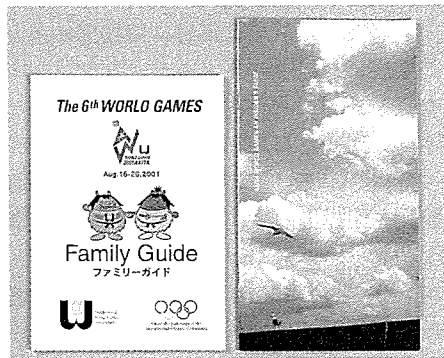
期間中普通傷害保険対象案件2件、受託者賠償保険対象案件2件の事故が発生し保険手続きを行った。

観客サービス

1. ウェルカムハンドブック

県ワールドゲームズ推進室では、本県での滞在情報、競技開催8市町村の紹介等を掲載した、外国人選手、役員及び外国人観光客向けの英文ハンドブック8,000部を作成し、競技開催市町村、選手・役員宿泊先、インフォメーションブースで配布した。

2. 外貨両替サービス



県内交通拠点及び拠点ホテルに臨時両替所を設置し、外貨両替サービスを行うこととしたが、結果的に銀行窓口の通常営業での対応とし、臨時両替所の設置は行わなかった。

競技団体を通じて外貨両替体制の事前周知を図ったほか大会参加者に配付のファミリーガイドに情報を掲載し、徹底を図った。

従前より実績のある2つの宿泊施設（秋田キャッスルホテルおよび秋田ビューホテル）に協力を依頼し、宿泊者以外への対応を行った。

3. 競技別プログラム

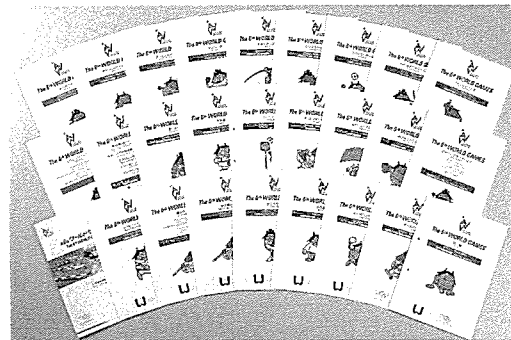
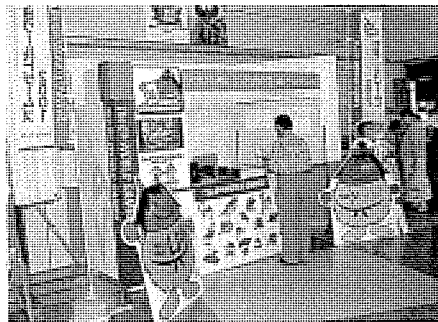
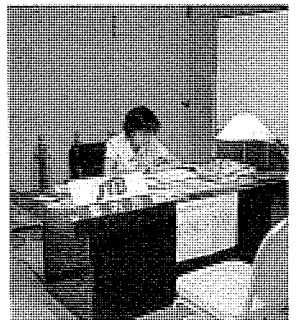
観客やメディアへのサービスおよび業務用として、競技別のプログラムを作成することとした。各競技連盟が独自に編集してAOCが印刷費を負担する方法と、各競技連盟にAOCから印刷費の一部を補助する方法を提示したところ、前者を選択したのが19団体、後者を選択したのが国際体操連盟傘下のエアロビック、新体操、トランポリン、タンブリング、スポー

ツアクロ体操の5団体を含め11団体であった。

競技別プログラムとは言え、会長挨拶や本部連絡先、チケット管理センター連絡先など全競技共通の情報についてはもれなく掲載する必要があり、また、それぞれの競技別プログラムにある程度の統一性を持たせるため、表紙及び裏表紙を含む4頁分については、AOCで版下を作成して各競技団体に支給した。

基本的に日・英併記であること、各競技の進行・対戦表・選手リストを掲載すること、できるだけ各競技のルール等の説明も加えること、をAOCから依頼した上で、原稿作成・構成及び作成部数（最小800部から最大7,000部）を各競技団体に一任して作成した。

完成したプログラムは各会場において観客向けに有料（一部無料）で配布され、競技観戦の手引きとして利用された。



大会運営「本部運営／観客サービス」

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)～26(Sun)

競技運営（総括）

1. 組織

(1) 専門責任体制

大会運営本部のもとに競技会場部を置き、安田幸男 AOC事務局長が統括した。佐藤典スポーツディレクターは、IWGAとの連絡調整に当たった。

31競技毎に専門の担当者2人を配置し、この2人がそれぞれの競技運営・会場運営に当たった。大会期間中は、本部の競技会場部4人が24時間体制で、各競技専門担当者との連絡調整を行った。

この専門責任体制は2000年4月からスタートし、各担当者は各競技団体調整担当窓口であるテクニカルデリゲート（TD）及びIFと、競技用具の手配・輸送方法、施設整備等について幾度となく協議を重ねた。唯一、水上スキー・ベアフト用ボートのIF手配の約束が守られなかったことが非常に残念であるが、結果的には、各競技毎の2人の専門責任体制が各競技をスムーズに運営できた要因だと考えられる。

(2) 基本的な運営体制

各競技会場には、競技会場本部を置き、各競技専門担当者2名がそれぞれ競技運営部長と会場運営部長に就き、責任者として運営を実施し、AOC本部との調整を行った。

主に以下の班体制・係を基本としていたが、各競技会場毎に競技及び会場の特性に合わせて、運営体制を決定した。

競技会場本部

競技運営部

競技運営部長

総務班 総務係、役員・審判員係

選手器具管理班 選手管理・召集・誘導係、器具運搬係

競技進行班 競技会場係、練習会場係

競技記録班 記録係、速報係

会場運営部

会場運営部長

総務班 総務係、庶務係、接遇・控え室係、受付案内・入場券

販売係、ボランティア係

報道広報班 報道・放送係、広報係

施設管理班 施設管理係、清掃美化係、会場設営係

警備交通班 警備係、観客整理係、駐車場係

医療救護班 救護係

式典表彰班 進行係、表彰係、選手確保・誘導係、音響係・放送係、掲揚係

(3) 当日の連絡体制

各競技においては毎日、競技開始前と終了後に、選手のスターティングリストや競技スケジュール確認のためのミーティングが持たれた。

変更等があった場合には、TDから各競技専門担当者に、そして競技会場部およびメインプレスセンターに連絡が入り、メインプレスセンターでは、報道関係者に最新の選手リストや最新のスケジュールが配布された。

2. 競技チケット及び観客対応

(1) チケット販売後の日程変更

各競技の観戦前売チケットの販売を開会式の半年前から開始した。AOCは、チケット発売後は競技日程の変更を避けるように事前に各IFに繰り返し要請した。しかしながら、本番1～2ヶ月前になって、体操系競技とローラーホッケーで、日程変更が生じ、ファウストボールでは1チームが不参加となったため、競技日程の変更を余儀なくされた。このため、日程変更を知らずにいた前売り券購入者から、苦情が寄せられた。

また、空手道においては2日目の競技スケジュールを数名の競技進行者のみの独断で変更してしまい、取材に行った報道関係者からの苦情でAOCも初めて知った、という事態があった。このため、AOCは空手道のIFに対し抗議文を出し、他のIFに対しても競技日程を勝手に変更することの無いよう文書で申し入れた。

(2) 休憩時間を必要とする競技チケット

フィンスイミング、ライフセービング、ローラーホッケーは、同一日の競技中に、数時間の休憩時間を取らざるを得ない競技であるが、この休憩時間中に、観客が一斉に帰ってしまい、競技再開時には観客もマスコミもほとんどいない、という現象が生じた。

AOCではこれを避けるため、当日券を二度に分けて販売するなど試みたが、次回大会からは、該当IFでも、この問題を検討すべきである。

(3) まとめ

大会前からのTDとの周到な打ち合わせにより、各競技とも競技日数は適正であった。ラハティ大会の反省を生かし、終了時間が早まりそうな競技にあってはあらかじめ観客との交流イベントやエキシビジョンマッチを用意することで、観客を退屈させない工夫をした。その結果、観客からは大好評を得た。

3. 競技数と参加者数**(1) 各競技の参加選手**

参加競技と参加者数はIWGAが決定し、各IFに招待状と実施種目、授与メダル数、選手・役員数、AOC提供の宿泊日数等を明記したパスポートを発送した。

参加選手数は、ほとんどの競技で予定数を下回り、補充の効かない直前での不参加表明が多かった。団体競技でも直前のキャンセルがあり、競技日程や配宿作業などに大きな影響を被った。いくつかのIFからは、減った選手数分を役員数に振り替えるよう要請されたが、AOCは受け入れなかった。

参加者の変更は、AOCの予測をはるかに超えて多く、しかも、競技開始直前まで続き、開会式の8週間前までの参加申請というルールは、全くの有名無実だった。

(2) 各競技の役員

IWGAから発送されたパスポート記載の役員数では競技運営ができないIFが多い。この場合、開催国の競技団体に多大な経費負担が掛かるが、これを負担しようという意志のあるIFは少なく、今後のワールドゲームズ運営にとって大きな課題である。

日本の国内競技連盟及び秋田県の競技団体の協力なしには第6回ワールドゲームズの成功はあり得なかった。

大会に参加したIF役員数は、IWGAがパスポートで承認した数をはるかに上回った。パスポート内の役員数は420人余りであったが、実際は1,861人が参加した。これらの役員は主に監督、コーチ、トレーナー、審判員などのほか、日本の国内競技連盟からの競技運営要員だった。

4. 競技レベル

IWGAと秋田県の間で交わされた契約書では、IWGAは、ワールドゲームズの競技レベルが世界最高水準となることを保障し、参加各IFもトップレベルの選手を派遣することに最大限の努力を払うことになっていた。しかし、日本でも人気のあるいくつかの競技では、直前まで選手が決まらず、そのレベルも世界トップであるかどうか疑問の声もあった。

IWGAのサポートも得られたが、結局はAOCが、マスコミの認知度の高い競技のIFと直接交渉をせざるを得ず、また、交渉結果は、必ずしも満足できるものではなかった。

5. 広域開催

秋田大会はワールドゲームズ史上初めての広域開催となった。ボウリング、コーフボール、水上スキー、パラシューティングなどの競技が、秋田市から車で1時間程度かかる場所で開催された。

しかし、それぞれの開催場所で選手・役員のもてなしに気を配り、様々なイベントで大会の盛り上げを図ったため、これら競技のIFからは好評を得た。

また、本部ホテルからこれら開催場所まで競技時間に合わせ毎日シャトルバスを運行したほか、上記4競技では他競技との交流を図るために、宿泊を一泊多くすることでIWGAと合意した。

6. 観客数

競技観戦の入場者総数はAOCの予想を大幅に上回った。日本国内ではほとんど知名度がなく、観客数の予想さえ困難だった競技もある中での盛況ぶりであった。感動を呼んだ開会式が、その後の各競技に波及したものと思われる。特に、パラシューティングは、期間中約3万人の観客があり、最高の観客数を記録した。

前売り券の売れ行きは、一部競技を除いてさほど芳しくなかったが、当日券は、多くの競技において発売1時間後には売り切れた。ただ、競技運営上、数時間の休憩時間を置かざるを得ない前述した3競技においては、当日券が売り切れているにもかかわらず、再開後の会場には空席が目立ち、再開後の入場券を求めてきた人々から「席が空いているのにどうして入場できないのだ」との苦情があった。

7. 課題

AOCとしては、今後のワールドゲームズの発展のために以下の三点についての課題を解決する必要があると考えている。

(1) 開催直前まで選手の参加が確定しないため、期待感の醸成につながらない。とりわけトップレベルの選手の参加決定が、メディアに対して重要なPR機会となることを認識する必要がある。

(2) ワールドゲームズへの参加ルールの詳細が、各IFから参加資格を得た国内競技団体(NF)に伝えられていないため、IWGAパスポート記載人数に与えられた権利(費用負担の原則)とそれ以外の参加者に与えられた権利とに、参加NFは区別が付いていない。この点について

は、IWGAの確認も不十分ではないかと思われる。

(3) TDの処遇をきちんとしていない。すなわち、各IFは大会準備期間中、代表者であるTDに情報提供や経済的な面で何らの支援もしていない。

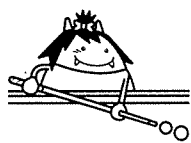
競技の知名度が開催国で低い場合やTDが開催国に住んでいない場合には、さらにその必要性が高い。

国・地域別メダル数一覧

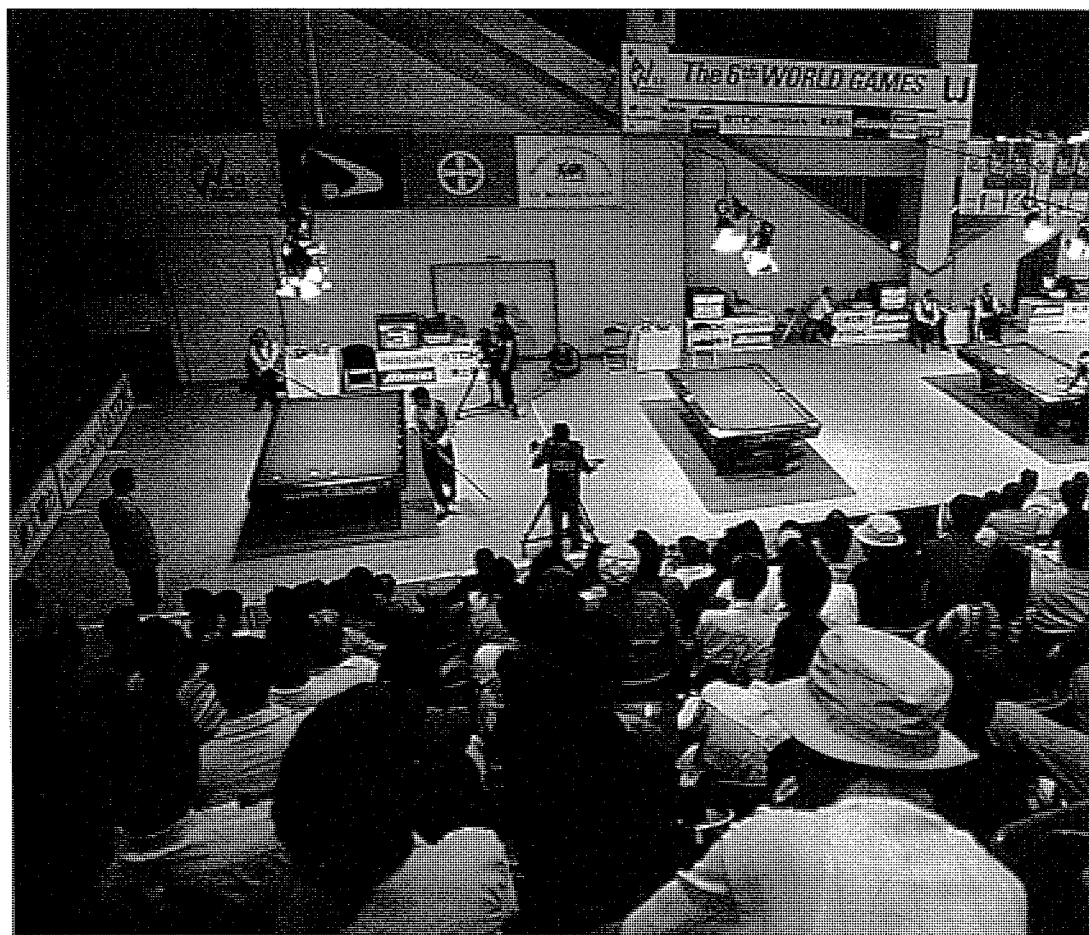
国名	公式競技 金メダル	公式競技 銀メダル	公式競技 銅メダル	公式競技 合計	公開競技 金メダル	公開競技 銀メダル	公開競技 銅メダル	公開競技 合計
ロシア連邦	24	15	5	44	2		3	5
アメリカ合衆国	15	8	8	31			1	1
フランス	12	5	6	23				
ドイツ	10	10	15	35	2	4	1	7
オーストラリア	10	10	3	23				
イタリア	9	11	8	28				
日本	9	6	10	25	5	4	2	11
スペイン	5	4	1	10	1	1		2
オランダ	4	3	3	10	1		1	2
南アフリカ	3	7	4	14				
コロンビア	3	5	5	13				
ベルギー	3	4	4	11				
チャイニーズ・タイペイ	3	3	5	11		1		1
イギリス	2	6	11	19				
中華人民共和国	2	6	5	13			1	1
スウェーデン	2	4	9	15				
ノルウェー	2	2	3	7				
ブルガリア	2	1	2	5				
デンマーク	2	1	1	4				
イングランド	2			2				
オーストリア	1	4	2	7				
ニュージーランド	1	2	1	4				
ギリシャ	1	2		3				
スロベニア	1	1	3	5				
リトアニア	1	1	1	3				
ポルトガル	1	1	1	3				
スロバキア	1	1	1	3				
カナダ	1	1		2				
ルーマニア	1	1		2				
フィンランド	1		4	5				
エジプト	1		1	2				
ポーランド	1		1	2				
ウクライナ	1			1	1			1
カザフスタン	1			1				
北アイルランド	1			1				
フィジー	1			1				
グアテマラ	1			1				
ブラジル		3	1	4			2	2
ベネズエラ		2	1	3				
大韓民国		2		2				
スイス		2		2				
ベラルーシ		1	7	8	1			1
チェコ共和国		1	2	3			1	1
ハンガリー		1		1				
フィリピン		1		1				
ルクセンブルグ		1		1				
スコットランド		1		1				
アルゼンチン			2	2				
ユーゴスラビア			1	1				
ボスニア・ヘルツェゴビナ			1	1				
マダガスカル			1	1				
パキスタン			1	1				
エストニア						2		2
モンゴル						1	1	2

大会運営〔競技運営／国・地域別メダル数一覧〕

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)～26(Sun)



公式競技【ビリヤード】Billiards



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕 プール、キャロム、スヌーカー

〔女子〕 プール

●参加選手数/62人 (参加枠/各16人、合計64人)

●参加国・地域/27

●国際競技団体名: 世界ビリヤードスポーツ連合(WCBS) ●本部所在地: マレーシア ●加盟国(地域)数: 57

ビリヤード

8月22日(水)～26日(日)／セリオンプラザ

8月21日(火) 公式練習
 22日(水) 午前9時～1回戦
 23日(木) 午前10時～1回戦
 24日(金) 午前10時～準々決勝
 25日(土) 午前10時～準決勝
 26日(日) 午前10時～決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

世界ビリヤードスポーツ連合(WCBS)の原案を基に、日本ビリヤード協会を通じて調整を行い決定した。

(2) 会場利用計画等

セリオンプラザを競技会場及び会場運営本部・選手控え室、セリオタワーを練習会場及び役員等控え室・運営要員控え室として使用することとした。また競技会場には仮設スタンドと仮設エアコン・仮設照明を設置、練習会場には仮設照明を設置した。

競技に使用する用具については、競技団体が調達することとした。

(3) 運営体制

支援職員及びボランティアを各部・班別に配置し、会場運営にあたった。競技運営部には語学ボランティアを多く配置し、選手等への対応や競技会場におけるアナウンス業務を担当することとした。

また、会場運営部では、警備班業務に秋田県ビリヤード協会の協力を仰いだ。

運営業務に携わるボランティア及び支援職員の研修を5回にわたり実施した。

(4) TD会議における検討事項

TDとは、会議の他、電話やメールでの連絡を密にして調整を進めた。

2001年3月22日WCBS事務総長の来秋時には、IFとAOCの業務分担や、仮設物・物品の調達、会場レイアウト、タイムスケジュールなどについて検討した。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

選手の体調不良により、不戦勝が2試合あった。その他には当初心配されていた競技時間の延長もほとんどなく、スムーズな競技運営となった。

(2) 会場運営

食事や輸送時間に関して、選手役員等からの要望が多かった。しかし、競技団体の宿泊・輸送担当者の協力を得て、昼夜2回の食事やバス時刻の変更など、臨機応変に対応することができた。

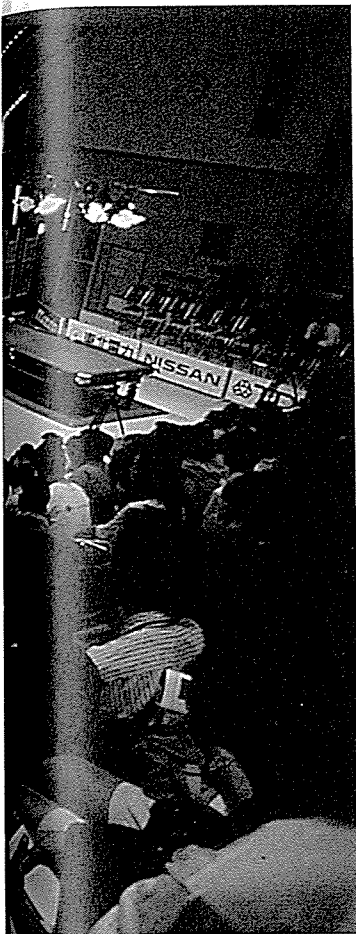
メディアに対しても、撮影禁止エリアへの立ち入りを注意することがあったが、競技団体の担当者が適切に対応し、トラブルとはならなかった。競技終了後の取材も大きな混乱はなく、スムーズに進行した。

開催期間が長期に渡ることによる要員の不足が懸念されたが、個々のスタッフの頑張りもあり、大きな支障もなく運営された。

ボランティアについては、担当係により業務量に若干の偏りが出てしまった面はあったが、ボランティアのあたたかみのある対応や懸命な姿勢が、様々な場面で運営を支える力となった。

(3) 観客の状況と対応

毎日250人前後の観客が来場し、選手や関係者等を含めると約300席の観戦席は連日フル稼働であった。ただ、1日通しての入場チケットであったため、時間帯によっては空席が目立つ状況も若干見受けられた。





公式競技【ボディビルディング】BodyBuilding



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】バンタム級(-65kg)、ライト級(-70kg)、
ウェルター級(-75kg)、ミドル級(-80kg)、ヘビー級(+80kg)

【女子】ライト級(-52kg)、ヘビー級(+52kg)

●参加選手数/55人(参加枠/男女、計56人) 参加国・地域/22

●国際競技団体名：国際ボディビル連盟(IFBB) ●本部所在地：カナダ ●加盟国(地域)数：172

ボディビルディング

8月18日(土)・19日(日) / 秋田市文化会館

8月18日(土) 予戦
19日(日) 決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

2001年5月までは9カテゴリーの競技を実施する予定で準備を進めていたが、ワールドゲームズへの参加選手枠が56人と決まっていたことから、男子を5カテゴリー、女子を2カテゴリーとし、1カテゴリーあたりの選手を8人以上になるように変更することをIFの決定事項として連絡を受けた。このためTDと連絡を取り、若干の競技時間の変更が生ずるが大きなスケジュール変更の必要はないということを確認し、原案を調整することで対応することにした。

(2) 会場利用計画の検討と決定の経緯、及び仮設設備の導入経緯

競技会場の利用計画については、当初計画案により実施することでIFと確認をした。壁や床等にオイル・カラー類が付着することを未然に防ぐため、選手が使用する箇所の養生を行う必要があり、日本連盟担当者との調査により選手の導線案を詰めた上で、会場施設職員との協議を行い、専門業者に養生業務を委託することとした。

競技ステージ上のギリシャ柱・屋根の設営及び運搬については、日本連盟の責任で行うこととした他、ポージング台の設営は、秋田市文化会館にある備品を利用して行い、作業は専門業者に委託することとした。

また、アップ場の練習用器具は、秋田県ボディビル連盟が手配し、運搬、設置及び管理を行うことで了解を得た。

(3) 運営体制

競技運営については、競技団体が責任をもってあたることとし、補助的な業務については組織委員会が協力することとした。

会場運営については、組織委員会が業務別に担当班を編制して業務を行うこととした。

ボランティア等の運営スタッフの配置にあたっては、業務の従事が長時間に及ぶ日があることから、十分に人員を確保し、

交替勤務が可能になるように配慮をした。また、配置業務に関しては本人の希望を優先するとともに、経験のある関連業務への従事を考慮した。

事前の研修を競技前日の業務リハーサルを含めて4回実施した。

研修は、秋田県連盟の協力を得て、競技の概要を把握すること及びお互いの意志疎通を図ることから始め、順次、班別の業務研修、現地研修を行い、実際の業務の現場や選手、役員等関係者の導線についての共通理解を図った。また、会場の施設職員から防災上の留意点や緊急時の避難経路についての指導も受けた。

大会初日の前日には、最終確認ミーティング、式典関係リハーサルを実施し、細部にわたる業務の確認・修正を行った。

2. 運営と結果について

1) 競技運営

競技スケジュールの変更はなかったが、1日目のプレジャッジの進行が予定より早く進み、約1時間早く競技が終了したため、輸送バス等の手配に追われた。しかし、本部の柔軟な対応により混乱は回避できた。

(2) 会場運営

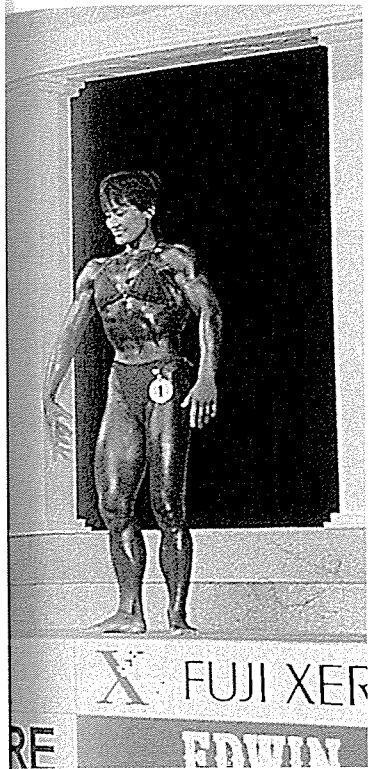
各班ごとに中核支援職員、一般支援職員、ボランティア要員という構成にして、ボランティアのみが対応に苦慮することがないように配慮した。また、集合時と解散時に班長を中心にミーティングを開いて情報交換を行い、一部に負担が集中しないように努めるとともに、改善が可能な事項についてはできるだけ早めの対応を心がけた。

ボランティア自身も各自の業務以外でも協力して業務に関わる姿勢が多く見られ、観客や選手・役員に対しても丁寧な対応がなされていた。

メディアの対応については、大きなトラブルの発生はなかった。記者会見についても、報道広報班が機敏に対応したことにより、順調に実施することができた。

3) 観客の状況と対応

2日間ともほぼ満席の中での会場運営であったが、特にトラブルは発生しなかった。当日券を求めて早くから行列ができたため、予定時刻よりも早く要員の業務を開始して観客の整理・誘導にあたった。





公式競技
【ブルスポーツ】Boules Sports



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】スポールブル：プログレッシブ(ダブルス), ベタンク：(トリプル)

【女子】スポールブル：プログレッシブ(ダブルス), ベタンク：(ダブルス)

●参加選手数/54人(参加枠/計6チーム、54人) 参加国・地域/14

●国際競技団体名：世界ブルスポーツ連合(CMSB) ●本部所在地：モナコ ●加盟国(地域)数：70

ブルスポーツ

8月17日(金)～19日(日)／ワールドゲームズブラザ

8月17日(金) 公式練習・予選
18日(土) 予戦
19日(日) 決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程等

スケジュールについては、世界ブルスポーツ連合(CMSB)、日本スポールブル連盟(FJSB)、日本ペタンク連盟(FJP)とAOCで協議の上、決定した。

(2) 会場利用計画等

ブルスポーツ競技は、ワールドゲームズブラザ(旧日赤病院・婦人会館跡地)で行われた。競技を行うための施設ではないため、ブルスポーツ会場内には競技運営に必要なコート・各種控室等はなく、すべて仮設で対応した。更に、選手控室については隣接するホテルの一室を借り上げた。

なお、実施計画では観客席数は仮設スタンドで500席としていたが、コート等のレイアウトの結果、会場が狭かったため、仮設スタンド300席とし、不足分はパイプ椅子で対応することとした。

また、競技を行うための施設ではなかったため、競技に必要な用具はすべて新たに準備しなければならなかった。競技団体が競技に必要な用具(ボール、ボールスタンド等)を準備し、AOCはコート・運営用テント・仮設スタンド等会場の整備を担当することとした。

3) 運営体制等について

運営体制のうち、競技運営部分はCMSB、FJSB及びFJPが担当し、補助的業務(コート整備補助等)をAOCで行うこととした。競技以外の会場運営業務(警備、清掃等)はAOCが担当することとした。なお、競技団体関係者の受付については秋田県スポールブル連盟の協力を得ることとした。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

スケジュール変更及び試合の遅れ等が若干発生したが、全体に影響するほどのことはなくスムーズに運営された。ただ、競技運営で最も支障となったのが隣接するお祭りステージ・広場からのいろいろな音響であり、選手の集中力がそがれるなどの影響があり、選手及び役員、観客からたびたび苦情が寄せられた。そのため、音量などを規制するように申し入れた結果、一部プログラムの変更など若干の改善はみられたが、根本的な解決にはならなかった。

(2) 会場運営

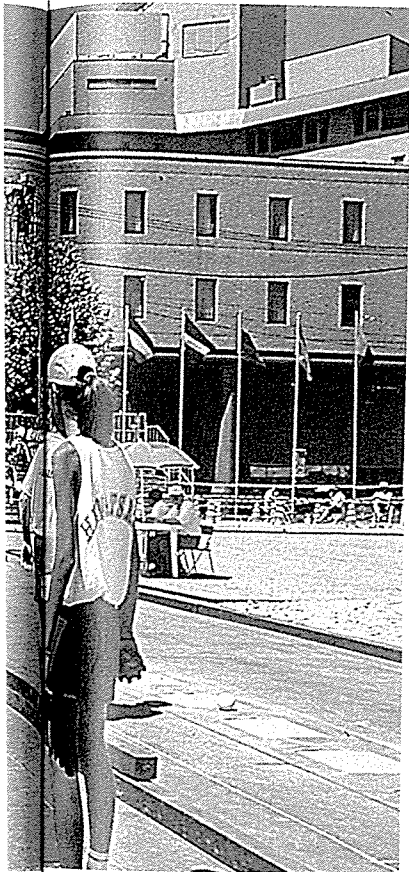
会場準備から大会本番の4日間(一部は5日間)は快晴続きで、直射日光下の暑い中での業務となったが、運営スタッフは与えられた業務を確実にこなしながら、休憩時には他の業務を手助けする積極的な姿が随所にみられた。

中でも、ボランティアの半数近くを占めた高校生たちは、積極的に業務をこなした大きな力となった。

また、連日、国内外合わせて10社程度のメディアの来場があった。求めに応じて速報の配布や各種問い合わせへの対応を行った。概ねルールに沿っての取材活動が行なわれ、特別なトラブルの発生は無かった。

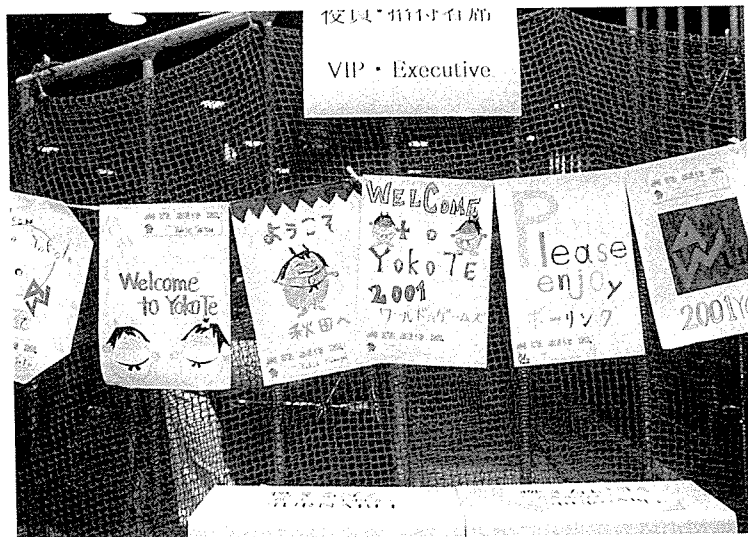
(3) 観客の状況と対応について

連日、多数の観客の他、他競技の選手・関係者も多く来場し、300人収容の観客スタンドはほぼ満席となることもあったが、係員の指示・誘導により混乱は特に発生しなかった。観戦・応援の観客のマナーも良く、競技団体も時折競技状況の解説を行うなど、サービスに努めた。





公式競技【ボウリング】Bowling



秋田大会実施種目・参加選手数

- 〔男子〕・〔女子〕 シングルス
- 〔男女混合〕 ミックスダブルス
- 参加選手数/48人 (参加枠/男女24人、計48人) 参加国・地域/24
- 国際競技団体名: 国際柱技者連盟 (FIQ) ●本部所在地: アメリカ ●加盟国(地域)数: 97

ボウリング

8月21日(火)～23日(木)／横手市 台由(うてなゆ)ボウル

8月20日(月) 公式練習
21日(火) ミックスダブルス予選
22日(水) シングルス予選・ミックスダブルス決勝他
23日(木) シングルス決勝

計画と準備状況

(1) 競技日程

実施種目及び競技日程については、第5回ラハティ大会を参考にして国際柱技者連盟(FIQ)が決定した。競技日は、選手役員に提供する横手市のホテルの繁忙期を避け、かつ、IWGAによる全競技の競技日程調整の結果、決定された。

(2) 会場等利用計画

平成11年10月、FIQ会長の来秋の際に、(財)全日本ボウリング協会(JBC)・秋田県ボウリング連盟・台由株式会社(台由ボウル)・AOCとが競技会場の利用について様々な確認を行い、競技レーンの利用方法や各控室の利用計画について協議して決定した。また、既存の観客席がないため、施設内に仮設スタンドを設置することも決定された。

競技会場内におけるメディアの取材エリアについても検討事項となった。カメラ撮影については、当初、プレー中の選手の視界に入り、競技に支障がでるとい理由で、撮影スペースが制限されたが、交渉の結果、使用しない端のレーン上にカメラゾーンを設置することが了承された。

競技レーンの整備・競技使用ピンの購入・レーンメンテナンスマシンの手配は、台由ボウルが行った。使用ボール検定のための、硬度計(ボールの硬さを検定)・バランスー(ボールのバランスを検定)は秋田県ボウリング連盟が手配した。検量器(台秤)については、AOCが手配した。

(3) 運営体制

競技運営体制は、FIQ・JBC・秋田県ボウリング連盟により構成され、競技の運営統括はFIQであるが、開催国競技団体であるJBCが競技運営全てにわたり取り仕切ることになった。また、スコアラーや審判員等については、秋田県ボウリング連盟が担当することとした。

AOCは、競技運営以外の警備・駐車場・観客整理・選手管理等の会場運営部分を行うこととした。会場運営に携わる支援職員及びボランティアの全体業務研修は、3回にわたり開催され、業務の内容、スケジュール等について理解を図った。また、記録担当者による記録集計リハーサル及び式典のリハーサルも行われた。

4) その他

本大会の競技方法については第5回ラハティ大会の競技ルールを参考にし、ミックスダブルスでは男子・女子1人ずつが予選を行い、上位3チームがファイナルマッチステップラダーに進出する方式とした。

男子・女子シングルスについては、シングルス予選とミックスダブルスの予選のスコアを合計したトータルスコアにより男子・女子上位10人を決定し、10人によるラウンドロビンポジションマッチを行い、男子・女子上位3人がファイナルマッチステップラダーに進出する方式が採用された。

2 運営と結果

1) 競技運営

競技スケジュールは、若干遅れる場面もあったが、レーンメンテナンスの時間調整により、終了予定時刻に大きな乱れは生じなかった。

競技記録担当から速やかに競技情報の提供があり、競技結果の報告はスムーズに行えた。ただ、競技結果の入力については、多少の入力トラブルがあったため遅れる場面もあったが、次の日まで持ち越されるような最悪の状況は避けられた。

(2) 会場運営

競技第1日目の8月21日(火)に台風接近に伴う緊急対策として、会場周辺に設置されているテントの撤去作業を行った。その結果、そのスペースを一般観客の駐車場として利用することができ、車両誘導がスムーズに行えた。

運営については、各班長の的確な指示によりボランティアがそれぞれの班業務を確実にこなし、運営上のトラブルは発生しなかった。

メディア対応については、それぞれの優勝者に対しての記者会見を実施した。当初、雇用通訳が会見の進行や通訳を行ったが雇用通訳のみでは進行に支障をきたしたため、JBCに会見の進行・通訳補助を仰ぎスムーズな記者会見が実施された。

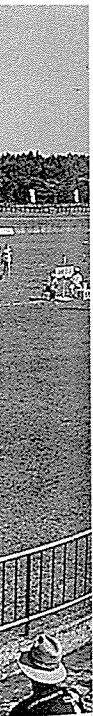
(3) 観客の状況と対応

総観客席数は200席であったが、観客は2～3時間の観戦で帰るという傾向にあり、新たに入場券を買い求める観客に対しては、会場内の観客の数や動きをみながら随時当日券を販売して入場させた。





公式競技 【キャストング】Casting



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】・【女子】 フライ正確度、フライ片手投げ距離、
マルチプライヤー(ベイト) 正確度

- 参加選手数/48人(参加枠/男子36人・女子12人、合計48人) 参加国・地域/12
- 国際競技団体名: 国際キャストング連盟(ICF)
- 本部所在地: スウェーデン ●加盟国(地域)数: 38

キャストング

8月22日(水)～24日(金)／秋田県立中央公園球技場

8月21日(火) 公式練習
22日(水) (台風のため中止)
23日(木) 予戦
24日(金) 予選・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程等

2001年3月に日本代表選手決定の最終大会を視察し、審判の位置や競技ルール等について確認した。また、日本代表選手決定の最終大会ということで、事前に選手たちと会うこともできた。大会は競技の特性上、見せるよりも自分たちが実際に参加して楽しむことが主だったが、ワールドゲームズではいかにして観客に楽しく見てもらうかが課題と考えられた。

(2) 会場利用計画等

競技で使用する投擲台、ターゲットなどの用具については競技団体が準備することとし、特に今回はフライ片手投げ距離で計測計を初めて使用することとなり、4台(1台約12万円)が準備された。AOCは、スポーツタイマー、テント等の準備と競技用具の運搬を行うこととした。

その他の用具については、既存施設や競技会場にあるものをできるだけ活用し、財政負担の軽減を図ることとした。

(3) 運営体制

競技運営については競技団体が行うことを確認したが、競技団体より記録補助としてボランティアの配置依頼があった。

TDとの打ち合わせでは、競技運営マニュアルの検討と準備や役割等の確認がされたほか、選手役員の宿泊や輸送についても話し合われた。

2. 運営と結果

(1) 競技・会場運営

8月20日、IF会長はじめ役員、日本協会運営スタッフが雄和会場を訪れ、用具と場所の最終チェックと打ち合わせを行った。21日の午後からは公式練習が行われ、国際審判と運営スタッフの打ち合わせも行われたが、台風の秋田への影響が確実になり、22日以降の競技実施につい

での日程の変更を余儀なくされた。

最終的に22日の競技1日目は中止となり、22日～24日の3日間で行われる予定であった日程を23日と24日の2日間に短縮し実施した。

これにより、選手役員の輸送時間、競技開始時間等スケジュールの変更、昼食のランチボックスへの変更などの影響があった。

なお、24日の体験イベントは予定通り行われ、小学生・一般およそ200人が楽しんだ。表彰式は、ワールドゲームズプラザで予定通り行われた。

競技団体では、観客が競技の内容を知り楽しく観戦してもらうために、場内アナウンスで解説を行った。

競技運営では、18人のボランティアと10人の支援職員が運営の補助を行った。台風の影響もあり、当初予定していた業務よりも多くなった。

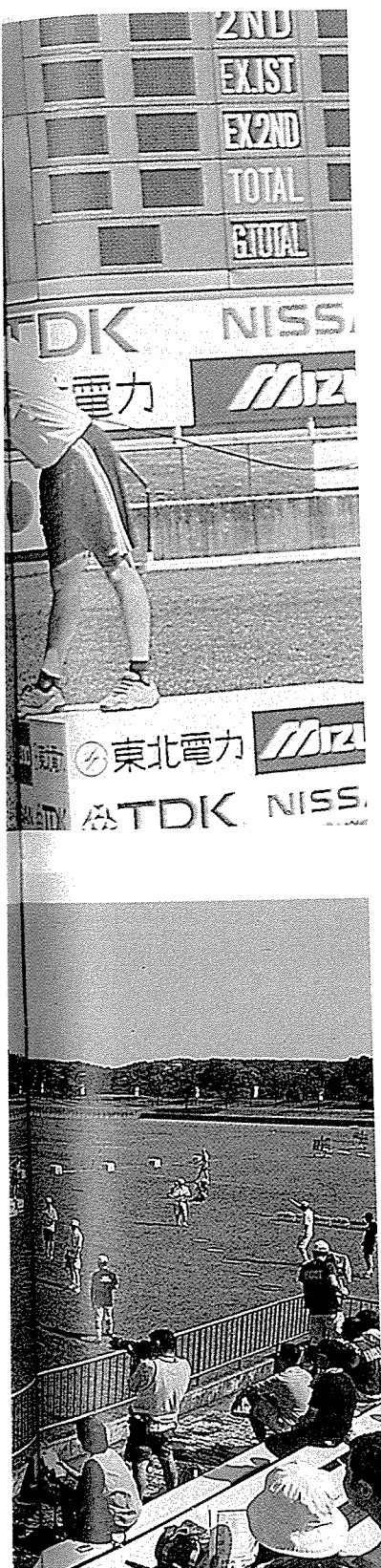
会場運営では、受け付けや接待については、経験者もおりスムーズにできた。記録補助については、長時間の屋外業務のため各班から要員を出して対応した。ボランティアや支援職員は、多忙な中でお互いの業務を調整しながら助け合い、効率的な方法で業務遂行に努めた。

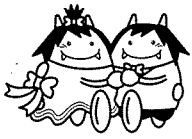
また、メンタルな競技の1つでもあることから、メディアの立ち入り範囲を明確に区分し(花で囲った)、ボランティアを配置して競技への支障がないように配慮した。

スターティングリストや競技結果の提供、メディアへの対応は競技団体が行ったトラブルはなかった。

(2) その他

本競技は、あまり知られていない競技のひとつであったが、大勢の観客と報道陣の前で大会を行うことができたことに対し、選手や競技団体から感謝の声が聞かれたとともに、初めての国際大会を運営した日本協会に対しても高い評価があった。





公式競技
【ダンススポーツ】DanceSport



競技のインターバルに披露された車イスダンス

秋田大会実施種目・参加選手数

〔スタンダード5種〕

ワルツ、タンゴ、ヴィニーズワルツ、
スローフォックストロット、クイックステップ

〔ラテン5種〕 サンバ、チャチャチャ、ルンバ、パソドブレ、ジャイブ

●参加選手数/94人(参加枠/各48組、合計96人) 参加国・地域/28

●国際競技団体名:国際ダンススポーツ連盟(IDSF) ●本部所在地:スイス ●加盟国(地域)数:73

ダンススポーツ

8月25日(土)・26日(日)／秋田市立体育館

8月24日(金) 公式練習
25日(土) スタンダード
26日(日) ラテン

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

TDから提出された国際ダンススポーツ連盟承認のスケジュール案に従い、同じ会場で開催される他競技との調整を行った上で競技日程を決定した。

(2) 会場等利用計画

競技会場の秋田市立体育館メインアリーナ中央にダンス競技用フロアを設置。練習会場のサブアリーナ2Fに練習用フロア及び選手控席を設置した。

また、サブアリーナ1F多目的ホール及び卓球室を仕切り、エキシビションを行う車いすダンス連盟・フォーメーションダンス選手団・オーケストラ一行の控室にあてた。

競技フロアについては、ユタカ株式会社から木製フロアパネル(28メートル×18メートル)を借用、練習フロアは、県連盟所有の亚克力製パネルを借用した。

(3) 運営体制

サブアリーナ1F会議室に会場運営本部を設置し、競技運営部(式典部兼務)と会場運営部(総務・報道広報担当及び施設・警備担当)により運営にあたった。

ボランティア及び支援職員の合同研修等を6回にわたり実施したほか、大会直前からは個別研修を実施し、運営業務の習熟に努めた。

2 運営と結果について

(1) 競技運営

大会直前に参加国の変更があったが、競技運営上は大きな混乱もなくスケジュール通り進行することができた。

(2) 会場運営

運営に関わるボランティアは、業務によって出勤時間が違うため、全体での打ち合わせができず連絡事項等の徹底が難しい状況であった。また欠勤するボランティアも少なからずいた。ボランティア

への指示・連絡は班長を通して行い、掲示板等を利用して徹底をはかった。ボランティアからの意見や本部からの要望等については、ボランティアリーダーがまとめ役となった。

選手役員のバス運行について、大会に入ってから競技団体からの変更要請があり、運行に混乱がみられた。臨時バスの要請等で対応した。

選手控席(3F観覧席)の仕切りが不十分で、選手が一般観覧席に座っている場面がみられた。選手を含む外国人対応のため、場内整理係にも語学ボランティアの配置が必要であったと思われる。

メインアリーナの照明を全灯するとエアコンの能力が追いつかず、室温がかなり高くなった。特に25日は外気温も高く、正装したスタンダードの選手にとっては、厳しい条件となった。

選手団の昼食提供のため昼食券を配布したが、審判団が別枠になるなど昼食数の把握が困難であった。また、毎日同じようなメニュー(サンドイッチ+果物)のため滞在期間の長い選手役員には不評であった。

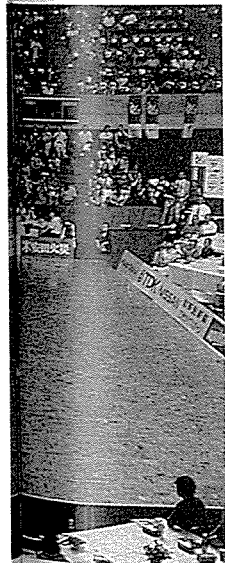
1日に出されるゴミの量が予想以上に多く、清掃回数を増やすなどして対応した。

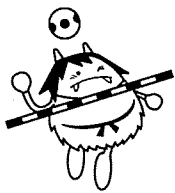
多くのメディアの取材があったが、カメラゾーンの変更(減少)やメインアリーナへのメディア入口の不足、メディアガイドの取材エリアとの相違などについてクレームがあった。広報部取材支援班から派遣された要員が調整にあたった。

(3) 観客の状況と対応

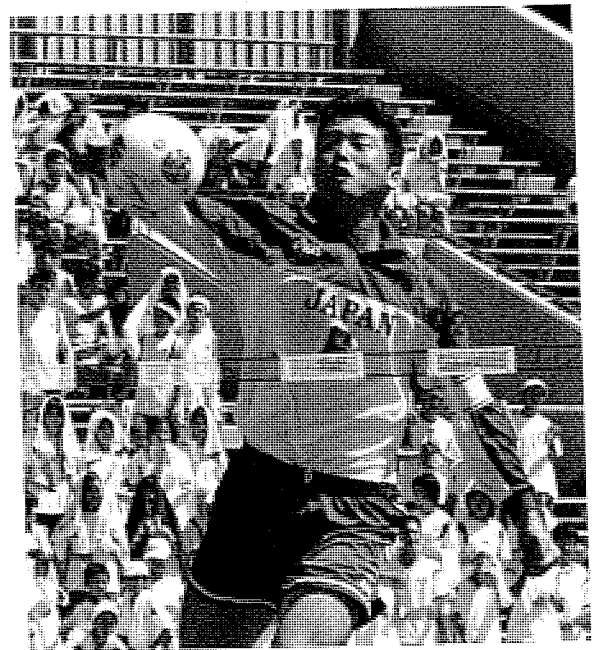
当日券売り場に早朝から並ぶ観客もあり、係員が予定時間前に配置につき、開場時間を繰り上げて対応した。

当日券の枚数が少なかったため、26日には入場できない観客が多数で係員が苦情を受けた。開場時の観客入場にあたっては駆け込み等による事故のないよう配慮した。





公式競技
【ファウストボール】Faustball



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕チーム

- 参加選手数/5チーム、44人（参加枠/6チーム、合計54人）参加国・地域/5
- 国際競技団体名：国際ファウストボール連盟(IFV) ●本部所在地：ドイツ ●加盟国(地域)数：14

ファウストボール

8月18日(土)～20日(月)／八橋陸上競技場

8月17日(金) 公式練習
18日(土) 予選リーグ
19日(日) 予選リーグ
20日(月) 順位決定戦・準決勝・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 日程等

競技日程は、国際ファウストボール連盟(IFV)とTD、AOCの協議により決定した。

当初8月17日～19日との提案がIFVからなされたが、総合開会式と同会場で、しかも翌日からの競技開始では準備作業が厳しいため、18日～20日とした。

詳細スケジュールについては、一部チームの不参加やIFVから突然の組み合わせ、試合時間の変更要請などがあり問題が生じた。TDの再三の交渉により解決したのが大会直前となったため、宿泊、輸送、練習計画など、大幅な変更を余儀なくされた。

また、一チームの不参加により生じた空白時間に追加行事を導入しなければならず、急遽、将軍野中学校の港ばやしや、なまはげ太鼓の出演を依頼することとなった。

(2) 会場等

競技会場である八橋陸上競技場の練習用コートとは別に、練習会場も必要とすることが分かり、東北電力ラグビー場を確保した。

八橋陸上競技場、東北電力ラグビー場は、特に施設には問題が無かった。

両会場の施設管理者の理解により、ボールの基礎埋設が可能となり、芝生についても参加国の選手役員から高い評価を受けた。

ボール・ネット等はIFVが準備し、ボールについては、日本では規定の物が無いためAOCが製作した。その他の付属の用具は、関係機関・団体等の協力を得て準備することが出来た。

競技コートと練習コートの設営については、秋田県ファウストボール協会(AFA)、ボランティア、金足農業高校の協力を得た。

(3) 運営体制

競技の運営についてはIFVと日本ファウストボール協会(JFA)が担当し、AOCは競技エリア以外の運営管理を担当した。

大会まで班長を中心に、支援職員、ボランティアが一体となって運営計画を策定し、5回にわたって研修を積み重ね、業務内容の理解を深めたが、IFVからの情報がなかなか入らず、実態把握が十分にできないままに本番に入った。

2. 運営と結果

(1) 競技運営

競技開始前に参加チームの連絡会議を実施し、競技運営の詳細にわたって確認を行った。IFV、JFA、AFA合同で、競技の運営は順調に行なわれたが、フルセットにもつれ込んだ白熱した決勝戦が展開され終了時間が遅れたため、ワールドゲームズプラザでの表彰式の時間も遅らせることとなった。

(2) 会場運営

直前でのアルゼンチンの不参加表明により、タイムスケジュール、組み合わせ、練習計画、輸送等、変更の連続で、混乱の中で競技が始まったが、スタッフの必死の対応と、ボランティアの担当業務を飛び越えての協力と頑張りにより、無事競技を進行することが出来た。

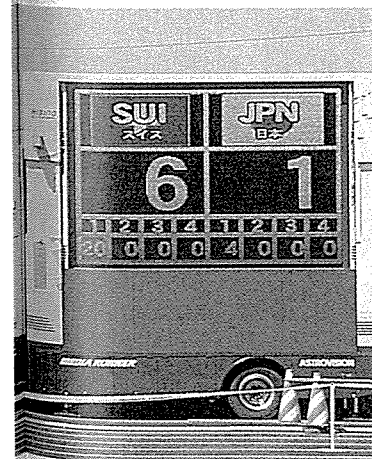
観客や取材メディアに対しても適切な対応がなされ、トラブルは生じなかった。

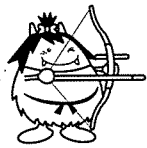
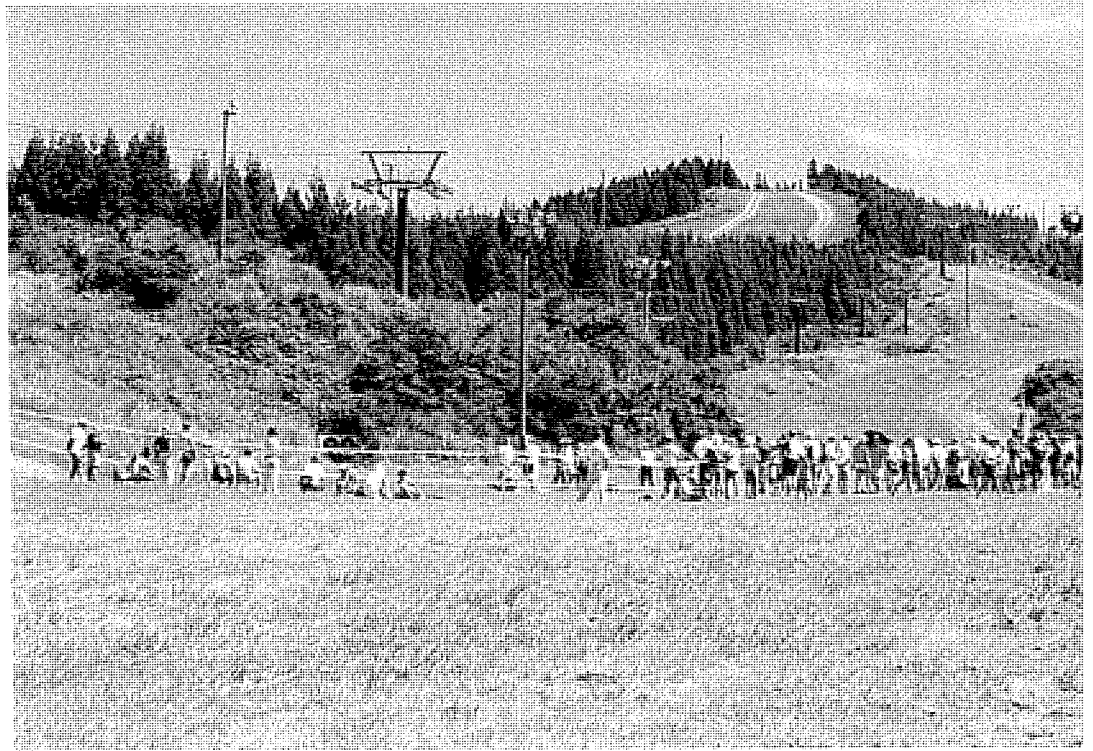
(3) 観客の状況と対応

連日の猛暑の中、予想よりはるかに多い観客が来場し、有料入場者が見込みを上回った。日本ではまったく馴染みのない競技なだけに、観客が集まるかどうか不安だったが杞憂に終わった。

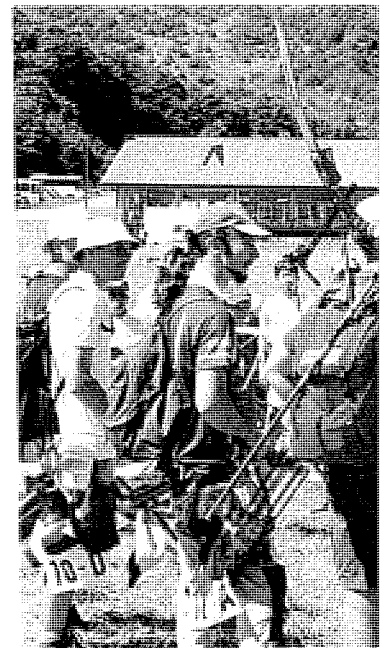
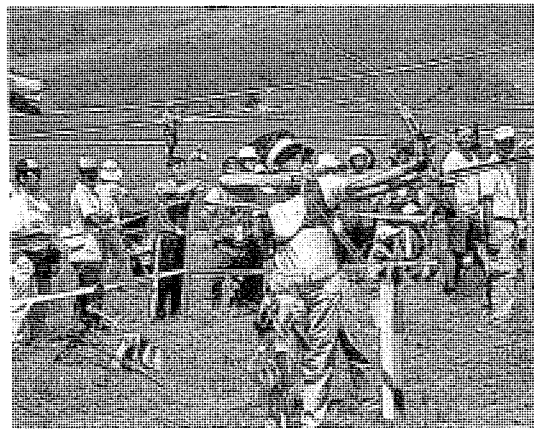
(4) その他

IFVの理解と寛容さに支えられ、秋田で日本的な手法で競技が開催できたことが競技の成功につながり、各国選手団に喜んでいただいたとともに、世界のファウストボール競技の歴史に残る新しい競技会となった。





公式競技
【フィールドアーチェリー】Field Archery



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】・【女子】 ペアボウ、リカーブ、コンパウンド

●参加選手数/90人(参加枠/92人) 参加国・地域/20

●国際競技団体名:国際アーチェリー連盟(FIAT) ●本部所在地:スイス ●加盟国(地域)数:121

フィールドアーチェリー

8月17日(金)～19日(日)／オーバス

8月16日(木) 公式練習
17日(金) 予選ラウンド (アンマークド)
18日(土) 予選ラウンド (マークド)
19日(日) 準決勝、決勝

1. 計画と準備状況

会場施設としては、暑さ対策として仮設エアコンを審判控室・VIP控室に設置した。また、予選ラウンドにおいて、コース山頂(アンマークド第20的、マークド第16的)に司会台(檜)、仮設トイレ2カ所、テント3カ所を設置した。

競技運営は、競技団体が実施した。特に、競技会場の設営・撤去は、県連や東北地区連が行った。また、通信手段として、自衛隊の協力の下に、有線電話を使用することができた。組織委員会は、観客の整理・警備・各種インフォメーションの提供といった後方支援を担当した。

T D・県連と協議し、4脚・案内板・距離表示板・標的番号・ポスト番号・コース案内板・スタート杭・防矢ネット等競技用器具に関しては、県連から賃借することで契約締結を行った。

競技会場及び練習会場の設営・撤去は業者委託することとし、別途契約した。コースの下刈り等の作業もあり8月6日から着手した。

また、山中のスズメバチ対策として、秋田市森林組合に駆除を依頼した。

バットレス(畳床)及びスコアカードは組織委員会で手配、的紙に関しては、IFが準備した。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

予選ラウンド・アンマークドに関しては、午後3時半終了予定であったが、2時間半遅れの午後6時終了となった。これは、シューティングに関して、4分間という制限時間が撤廃されたこと、アンマークドという距離表示がないラウンドの場合、選手同士がお互いに牽制し、なかなか自分から先に矢を打たないというケースが続出したことによる。もっとも、選手もそのことを承知で、日没ギリギリまで終了すれば良いといった感じでのんびりした競技進行であった。

2日目の予選ラウンド・マークド、3日目の準決勝・決勝に関しては、距離表示が明示されていたこともあり、選手同士がお互いに牽制し合うということもなく、当初の予定通り競技が進行した。

(2) 大会運営

会場が秋田市内から距離的に離れているにも拘らず、大会期間中を通してボランティア等スタッフの欠勤はほとんどなかった。

競技会場部においては、競技会場内の休憩所での給水や果物の補給、観客の整理・警備等の業務を的確にこなし、競技進行中、選手用ミネラルウォーターが不足するといったことや、観客がコース内に侵入し競技進行の妨げになるといった事態も避けられた。

会場運営部は、選手・審判控室等の維持管理、観客への情報提供(観戦ポイントの掲示・競技結果・バス時刻)、VIP接遇、食事・飲料の提供、メディア対応、炎天下での駐車場・場内警備等ハードな業務をこなし、また、語学ボランティアは、選手・役員とフレンドリーな対応により好評を博した。

アーチェリー専門誌の記者からは、他の大会では予選ラウンドも全コース取材させてもらっているとクレームがあったため、競技団体関係者の指示により取材させることとした。記者会見については、男女種目毎に、決勝が終了し、選手が引き上げて来る度に実施した。

(3) 観客の状況と対応

入場無料、また、天候に恵まれたこともあり、2日目、3日目は300人を超える観客が詰めかけた。

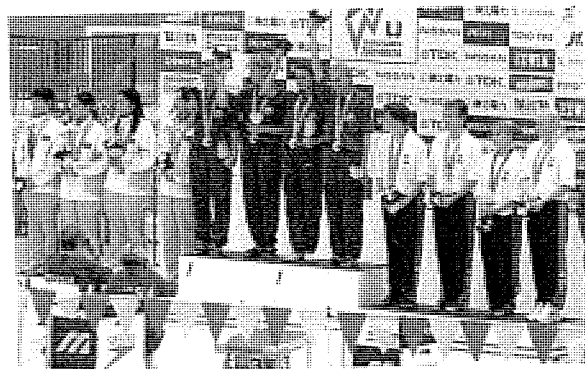
但し、予選ラウンドに関しては、山林の中にコースが設置されており、競技の特性上、観客に見せるというよりも、選手を振り落とすといった観点からコース設定されているため、安全管理上、どうしても観戦ポイントが限られてしまい、観客からは十分見ることができなかったといったクレームも聞かれた。コース案内図等もアンマークドの場合、選手の目に触れてはならないといった制約もあり、観客に対するサービスという点では今一つだった点は否めない。準決勝・決勝に関しては、木杭とテープで観客エリアを区切り、全コースを見られるようコースを変更した。

オリンピック競技でもあるターゲットアーチェリーと異なり、フィールドアーチェリーの場合、観客に見せるスポーツというよりも、選手が楽しむといった要素が強かった。今後、観客に対するアピール度を高めていく必要がある。





公式競技「フィンスイミング(プール)」「ライフセービング(プール)」
公式競技「フィンスイミング」 Finswimming
 Life Saving (Pool)



秋田大会実施種目・参加選手数

フィンスイミング [男子]・[女子]
 サーフィス(100m, 200m, 400m, 4×100m)
 50mアブニア

- 参加選手数/77人(参加枠/男女各42人、計84人) 参加国・地域/17
- 国際競技団体名:世界水中連盟(CMAS) ●本部所在地:イタリア ●加盟国(地域)数:103

フィンスイミング
ライフセービング(プール)

8月24日(金)・25日(土) / 秋田県立総合プール

8月22日(水) 公式練習
 23日(木) 公式練習
 24日(金) 予選・決勝
 25日(土) 予選・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

フィンスイミングについては世界水中連盟、ライフセービングについては国際ライフセービング連盟が提示した原案を基に、協議の上決定した。

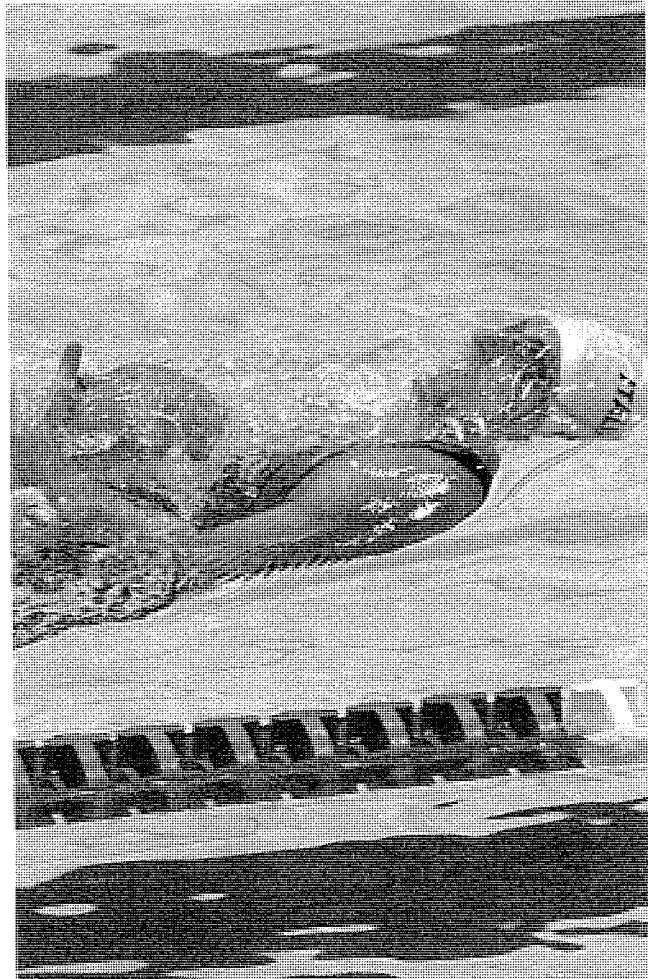
(2) 会場利用計画等

会場は通常の水泳大会と同様に使用。各スペースの配置は施設管理者及び関係者と検討の上決定した。必要な仮設設備は特に無かった。

競技に必要な用具については、競技団体が独自に準備したものは、フィンスイミングで15メートルラインとフラインク用鐘、ライフセービングでマネキン、障害物ネット等で、他の用具についてはすべて県立総合プールの備品で賄うこととなった。



公式競技「フィンスイミング」Finswimming
公式競技「ライフセービング(プール)」Life Saving(Pool)



秋田大会実施種目・参加選手数

ライフセービング(プール) [男子]・[女子]

(個人) 200m自由型障害物レース、100mマネキンレスキューレース

100mレスキューメドレー、50mマネキンレスキューレース

(団体) 4×50m自由型障害物リレー、4×25mマネキンリレー、4×50mレスキューチューブリレー

●参加選手枠/90人(参加枠/90人) 参加国・地域/9

●国際競技団体名: 世界ライフセービング連盟(ILS) ●本部所在地: ベルギー ●加盟国(地域)数: 123(団体: 129団体)

(3) 運営体制

競技及び会場運営部の各班に支援職員、ボランティアを配置し、運営業務にあたった。

事前の研修会を3回実施し、競技の理解と運営業務の習熟を図った。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

二つの競技団体によりそれぞれの競技が運営されることから、当初は連絡・調整及び業務の遂行に戸惑ったが、大きな混乱もなく運営された。

(2) 会場運営

競技会場内の管理については、県立総合プール職員から助力を受けて運営した。

選手が土足のままプールサイドに下ることが多く、その対応に苦慮した。

観客用シャトルバスの運行で混乱があった。また、選手輸送バスが到着しない事態が生じ、大会本部との連絡調整に追われた。第2日目の駐車場は満車状態になり、競技終了後、全部の車を駐車場から出車させるのに長時間を要したが、係員の適切な指示によりトラブルはなかった。

メディアの取材は、ミックスゾーンでのインタビューが主となり、決勝では、優勝した選手に通訳を交えて喜びの声を取材するメディアが多く見られた。

ボランティア、支援職員の欠席は、両日ともに皆無で、自主的に仕事に従事し、スムーズな大会運営を支えた。

選手からは『世界大会にふさわしいすばらしいプールだ』、『秋田の人々、運営スタッフの優しさに感謝』等の声が聞かれた。

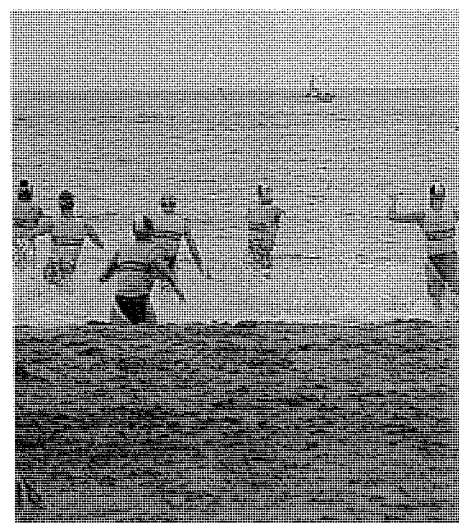
(3) 観客の状況と対応

観客は、当初予想していた決勝(夕方)中心ではなく、予選(午前)への入場者が多く、当日券販売に苦慮した。また、予選と決勝の間が約5時間あるため、再入場者の予想が難しかった。

第1日目のフィンスイミングの決勝がNHKで放送されたことにより、それを見て関心を持ち、第2日目に訪れた観客が多数いた。



公式競技
「ライフセービングゲーム」
Life Saving (Surf)



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕・〔女子〕 (個人) サーフレース、パドルボードレース、ビーチフラッグス

(団体) レスキューチューブ・レスキューレース、レスキューボード・レスキューレース

●参加選手数/90人 (参加枠/90人) 参加国・地域 /9

●国際競技団体名: 国際ライフセービング連盟 (ILS) ●本部所在地: ベルギー ●加盟国 (地域) 数: 123 (団体: 129団体)

ライフセービング(サーフ)

8月25日(日)／岩城町島式漁港公園

8月25日(日) 予選・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程等

競技の日程は、国際ライフセービング連盟 (ILS) とAOCとの協議により決定された。公式日程は秋田県立総合プールでのプール競技の日程とあわせて設定された。

(2) 会場利用計画等

2000年6月に岩城町島式漁港公園が正式に会場地として決定された。

会場となる砂浜海岸は、海岸保全区域の他に一部、漁港区域も含まれているため、漁港施設を含む砂浜・海岸の占用・使用申請により許可を得た。

会場地は砂浜・海岸であるため、競技会運営のためにはテント、国旗掲揚塔、仮設シャワー・トイレ、器材保管用のプレハブ等多数の仮設物を要した。

また、仮設物の設営の前には海岸部分の清掃作業を数回にわたって実施した。更に、秋田海上保安部による海底清掃も実施された。

競技に関する器材は、ハード面 (ブイ・マリブボード・レスキューチューブ・マリンジェット等) を日本ライフセービング協会 (JLA) が、競技結果集計用のソフトウェアや会場装飾用のフラッグ類をILSが用意した。

(3) 運営体制

競技運営に関わるすべてをILS及びJLAが担当し、競技役員及び審判員はILS、JLAのメンバーにより構成された。なお、秋田県在住のライフセーバーもスタッフとして任命された。

会場等の運営についてはAOCが担当となり、業務は役員・審判員のサポート、競技結果の収集、役員・VIPの接遇などが主なものとなった。数回の事前研修に加え、8月23日には現地リハーサルを行ったが、台風の影響で会場設営作業が遅れたため、満足のゆくものとはならなかった。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

選手役員の変更追加等が若干発生したが、公式日程以前のもので、競技運営には影響なかった。

競技当日、表彰スケジュールの変更が

あったが、迅速な対応により支障無く行われた。

競技はJLAが手配したMCの司会進行で遅滞なく進行し、また会場を盛り上げることができた。

(2) 会場運営

台風の影響で、会場設営が一時待機状態となったため、全体的に準備不足な部分が多かったが、大会運営に特別な支障とはならなかった。

防災・警備に関してはそれぞれ消防、警察と連絡体制をとったほか、会場本部に警察官の詰所を設け巡回を依頼した。

また、秋田海上保安部、南部漁協の協力を得て監視艇を配置し、外部からの船舶の進入に対して警戒を行った。

駐車場は岩城町交通指導隊の協力を得て整理を行ったが、臨時駐車場のスペースが不足していたため、若干の混乱が生じた。

報道対応については、競技スケジュールの関係上、会場での記者会見は予定していなかったため、一部の報道機関は、直接インタビュー取材を行っていたが、混乱は無かった。

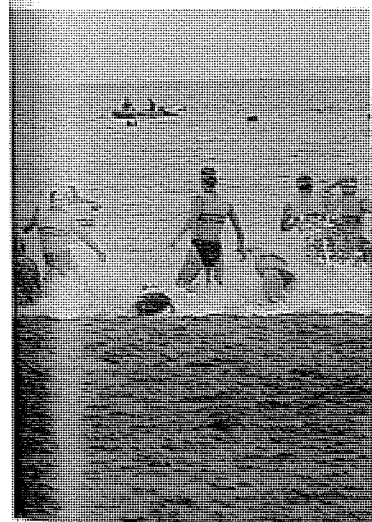
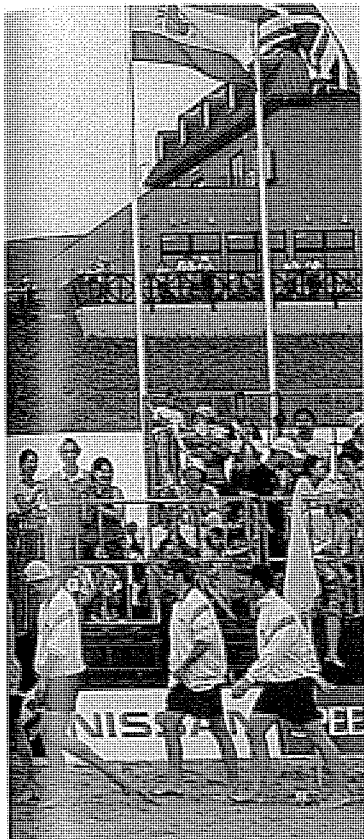
ボランティア等の運営スタッフは、実地研修の不足から当初は若干の混乱が生じたが、徐々にそれぞれの業務をこなしていった。ボランティア個人の自主的な貢献によるところが大であった。

観客数延べ約7,000人という盛況の中で、大きな事故等もなく無事大会を終えることができたのは、優秀なスタッフとボランティアに恵まれたからであると確信している。

(3) 観客の状況と対応

計画では観客エリアを明確に区分する予定であったが、設営が不完全となったことから、実際には競技で使用される部分以外は誰でも行き来できるような形となり、観客が間近で観戦する形となった。スタート・ゴール部分はテーブルパーティションできちんと確保され、要所に警備員を配置するなどして対応したため混乱は起きなかった。

ただ、観客エリアとして漁港施設の連絡橋を開放したが、安全対策のため設置した導線がまったく機能せず、事故には繋がらなかったものの安全対策の面で反省が残った。





公式競技
「フライングディスク」
Flying Disc



秋田大会実施種目・参加選手数

- [男子]・[女子] ディスクゴルフ(シングルス) [男女混合] アルティメット
 ●参加選手数/72人(参加枠/ディスクゴルフ:男女/各6人、合計12人、
 アルティメット:1チーム男女各5人×6チーム計72人) 参加国・地域/8
 ●国際競技団体名:世界フライングディスク連盟(WFDF) ●本部所在地:アメリカ ●加盟国(地域)数:50

フライングディスク

ディスクゴルフ: 8月17日(金)~18日(土)/ 秋田県立中央公園ディスクゴルフコース
アルティメット: 8月19日(日)~21日(火)/ 秋田県立中央公園球技場

ディスクゴルフ: 8月14日(火) 公式練習
15日(水) 公式練習
16日(木) 公式練習
17日(金) 予戦
18日(土) 決勝ラウンド
アルティメット: 8月18日(土) 公式練習
19日(日) 予選
20日(月) 予選
21日(火) 決勝トーナメント

1. 計画と準備状況

ディスクゴルフでは、男女別組でマッチプレーで勝ちホールを競う総当たりリーグ戦、また、アルティメットでは、男女混合の6人制(男3人、女3人)で、時間制(前半45分—ハーフタイム10分—後半45分)を採用し、総当たり戦を実施することとなった。

これを受けてTDとの打ち合わせを重ねる中で、競技運営スケジュール等の検討、準備や役割等の確認を行ってきた。

IFは宿泊場所について、当初秋田市内のホテルを希望していたが、協議の結果、会場の至近距離にあるクリプトンとトレーニングセンターに決定した。表彰式会場も当初予定されていたワールドゲームズプラザから競技会場に変更された。

競技コース及びコート の設営及び競技関連の用具については競技団体が準備し、AOCでは、大型得点掲示ボードやスポーツタイマー、テントなどの準備及び競技用具運搬を行うこととした。

その他の用具等については、既存施設や競技会場にあるものをできるだけ活用し負担の軽減を図った。また、競技会場及び周辺環境の整備等については県立中央公園の協力を得た。

7月中旬の現地調査及び最終打ち合わせで、バス輸送時間の確認、宿泊の部屋割り、表彰式の仮設ポール位置、開始式・表彰式の次第、トラベルプランの確認等を行った。

2. 運営と結果

(1) 競技運営

・ディスクゴルフ

8月10日には競技用具も搬入され、ディスクゴルフコースの設営にとりかかった。

競技役員とのコース確認で13番ホールのコース設定の変更があった。

ホールとホールとの間に距離があるところや競技本部と遠いところからの移動については、選手の疲労軽減、競技時間

短縮のため、移動に車を利用するなどの対応を行った。

県立中央公園スポーツゾーンを使ったディスクゴルフ会場は、全18ホールの広大でタフなコースとなり、さらに猛暑が加わったことから、選手、ギャラリーとも汗だくの競技・観戦となった。

・アルティメット

選手のけが等で大会ぎりぎりまで登録選手の入替えがあった。

選手たちの疲労度も考慮して、開始式は行わず、予選の試合時間は前後半40分と変更決定された。

日程の関係で、1日3試合や、次の試合まで1時間の休みもなく続けて試合を行わなければいけないハードスケジュールのチームもあった。事前に判明していたことであり混乱はなかったが、選手たちの疲労は予想以上に激しいものがあった。

アルティメット関係者の宿泊先であるトレーニングセンターは、昼食をランチボックスにしたり、選手たちをバスで食堂まで輸送する等の急な要請にも快く協力してくれた。

また、砂塵が舞うようになった競技3日目には、朝早くには水をまくなどして少しでも良い環境で試合を行えるようにとの施設側の協力もあった。

(2) 会場運営

フライングディスク競技の運営に従事したボランティアおよび支援職員は、猛暑の中で与えられた以上の業務をこなし、スムーズな競技運営を支えた。また秋田県フライングディスク協会の協力も大きな力となった。

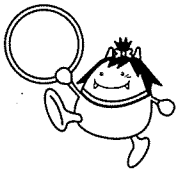
メディアへの対応は、競技団体が担当し、表彰式終了後の記者会見も滞り無く実施された。

(3) 観客の状況と対応

両種目とも予想を上回る観客が訪れ、大勢の子供たちが選手に声援をおくり、外国の選手たちと触れ合う場面も見られた。

ワールドゲームズで行われたディスクゴルフ、アルティメットはフライングディスクの公式種目10のうちの2種目であるが、審判のいないセルフジャッジによって行われる競技であり、スポーツ本来の姿を見てもらったと考える。





公式競技
【新体操（種目別）】 Rhythmic Gymnastics



秋田大会実施種目・参加選手数

【女子】個人・種目別 ロープ、フープ、ボール、クラブ

- 参加選手数24人（参加枠40人）参加国・地域/19
- 国際競技団体名：国際体操連盟（FIG） ●本部所在地：スイス ●加盟国（地域）数：120

新体操 (種目別)

8月22日(水)・23日(木) / 秋田市立体育館

8月20日(月) 公式練習
21日(火) 公式練習
22日(水) 予戦
23日(木) 決勝

1. 計画と準備状況

秋田市立体育館メインアリーナ中央にセノー社製公認新体操マット1面を設置。練習会場のサブアリーナ2Fに競技場と同様のものを1面及びウォーミングアップ用マットを設置した。(予選・決勝日には練習場にマット2面を設置)

また、日程上、他の競技団体の練習日が重なるため、サブアリーナ1F卓球場を4つに仕切り、各競技役員等の控室・ミーティングルームにあてた。

会場運営本部はサブアリーナ1F会議室に設置した。

事前のTD会議や体操関係競技連絡会議等において、①競技別プログラムについては、体操関係5競技を1部にまとめて作成すること、②競技団体開催協力交付金については、日本体操連盟が受領し各競技に配分することなどが決定された。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

大会直前まで選手変更があり、参加予定数(40)よりも少ない24選手のエントリーとなったが、競技運営上は大きなトラ

ブルもなくほぼスケジュール通り進行できた。

競技団体の指摘により、選手の入退場口を審判の視線にかからないようステージ側に変更した。また、1F観客(審判正面のA席)の競技中入退場を制限した。

(2) 会場運営状況等

選手役員のバス運行について、大会に入ってから競技団体からの変更要請があり、運行時間・台数等に混乱がみられたが、臨時バスの要請等で対応した。

選手控席(3F観覧席)の仕切が不十分で、選手が一般観覧席に座っている場面がみられた。選手を含む外国人対応のため、場内整理係にも語学ボランティアの配置が必要であったと思われる。

選手団の昼食提供のため昼食券を配布したが、審判団が別枠になるなど昼食数の把握が困難であった。また、毎日同じようなメニュー(サンドイッチ+果物)のため滞在期間の長い選手役員には不評であった。

観客席で禁止されている200ミリを超えると思われる望遠レンズを使用した撮影者を発見し係員が注意したところ、トラブルが生じたとの報告があった。

メディアからは、カメラゾーンの変更(減少)・メインアリーナへのメディア入口の不足等、メディアガイドとの相違についてクレームがあった。

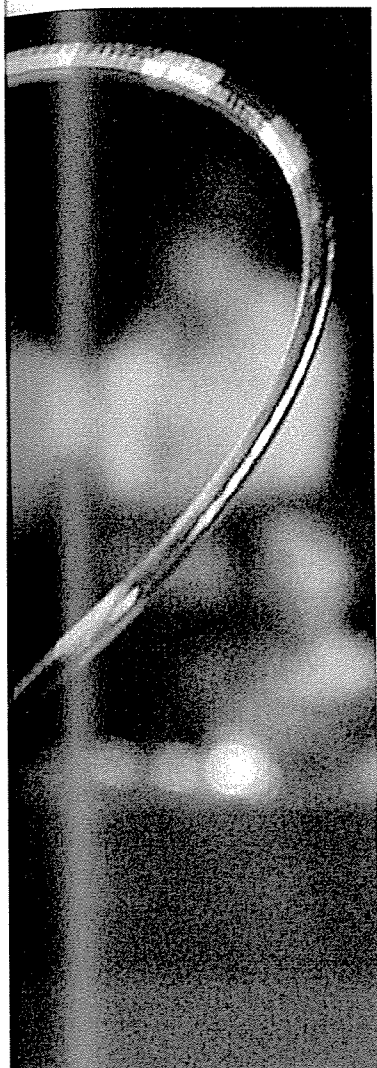
また、1日に出されるゴミの量が予想以上に多く、清掃回数を増やすなどして対応した。

更に、メインアリーナの照明を全灯するとエアコンの能力が追いつかず、室温がかなり高くなった。

ボランティアの欠席数は、22日13人、22日16人。業務によって出勤時間が違うため、全体での打ち合わせができず連絡事項等の徹底が難しい状況であった。

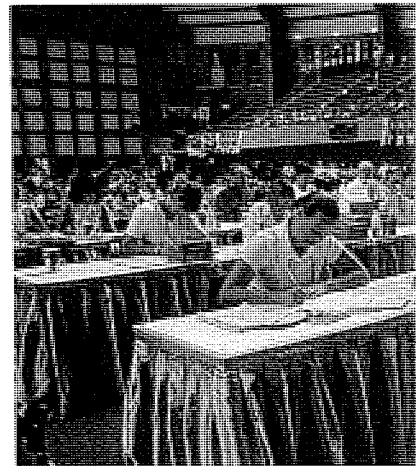
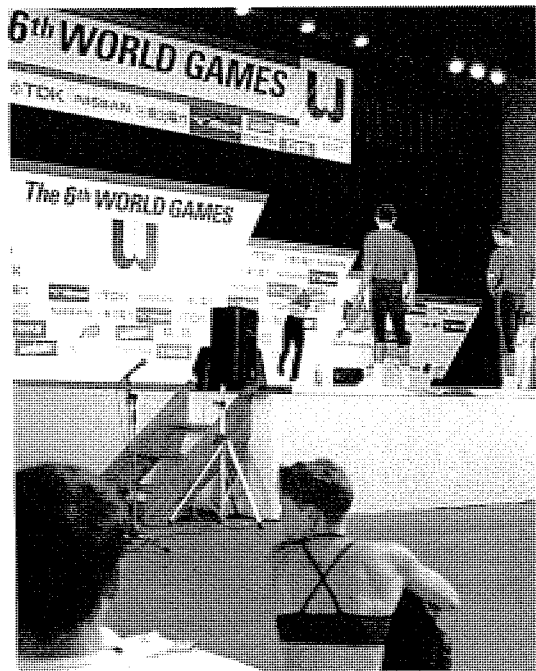
(3) 観客の状況と対応

当日券売り場に長時間並んでいる観客に対して、トイレが近くにない苦情があった。





公式競技【エアロビック】Sports Aerobics



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】・【女子】シングルス 【男女混合】ミックスペア、トリオ

- 参加選手数45人（参加枠／個人各8人、ペア／トリオ各8組 計56人）参加国・地域／13
- 国際競技団体名：国際体操連盟（FIG） ●本部所在地：スイス ●加盟国（地域）数：120

エアロビック

8月17日(金)・18日(土)／秋田市立体育館

8月16日(木) 公式練習
17日(金) 女子シングルス/トリオ
18日(土) 男子シングルス/ミックスペア

1. 計画と準備状況について

秋田市立体育館メインアリーナのステージを拡幅 (10.8メートル×5.4メートル) し、日本エアロビック連盟所有のエアロビック用競技フロアを設置した。練習及びウォームアップ会場についてはサブアリーナ1F多目的ホールに競技会場と同一の競技フロアを設置した。

また、運営本部・控え室については新体操と同様とした。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

大会直前に選手変更が若干あったが、競技運営上は大きな混乱もなくスケジュール通り進行できた。

競技会場レイアウトで、審判から競技フロアのラインが見えなければならないという競技規則に従い、審判席をステージの高さに合わせて25センチ高くしたため、その後ろのA席の観客から競技が見づらいというクレームがあった。

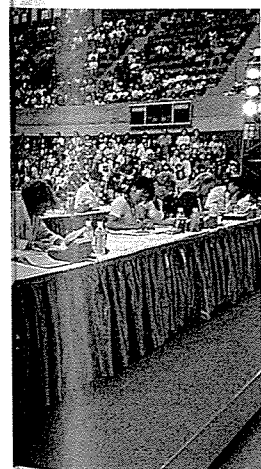
(2) 会場運営

メインアリーナで練習終了後、開場までの時間が短く、1FフロアA席の準備・清掃等の時間が充分でなかった。その他については、新体操と同様であった。

ボランティアの欠席数は、17日10人、18日13人。新体操と同様に、業務によって出勤時間が違うため、全体での打ち合わせができず連絡事項等の徹底が難しい状況であった。

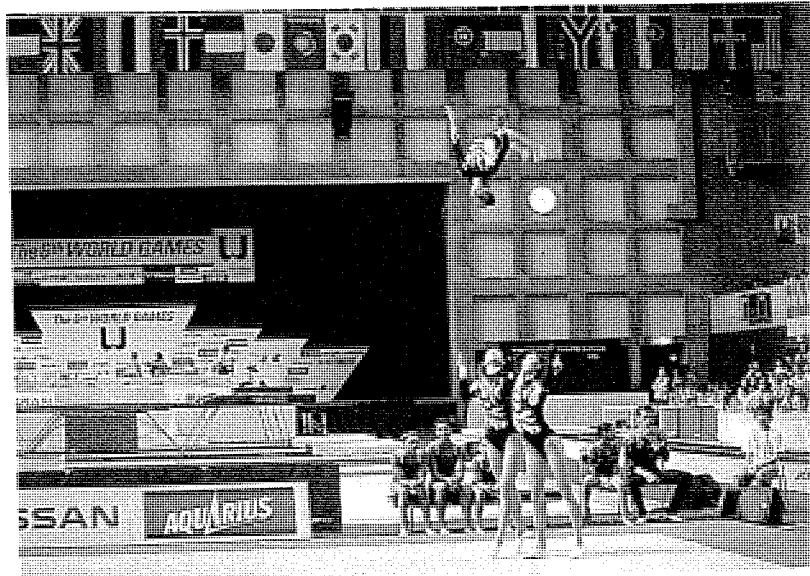
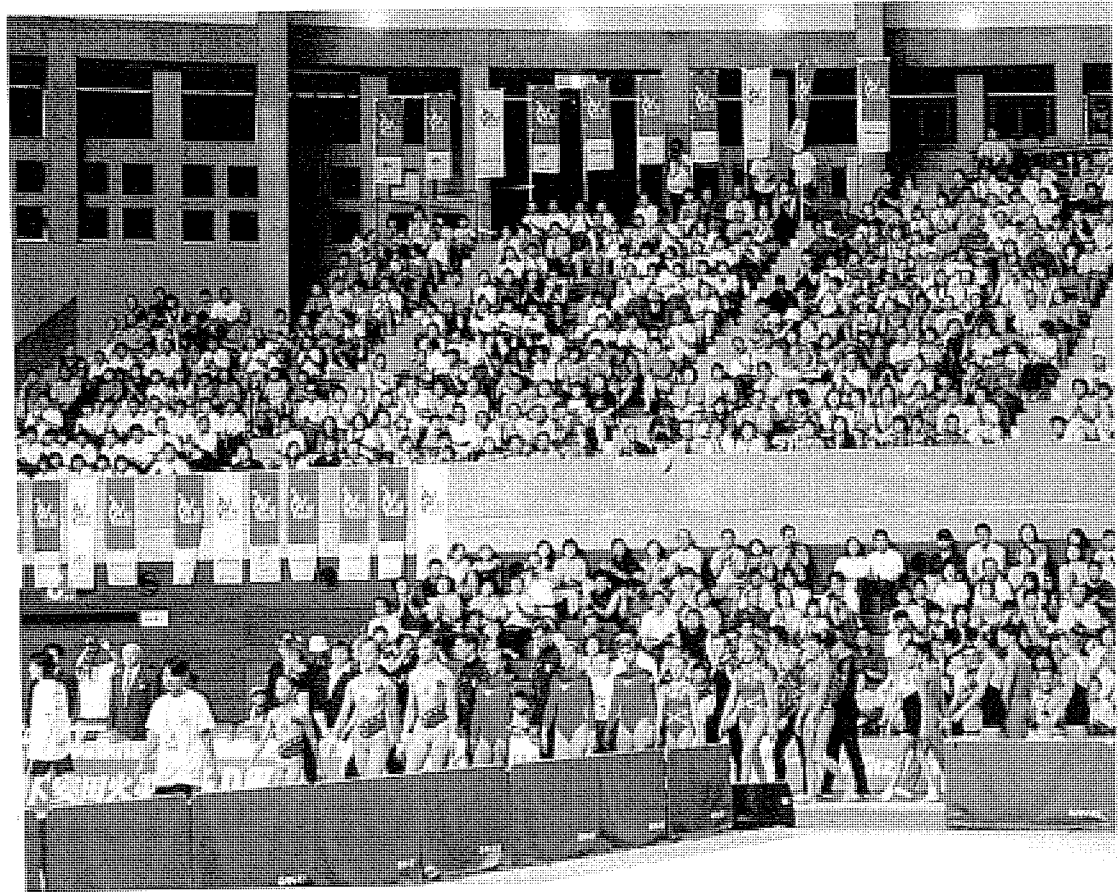
(3) 観客の状況と対応

新体操と同様であった。





公式競技【トランポリン】Trampoline
 公式競技【タンブリング】Tumbling
公式競技【スポーツアクロ体操】Sports Acrobatics



秋田大会実施種目・参加選手数

スポーツアクロ体操

【男子】・【女子】 ペア、グループ

【男女混合】 ミックスペア

●参加選手数/75人 (参加枠/各6組、合計/78人)

●参加国・地域/11 ●国際競技団体名: 国際体操連盟 (FIG) ●本部所在地: スイス ●加盟国(地域)数: 120

スポーツアクロ体操 トランポリン タンブリング

8月19日(日)～21日(火)／秋田市立体育館

8月18日(土) 公式練習
19日(日) 予選
20日(月) 決勝
21日(火) 決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

国際体操連盟が提示した原案を基に組織委員会が詳細なスケジュールを作成し、TDを通して競技団体と細部を検討し決定した。

(2) 会場利用計画等

スポーツアクロ体操では、メインアリーナに体操用床1面を設置。練習及びウォームアップ用としてサブアリーナ2Fに競技会場と同一の競技フロアを設置した。

タンブリングでは、メインアリーナにタンブリングバーン1セットを設置。

トランポリンではメインアリーナにトランポリン2セット及びダブルミニトランポリン1セットを設置した。

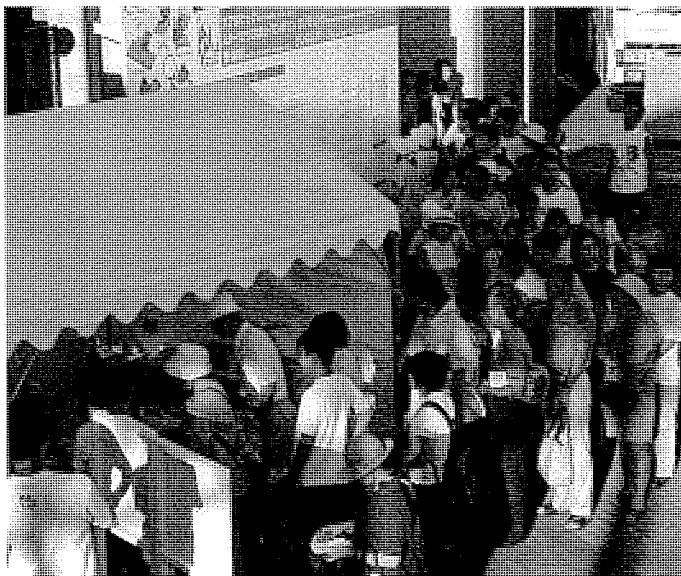
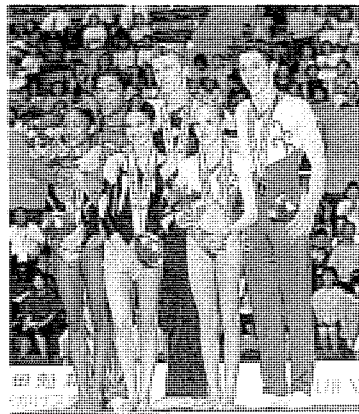
また、日程上、他の競技団体の練習日が重なるため、サブアリーナ1F卓球場を4つに仕切り、各競技役員等の控室・ミーティングルームにあてた。

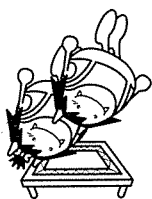
競技器具等については、スポーツアクロ体操の競技フロア及び練習用フロアは、秋田県立体育館備品の公認体操床2面を借用した。タンブリングでは、セノー(株)からタンブリングバーン1セットを借用。また、トランポリンの用具については、上山市トランポリン協会(山形県)からユーロトランプ社製トランポリン2セット及びダブルミニトランポリン1セットを借用した。

(3) 運営体制

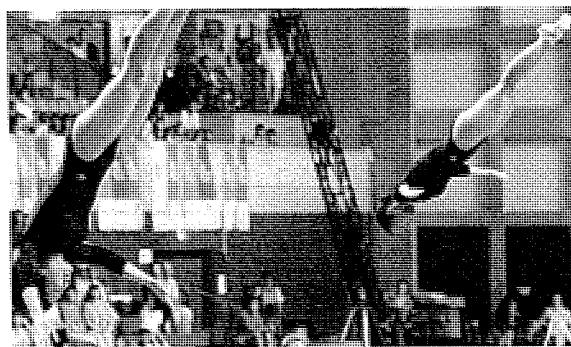
サブアリーナ1F会議室に会場運営本部を設置し、競技運営部(式典部兼務)と会場運営部(総務・報道広報担当及び施設・警備担当)に運営スタッフを配置し、大会運営体制を整えた。

配置したボランティア及び支援職員の合同研修等を数回にわたり実施し、大会に備えた。





公式競技「トランポリン」Trampoline
公式競技「スポーツアクロ体操」Sports Acrobatics



2. 運営と結果について

(1) 競技運営

競技運営はやや時間のロスがあったが、大きな混乱もなくほぼスケジュール通り進行できた。

3競技同時開催のため競技会場のスペースに余裕がなく、競技団体の指摘により審判席の位置を移動するなど、競技会場レイアウトを変更して対応した。

(2) 会場運営状況

選手・役員のバス運行について、大会に入ってから競技団体からの変更要請があり、運行時間・台数等に混乱がみられた。臨時バスの要請等で対応した。

21日(最終日)に台風の影響で成田空港への臨時直行バスを出すことになり、バス時間にあわせて全日程を終了させるため、表彰式の短縮・記者会見の中止等で対応した。

選手団の昼食提供のため昼食券を配布したが、審判団が別枠になるなど昼食数の把握が困難となり混乱が生じた。また毎日同じようなメニュー(サンドイッチ+果物)のため滞在期間の長い選手・役員には不評であった。

また、メインアリーナで練習終了後、

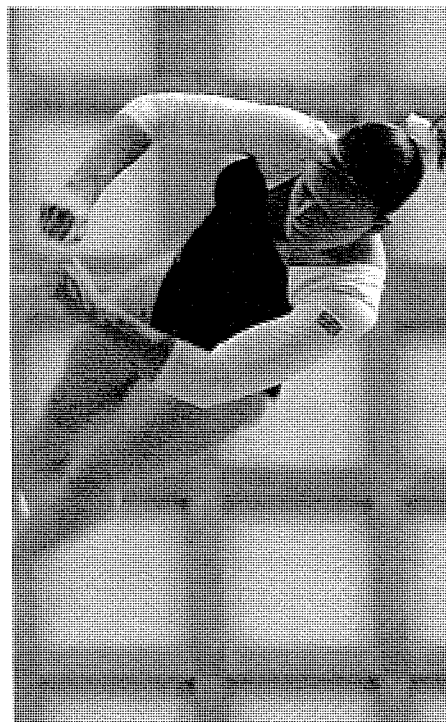
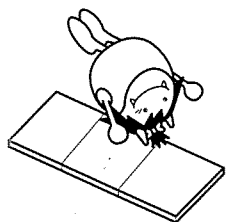
秋田大会実施種目・参加選手数

トランポリン [男子]・[女子] シンクロ、ダブルミニ

●参加選手数/60人 (参加枠/シンクロ各12組、
ダブルミニ各12人/合計72人)

●参加国・地域/19

●国際競技団体名: 国際体操連盟 (FIG) ●本部所在地: スイス ●加盟国(地域)数: 120



公式競技
公式競技「スポーツアクロ体操」Sports Acrobatics
公式競技「トランポリン」Trampoline
公式競技「タンブリング」Tumbling

開場までの時間が短く、1FフロアA席の準備・清掃等の時間が充分でなかった。1日に出されるゴミの量は予想以上に多く、清掃回数を増やすなどして対応した。

メディアからは、カメラゾーンの変更(減少)等、メディアガイドとの相違についてクレームがあった。また、2種目の交互進行の部分でスタート順がわかりづらく、ホスト放送機関(NHK情報ネットワーク)の撮影に支障が出たため、競技団体・組織委員会を交えて調整会議を行い改善策を講じた。

ボランティアの欠席数は、19日16人、20日14人、21日13人。業務によって出勤時間が違うため、全体での打ち合わせができず連絡事項等の徹底が難しい状況であった。ボランティアへの指示・連絡は班長を通して行い、掲示板等を利用して徹底を図った。

(3) 観客の状況と対応

当日券売り場に長時間並んでいる観客から、トイレが近くになく苦情があった。開場時の観客入場はスムーズで、心配された駆け込みによる事故等は特になかった。

秋田大会実施種目・参加選手数

タンブリング [男子]・[女子] 個人

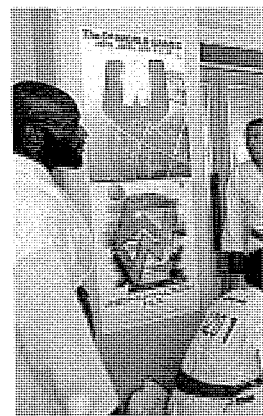
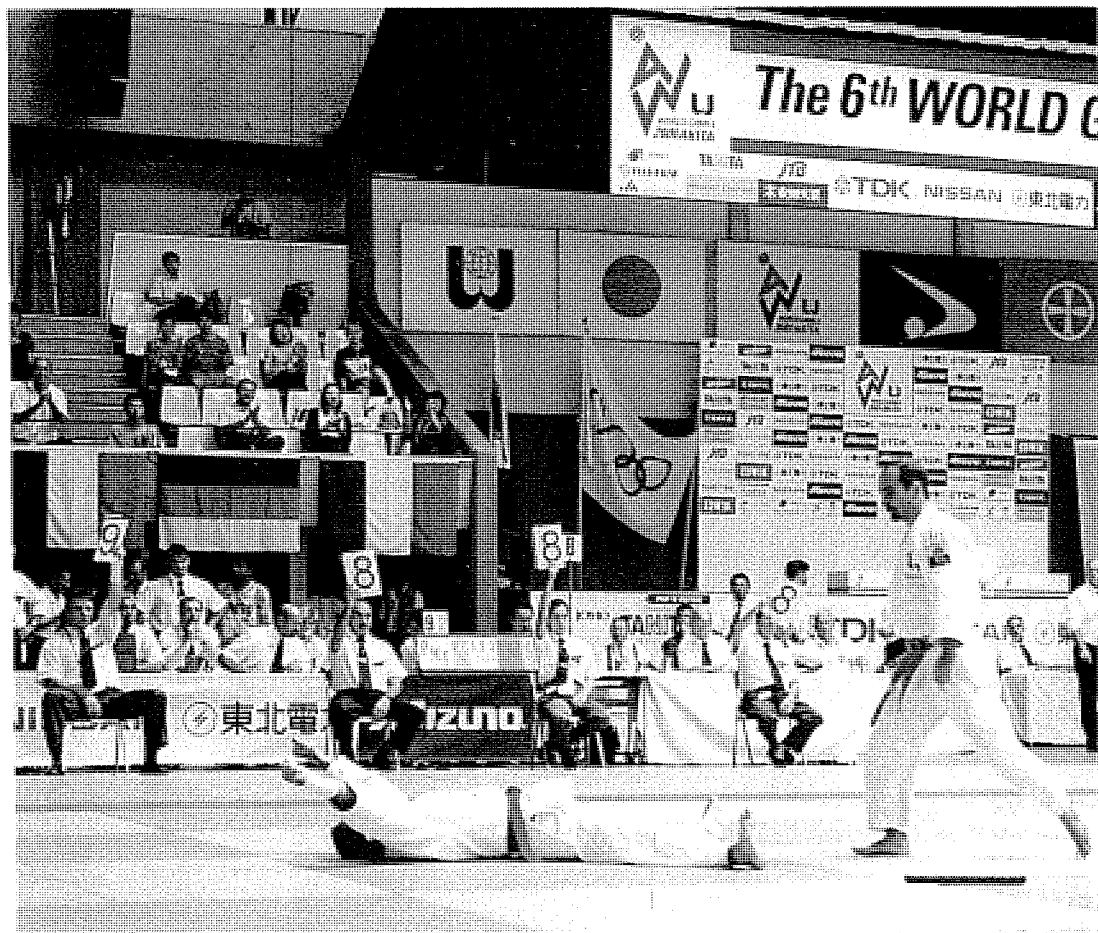
●参加選手数/16人 (参加枠/各12人、合計24人)

●参加国・地域/13

●国際競技団体名: 国際体操連盟 (FIG) ●本部所在地: スイス ●加盟国(地域)数: 120



公式競技
【柔術】
Ju-Jitsu



秋田大会実施種目・参加選手数

[男子] 格闘系/-69kg級、-77kg級、-85kg級、-94kg級 演武系/形

[女子] 格闘系/-62kg級、-70kg級 演武系/形

[男女混合] 演武系/ミックス形

●参加選手数/72人(参加枠72人) 参加国・地域/15

●国際競技団体名: 国際柔術連盟 (JJIF) ●本部所在地: イタリア ●加盟国(地域)数: 35

柔術

8月19日(日)・20日(月)／秋田県立体育館

8月18日(土) 公式練習
19日(日) 組手男子69kg他
20日(月) 組手男子77kg他

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

国際柔術連盟および全日本柔術競技連盟が提示した原案を基に決定した。

競技のスケジュールについては、TDとの協議により作成した。

(2) 会場等利用計画

大体育館に98畳の競技コート2面の設営のほか、練習会場の小体育館をはじめ館内全設備を利用することとした。

試合コート用の畳は秋田市立体育館から、試合進行のためのタイマーも秋田県柔道連盟から借用、他は競技団体が準備することとなっていたため、競技準備に支障となることは無かった。

(3) 運営体制

支援職員、ボランティア等126人のスタッフを各業務班別に配置し、運営体制を整えた。

事前研修を4回実施したほか、2回の運営リハーサルを実施し大会に備えた。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

国際連盟と日本連盟との間で、競技運営に関しての意思統一が十分取れていなかったため、若干のトラブルが生じたが大きな問題とはならなかった。

(2) 会場運営

会場の県立体育館は、今大会のために照明の改善、床の塗装替、その他施設内部の整備を事前に実施したことから、選手団からは「申し分ない会場」と絶賛を得た。

十分な広さが無く、心配された駐車場については、事前の広報が行き届いたこともあって、苦情や混乱は無かった。

運営ボランティアも初めての経験にも関わらず、班長の指示の下、自身の業務をよく理解し活動した。特に競技進行班の放送案内、選手管理班の語学ボランティアが選手との対応に活躍した。また県職員の支援は大会運営上大きな力となった。

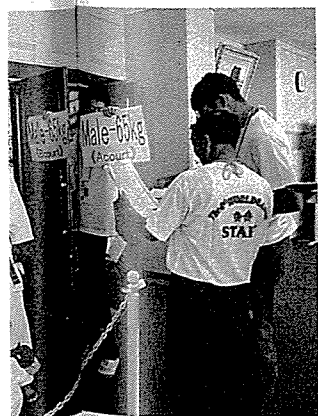
(3) 観客の状況と対応

日本で初めて開催される競技とあって観客の関心が高く、観客席はほぼ満席状況となり、チケットも「完売」と好評だった。

連盟の希望により観客席と隣り合わせに選手控席を設置したことによって、観客と選手との交流の場となり、選手からサインをもらったり、一緒に写真撮影するなど和やかな場面も見られた。

(4) その他

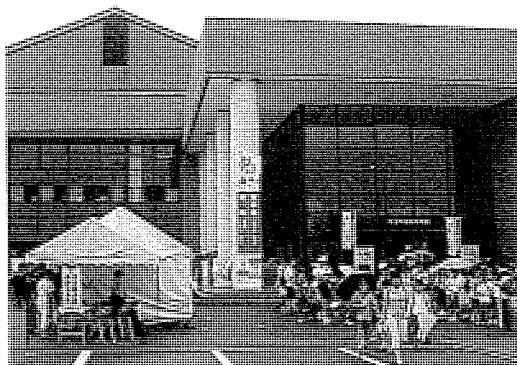
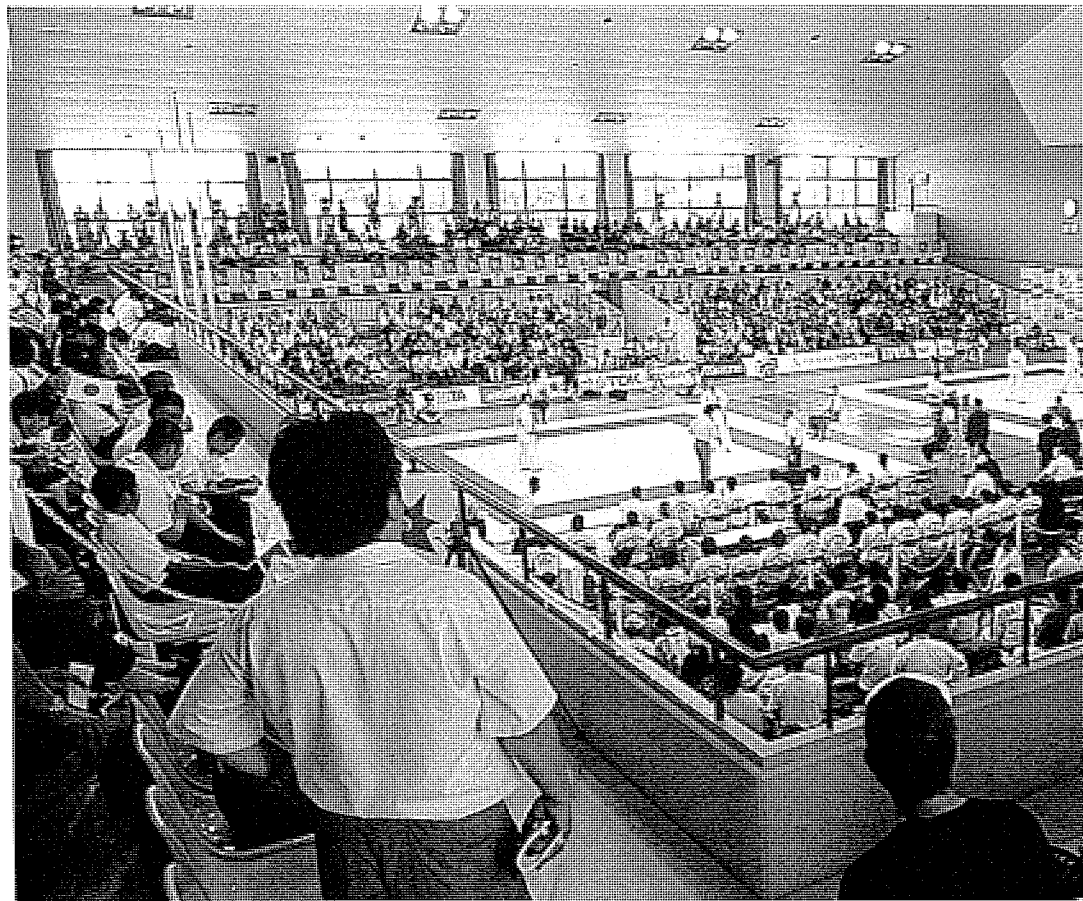
両日20社を超えるメディアの取材があった。日本生まれの武道で日本初の大会とあって国内のメディアの取材が目立った。



競技視察に訪れた、ヘーシンクIOC委員(左)
・フローリックIWGA会長(右)



公式競技
【空手道】Karate



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】組手／-60kg級、-65kg級、-70kg級、-75kg級、-80kg級、+80kg級、無差別級、形

【女子】組手／-53kg級、-60kg級、+60kg級、形

●参加選手数82人（参加枠96人）参加国・地域／28

●国際競技団体名：世界空手連盟 ●本部所在地：スペイン ●加盟国（地域）数：165

空 手 道

8月18日(土)・19日(日)／秋田県立体育館

8月18日(土) 公式練習
19日(日) 男子-80kg級／女子-60kg級他
20日(月) 男子+80kg級／女子+60kg級他

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

AOCで決定した大会スケジュールを基に日程(案)を作成し、技術代表者(TD)、全日本空手道連盟、世界空手連盟に諮り決定した。世界空手連盟からのリクエストは特に無かった。

競技方法については、参加選手数が決定しているため、組手はプール方式(2グループに分けての総当たり戦)、形はトーナメントで実施されることとなった。

これまでのワールドゲームズと異なるのは、形の判定が従来の採点制からフラッグ方式(旗での判定)へ変更された事である。

(2) 会場利用計画等

AOCで原案を作成し、競技団体より承認を得て決定した。

仮設設備は、当初の計画にはなかったが、暑さ対策として仮設エアコンをAOCで設置することとした。また、仮設スタンド(約700席)を天王町実行委員会で設置することとなった。

競技に要する用具に関しての手配は、秋田県空手道連盟に依頼した。

(3) 運営体制

競技運営はワールドゲームズルールに従い、競技団体が実施することを確認した。

AOCは、大会運営業務を担当することとし各業務班別にスタッフを配置するとともに、競技運営に関してもスタッフを配置して業務を補完することとした。

ボランティアについては、ボランティアの「やる気」を喚起するため、極力希望業務に配置できるよう配慮した。

スタッフの事前研修は、最終リハーサルを含め3回の計画を立てて実施した。

研修は、会場や競技の概要に関することから始め、スタッフ同士の交流なども設定しながら進められた。最終リハーサ

ルは、競技開始式や運営業務の再確認を行い本番に備えた。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

競技はスムーズにおこなわれ、時間的な遅れ等はなかった。また、選手変更などについては前々日の組合せ抽選で決定していたため、大きな混乱はなかった。

しかし、2日目の競技が開催される直前に、競技団体からスケジュールの変更が発表されたため、マスコミ等から戸惑いの声があがった。

(2) 会場運営

会場の設営は、準備要員が少なく、多少手間取ったところがあったが、大きなトラブルも無く進められた。

競技初日は、会場の状況が十分に把握出来ず、ボランティア等のスタッフが業務対応に戸惑った面が見受けられたため、ミーティングにおいて改善点や意見の交換を行った結果、2日目はほぼ円滑な対応がなされた。また、担当によって業務量にばらつきがあったが、各自が担当業務以外の仕事へも対応するなどにより、支障無く運営された。

会場施設の管理・整備については、天王町総合体育館や町婦人会、町交通指導隊の協力を得た。

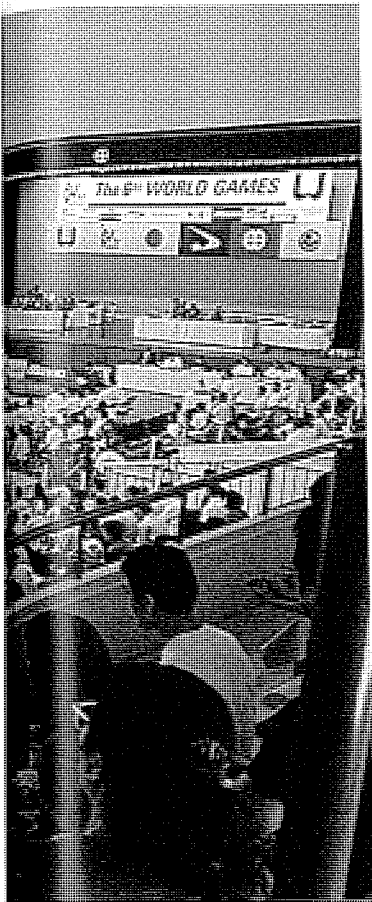
報道対応については、支援職員(天王町職員)が担当し、混乱もなくスムーズに行われた。

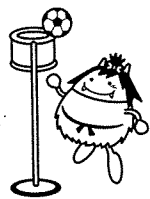
(3) 観客の状況と対応

前売り券の販売が好調で、観客の入場状況に応じて当日券を販売したが、入場出来ない観客が多く見受けられた。

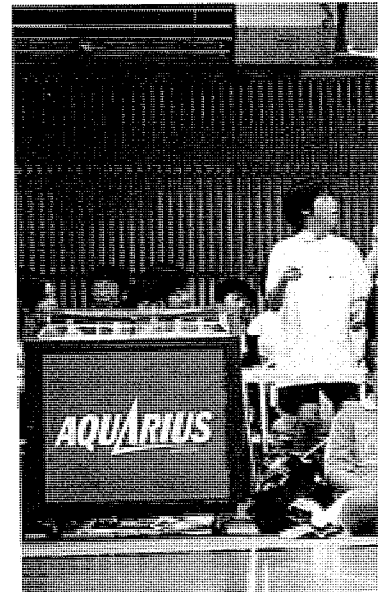
会場内でのトラブルは特に見受けられず、観客からの問い合わせなどについては会場整理係だけでなく、スタッフ全員が対応した。

また、観客の1人が階段を踏み外しケガをしたが、その他には大きな事故はなかった。





公式競技
【コーフボール】Korfball



秋田大会実施種目・参加選手数

[男女混合] チーム戦

●参加選手数/97人(参加枠/96人) 参加国・地域/6

●国際競技団体名:国際コーフボール連盟(IKF) ●本部所在地:オランダ ●加盟国(地域)数:34

コフボール

8月18日(土)～22日(水)／六郷町アスパル

8月17日(土) 公式練習
18日(日) 予選リーグ
19日(月) 予選リーグ
20日(火) 予選リーグ
21日(水) 決勝トーナメント
22日(木) 決勝トーナメント

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

AOCと国際コフボール連盟（IKF）の協議により、集客率アップのため、基本的に夜の時間帯に競技時間を設定した。コフボールは世界選手権等でも夜の競技開催が多く、ワールドゲームズでも特に問題なく決定された。

コフボールは通常1日1試合が原則となることから、5日間の日程となった。

(2) 会場利用計画等

アスパルは競技エリア以外のスペースが十分に取れないことから、隣接する六郷中学校の教室や体育館などを選手控室、VIPルーム、ウォームアップルーム等として借用した。

アスパルの会場内には、選手のドレッシングルーム、IKF、AOCオフィス、プレスルーム等が設置された。

また、本来コフボール競技は20メートル×40メートルのコートサイズで行われるが、アスパルではそのスペースをとることができないため、IKFとの協議により19メートル×38メートルのコートサイズで行うこととなった。

仮設備としては、観客用に仮設トイレを3台設置、選手用の仮設シャワーを4台設置した。また、会場内の暑さ対策のために仮設クーラーを6台設置した。

競技用具等については、コフボール専用のボール、ゴールについては日本コフボール協会で購入した。

得点板等のバスケットボールと共用できるものはアスパルの備品を活用した。また、競技床面の装飾は六郷町実行委員会で行った。

輸送バスの不足については、六郷町から小型バスを借用することとした。

(3) 運営体制

競技役員、審判員については全てIKFの決定に従った。

運営に携わる支援職員、ボランティアの研修については、リハーサルを含め4回実施され、業務の習熟を図った。

通訳の不足が予想されたが、各チーム

にボランティア通訳を2名配置するとともに役員には主に雇用通訳で対応することとした。

2. 運営と結果

(1) 競技運営

運営上の変更、トラブルは特に無かった。

競技進行については、IKFの対応が良く、常に10分前行動でスムーズに進行した。各選手控室は六郷中学校生徒がデコレーションを施し、選手の歓迎ムードを高めた。

(2) 会場運営

競技記録の収集において、署名するべきジュリーチェアマンと事前ミーティングができなかったため、IKFでサインする公式記録のフォーマットが事前にMPCに送付していたフォーマットと異なるという事態があった。

入力については、事前に選手情報を入力し作業していたため、特に問題なく行われた。

施設管理に関しては、スタッフによるチェック、巡回警備と清掃、駐車場のゲート管理、適切な誘導により特に問題がなくすめられた。スタッフの厳しい入場管理と警察官の常駐により、会場内は高いセキュリティが維持された。

運営にあたっては、各班のボランティアが自分の業務を責任持って担当した。特に、難しい競技開催中の実況アナウンスもこなし、選手の食事やスケジュール管理、会場の環境整備、その他雑務も含め問題なく対応した。

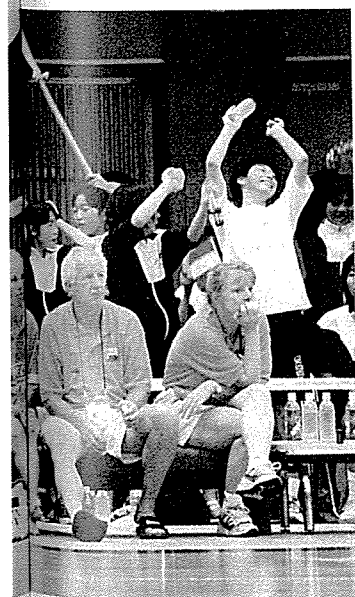
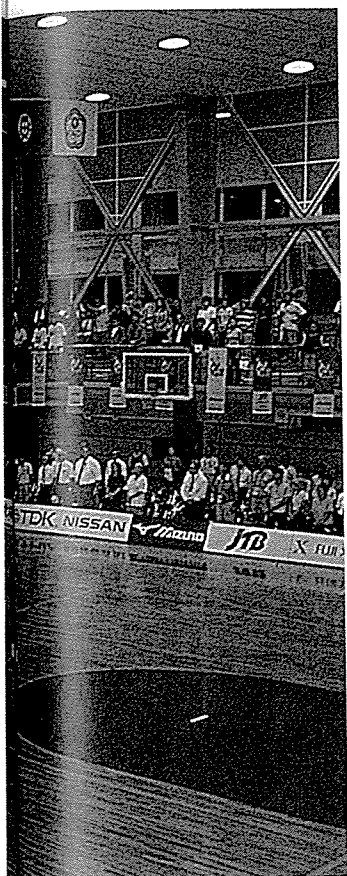
メディアについては、1日平均5社程度の報道関係者が来場した。受付で資料を配布し、取材に関し説明した。

一部の報道関係者が選手・関係者ゾーンやIKFオフィス等で取材をしているとの報告を受け、厳しく注意を行った。

記者会見については、最終日の決勝終了後に行い数社が取材をした。対象者は優勝チームの選手代表2人とコーチで、マイクを通じて場内の観客にも聞こえるようにした。

(3) 観客の対応

連日500人以上の観客が訪れたが、ボランティアスタッフ、支援職員の丁寧な対応により、入場券販売から観客席への誘導、各種案内等、非常にスムーズな状況であった。





公式競技【オリエンテーリング】Orienteering



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】・【女子】 シングルス

【男女混合】リレー（男子2人女子2人、4人で1チーム）

●参加選手数／76人（参加枠／男女各40人、合計80人、リレー15組）

●参加国・地域／19

●国際競技団体名：国際オリエンテーリング連盟（IOF） ●本部所在地：フィンランド ●加盟国（地域）数：58

オリエンテーリング

8月18日(土)・19日(日)／飯島砂防林

8月17日(金) 公式練習
18日(土) 男女シングルス
19日(日) ミックスリレー

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程の決定について

国際オリエンテーリング連盟が提示した原案を基に、AOCが詳細なスケジュールを作成し、TDを通して競技団体と細部を検討して決定した。

(2) 会場利用計画等

当初は秋田県立大学秋田キャンパス「光の広場」をスタート・ゴール地点として想定していたが、競技団体からの要請により同キャンパス陸上競技場に変更された。

AOC運営本部室や競技役員控室等は共通施設棟内に設けたが、実際の競技会の運営はほとんど陸上競技場内で行われることとなった。

また、陸上競技場内には仮設音響設備を設置した。

競技用具については、コース内のチェックポイントであるコントロールフラッグや通過証明となるEカード等は競技団体が用意することとし、リザルトボードやスタート台等の大型物品についてはAOCが準備することとした。

(3) 運営体制

支援職員、ボランティア等のスタッフを競技及び会場運営部の各業務班に配置した。

なお、競技運営部は競技役員の指揮のもと、競技運営補助業務を行うこととなった。

事前研修は計6回実施し、競技内容の理解と各業務の習熟を図った。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

スタートまでの手順が直前になって変更されたため、競技運営部の業務内容も当初の予定よりかなり専門的なものに変更されたが、大きな混乱もなく業務をこなした。

(2) 会場運営状況

競技団体からの要請で、選手のバス輸送スケジュールが直前になって変更になったが、関係する各係とも臨機応変に対応した。

メディア対応は競技団体の広報担当者が行い、大きなトラブルはなかった。

記者会見については、ゴールした選手から随時インタビューが始まってしまい、AOCとしてはコントロールができなくなってしまった。しかし、当初から設定していた表彰式後の記者会見の場は確保し実施した。

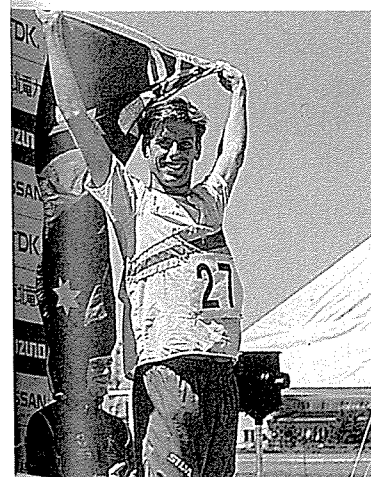
昼食は、県立大のカフェテリアでのビュッフェスタイルでの提供であったが、概ね好評であった。

屋内施設内は一般観客立ち入り禁止とし、通門管理の要員も配置したが、選手の家族等の出入りなど制限しきれない場面もあった。使用施設の破損等は特になかった。

ボランティアの欠席は、両日ともに皆無であった。直前での業務内容の変更や係によっては業務量に偏りがあったが、各々が能動的に仕事を行い、スムーズな運営に寄与した。

(3) 観客の状況と対応

競技両日の午後に行われたイベントへも500人近くの参加があり、多数の観客が観戦した。





公式競技【パラシューティング】Parachuting



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】・【女子】 フリースタイル・スカイダイビング

【男女混合】 フォーメーション・スカイダイビング、アキュラシー・ランディング

●参加選手数65人（参加枠／フリースタイル・スカイダイビング／男女各6チーム12人、合計24人
フォーメーション・スカイダイビング／6チーム 合計30人、アキュラシー・ランディング／16人）

●参加国・地域／16

●国際競技団体名：国際航空連盟 (FAI) ●本部所在地：スイス ●加盟国(地域)数：100

パラシューティング

8月17日(金)～19日(日)／大潟村運動広場

8月15日(水) 公式練習
16日(木) 公式練習
17日(金) 第1～第3ラウンド
18日(土) 第4～第6ラウンド
19日(日) 決勝 第7～第9ラウンド

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

T Dとの打ち合わせにより、2001年2月に当初予定を一部延長した公式日程が最終的に決定された。

なお、各競技のラウンド数や演技時間などについては、国際パラシューティング委員会が決定された。

(2) 会場等利用計画

競技団体及び開催地大潟村との間で、会場のレイアウト、仮設物の設置、電気工事等の施行などについて検討し決定した。

アキュラシーマット、スコアリングシステム、PAL方式のビデオ、アキュラシー自動測定装置、記録機能付き風向風速計等、競技に必要な用具は競技団体が準備した。

AOCは大型映像画面をはじめ、大会運営に必要な用具・備品等を手配した。

(3) 運営体制

競技団体との協議により、競技運営に関しては、国際航空連盟(FAI)が責任を持って担当し、日本航空協会と日本パラシューティング委員会が開催国として関与すること、大会運営に関しては、AOCが責任を持って行うことなどを決定した。

役員及び審判については競技団体が決定することとし、日本からはT Dと競技に関する責任者(マネージング・ディレクター：M D)の他に、日本パラシューティング委員会より4人、日本航空協会より1人、通訳1人が参加した。

AOCは、各部・班に支援職員、ボランティアを配置のうえ事前研修を4回にわたり実施し、競技と業務の説明及び運営シミュレーションなどを行い、大会に備えた。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

大会直前になって一部の国が参加を取りやめ、最終的には16ヶ国の参加となった。

競技期間中は天候に恵まれ、当初の予定通り3日間で終了した。ただ、2日目にやや強めの風(風速10メートル前後)が吹き、アキュラシーの進行に支障が出たが、3日目には遅れを取り戻した。

競技記録については、競技団体より記録を入手し、データ入力を行うとともに会場内の各掲示板に掲示した。

(2) 会場運営

競技会場内に村民体育館があり、備品の借用や休憩場所として利用できた。

屋外の仮設トイレについては観客用に6基準備したが、入場者数に対する配置数としては不十分であり、体育館及び隣接する野球場のトイレ利用も呼びかけた。

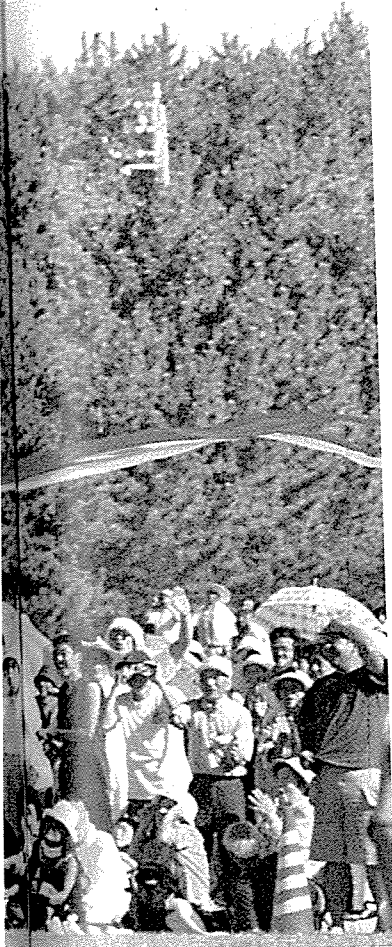
ボランティアは終日勤務を基本とし業務日を割り当てたが、欠勤者もなく運営できた。但し、運営上必要な要員数は日毎にばらつきが生じたため、状況を鑑みて業務配置を替え対応した。

メディアへは運営本部テントにて受付を行い、競技進行状況等の情報を提供した。メディアとのトラブルは特になかった。

(3) 観客の状況と対応

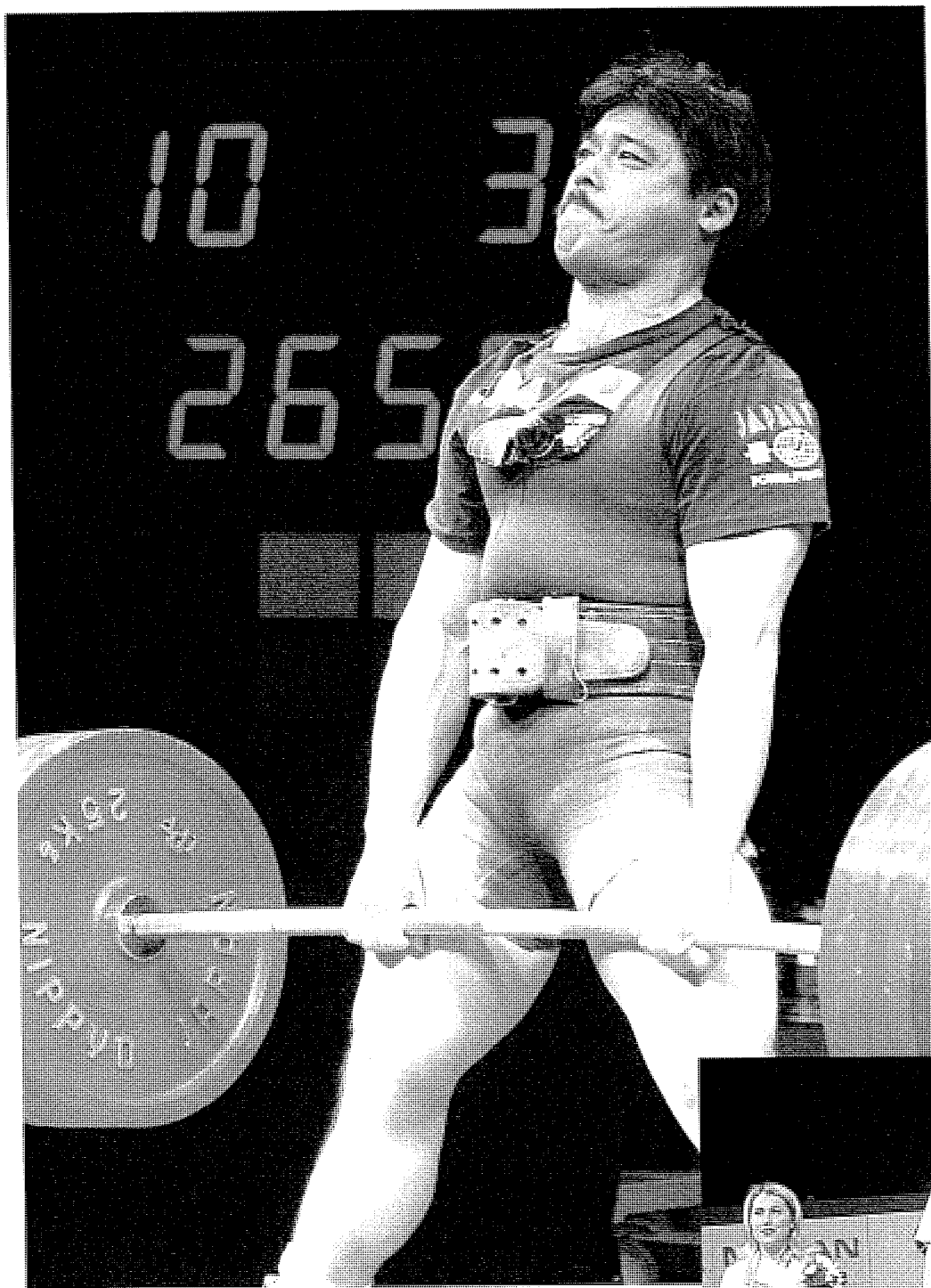
当会場は当日券のみの販売であり観客の予測が困難であったが、競技当日は予定した当日券枚数をはるかに上回る観客が来場し、全競技会場で最高を記録した。

入場券は当初用意した枚数では対応できず、チケット管理センターへの追加発注や領収書での代用により対応した。





公式競技【パワーリフティング】Powerlifting



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕 軽量級 (-67.5kg)・中量級 (-90.0kg)・重量級 (+90.0kg)

〔女子〕 軽量級 (-52.0kg)・中量級 (-67.5kg)・重量級 (+67.5kg)

- 参加選手数/66人(参加枠/各12人、計72人)
- 国際競技団体名：国際パワーリフティング連盟(IPF)
- 本部所在地：オーストリア ●加盟国(地域)数：85

パワーリフティング

8月20日(月)・21日(火)／秋田市文化会館

8月19日(日) 公式練習
20日(月) 女子
21日(火) 男子

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

日程は、TDと確認の上、当初案のとおり決定した。

競技スケジュールについては、2000年11月にプレ大会として秋田で開催された男子世界選手権の反省を基に検討を重ね決定した。

(2) 会場利用計画等

会場の使用計画についてはTDと協議の結果、前年の男子世界選手権時と基本的には同じくすることで合意した。

施設側からは、大ホールステージへの損傷防止策、幕への炭酸マグネシウム飛散・付着の防止策を講ずるよう要望が出され、これに対し、ステージ上の養生を世界選手権の2倍の厚さにすること、幕は大会終了時にAOCがクリーニングをすることとした。

(3) その他

ワールドゲームズでは、従来の男子11階級、女子10階級を男女とも3階級に集約して競技を行うことから、公平を期すため体重に応じたフォーミュラ係数を成功した重量に掛けたフォーミュラトータルで順位を競うワールドゲームズ特有のルールを採用した。

(4) 運営体制

競技運営については、競技団体が責任をもってこれにあたることを確認し、その補助的な業務をAOCが協力して行うこととした。

競技用具の手配、運搬、整備については秋田県協会が担当することとなった。

審判員、陪審員については国際パワーリフティング連盟(IPF)より任命された役員で構成した。競技役員は、IPFからの委嘱を受けた日本協会及び秋田県協会役員によって構成された。

会場の運営については、AOCが担当することとし、支援職員及びボランティアを業務別に配置した。

ボランティアについては、1日あたりの業務が長時間になる日があることから、

十分に人員を確保し、交替勤務が可能になるように配慮した。また、業務別の配置に関しては本人の希望を優先するとともに、業務経験のある者については関連業務への配置に協力を依頼した。

運営スタッフの研修は、競技前日の業務リハーサルを含めて4回の計画を立てて実施した。競技の概要と運営状況を把握させるため、秋田市文化会館を会場にして行われた秋田県ボディビル選手権の視察なども行った。

大会前日は、最終確認ミーティング、式典関係リハーサルを実施した。これには、TD及び日本協会競技役員も参加し、細部に渡る業務の確認・修正を行うことができた。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

当初計画通りの進行であり、特に変更箇所は無く、順調な運営であった。

(2) 会場運営

各班に支援職員を配置し、ボランティアのみが対応に苦慮することがないように配慮した。また、班長を中心にミーティングを開き情報交換を行い、改善が可能な事柄については早めの対応を心がけ、一部に負担が集中しないように調整した。

ボランティアも担当以外の部門であってもお互いが協力し合う形で業務を進め、観客や役員、選手に対しても丁寧な対応がされていた。

メディアの関心が高く、カメラマン用のビブス(識別用ベスト)が不足するほど取材者が多く、取材ルールに従わないメディア関係者があり対応に苦慮した。急きょMPCに支援要員の派遣を要請し対応策を講じたことにより混乱はある程度回避できた。マナーの悪いメディア関係者に対する対応は非常に困難な業務であった。

記者会見等の業務については順調に進行した。

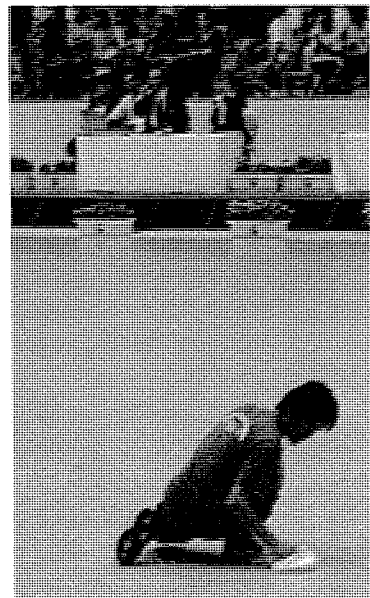
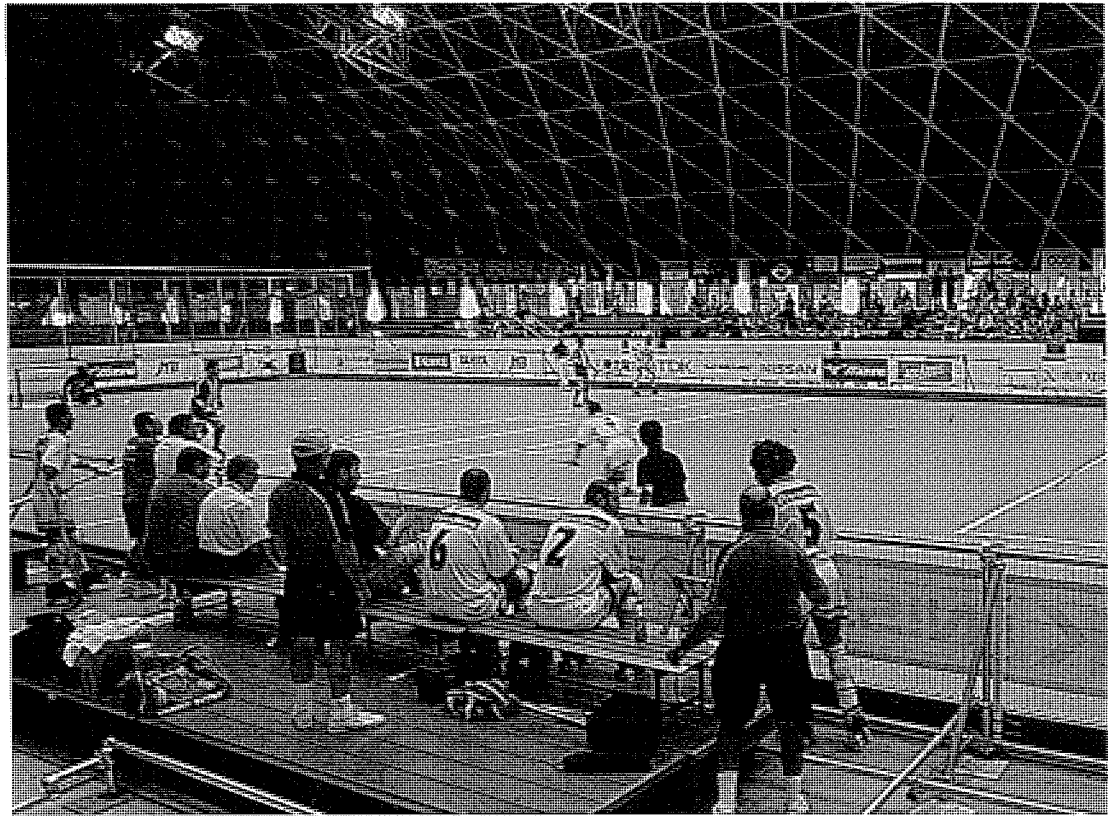
(3) 観客の状況と対応

2日間ともにほぼ満員であったが、要員の業務開始時刻を少し早めて観客整理にあたることで混乱を回避した。特にトラブルは発生しなかった。





公式競技【ローラースケート】Roller Skating



秋田大会実施種目・参加選手数

- [男子] ホッケー(5人制)、アーティスティック(フリー)、スピード(300mタイムトライアル、500mスプリント
10,000mポイントレース、20,000mエリミネーションレース、15,000mポイント・エリミネーションレース)
- [女子] アーティスティック(フリー)、スピード(300mタイムトライアル、500mスプリント、5,000mポイントレース
15,000mエリミネーションレース、10,000mポイント・エリミネーションレース)

[男女複合] アーティスティック(ペア、ダンス)

●参加選手数/122人(参加枠/ホッケー計66人、アーティステック計40人、スピード計48人、合計154人)※

●参加国・地域/15 ●国際競技団体名: 国際ローラースケート連盟(FIRS) ●本部所在地: スペイン ●加盟国(地域)数: 82

ローラースケートイング

8月17日(金)～20日(月)
8月22日(水)～26日(日)／秋田県立スケート場

8月16日(木)	公式練習
17日(金)	ホッケー
18日(土)	ホッケー
19日(日)	ホッケー
20日(月)	ホッケー
21日(火)	アーティスティック公式練習
22日(水)	アーティスティック
23日(木)	アーティスティック・スピード公式練習
24日(金)	スピード
25日(土)	スピード
26日(日)	スピード

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

過去の全日本選手権大会の経験から、日中は会場が蒸し暑くなり競技には適さない環境となることが予測されたため、競技時間を涼しくなる夕方から晩にかけて行う事をIF・NFに提案した。双方より大方の了承を得て詳細はTDと協議の上決定した。

(2) 会場利用計画

過去に行われた全日本選手権大会を基に、同様の会場利用計画とした。

仮設設備については、競技団体より暑さ対策を切望されていたこともあり、選手控室及び役員控室には仮設クーラーを設置し、観客席及び競技本部周辺には扇風機を設置することとした。

また、観客用スタンドがないため、会場備品の仮設スタンドを設置することとした。

競技に要する設備等については、ホッケー競技の電光得点盤については、秋田県アイスホッケー連盟より無償貸与を受けることとし、仮設フェンスの設営については秋田県連盟が行うこととした。さらにアーティスティック競技の電光得点盤については株式会社コムネットと、スピード競技の順位判定機については、日本ローラースケート連盟との賃貸契約により準備することとした。

(3) 運営体制

競技および大会運営の体制については、基本的な業務内容を係別に振り分け、班編制を行った。

人員については、競技日程が9日間と長期となるため、前半(ホッケー)と後半(アーティスティック、スピード)に分け、競技の規模等を考慮し配置を計画した。

当初は計画どおりのボランティアの確保が困難となったため、要員数の見直しや追加配置を要請して、運営可能な要員数を確保することができた。

要員研修については、大会の3ヵ月前から3回開催し、本番に臨んだ。

2. 運営と結果

(1) 競技運営

大会直前までスピード競技の選手変更があり、選手リストの作成が混乱した。

運営については競技団体が全て担当し世界選手権と同様に進行したため、特に大きな問題はなかった。

スピード競技において、大会直前にIFの決定によりコースの一番内側の延長を基準とする300mトラックで行うことに変更となったが、支障なく行われた。

また、競技団体からスピード競技ポイントレースの予選を省略する日程変更の申し出があったが、IWGAではこれを了承しないことを伝え、予定どおり実施された。

競技結果等の報告については、ホッケー・アーティスティック競技は特に問題なかったが、スピード競技において競技審判との連携がうまくいかず、公式記録の報告が翌日になってしまったケースがあった。

(2) 会場運営

期間中、台風の接近により会場内に雨漏りが発生した日があったが、スタッフによるリンク清掃を競技の合間に随時行い、支障なく競技を続行することができた。

ボランティア等スタッフは、欠勤、遅刻もほとんどなく、各班長を中心に懸命に業務をこなした。指示や準備が不足していた部分もあったが、各々がそれを補いながら選手・観客を主体に考え、協力して業務を遂行したことによりスムーズな運営がされた。

大会初日に、撮影エリアのフェンスが高いためカメラ台を置いて欲しいという要望がメディア関係者から出たため、会場内にあるベンチを台代わりに設置し対応した。

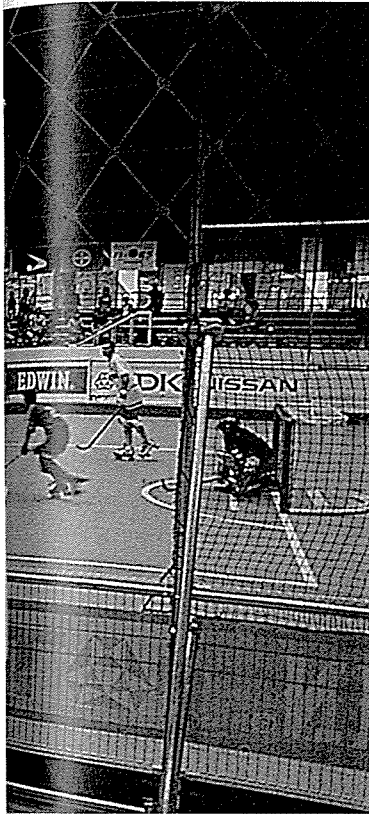
表彰式後の記者会見については、当初は実施したが、既に選手への取材が済んでいるためかメディアからの質問が少なく、以降の実施を見送った。

(3) 観客の状況と対応

開場時間は開始1時間前としていたがその前から並んでいる観客がいたため、スタッフの準備が出来次第早めに開場した。

当日券による入場者が多く、準備していた当日券を追加して販売する日が多かった。特に、アーティスティックおよびスピード競技最終日は満席状態となり、施設内の空きベンチを追加配置したり、立ち見であることを説明の上入場させるなどの対応をした。

競技中は、進行の妨げになるような行為もなく、プレーに対する拍手や選手への声援により会場内は大いに盛り上がった。





公式競技
【ラグビー（7人制）】Rugby (Seven-a-side)



秋田大会実施種目・参加選手数

【男子】チーム

●参加選手数/80人（参加枠/8チーム、80人）

●参加国・地域/8

●国際競技団体名：国際ラグビー連盟 (IRB) ●本部所在地：アイルランド ●加盟国(地域)数：81

ラグビー (7人制)

8月25日(土)・26日(日)／八橋陸上競技場

8月23日(木) 公式練習
24日(金) 公式練習
25日(土) 予選リーグ
26日(日) 順位決定トーナメント 準決勝・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 準備体制

競技実施に向けた計画作りや準備作業は、AOC、国際ラグビー連盟(IRB)、日本ラグビーフットボール協会(JRFU)、秋田県ラグビーフットボール協会(県協会)の4者の協議により進められた。

しかし、競技実施の決定権を有するIRBが競技計画にかかる指示を出さなかったため、2001年4月以降まで具体的な計画作りは進まなかった。

(2) 競技日程

競技日程の概要は早くから決まっていたが、輸送計画など他の計画に影響を及ぼす詳細な競技スケジュールについては、IRB側の対応の遅れから開催直前の7月初旬までずれ込むことになった。

(3) 会場利用計画

IRBが5月に競技会場を視察した際に指摘されたインゴールエリアの十分な確保については、財政的・施設管理的難題であったものの、関係者の尽力により7月下旬に移設を完了することができた。また、競技用具の準備・調達は県協会が中心となって進められた。

2. 運営と結果

(1) 大会運営

4者協議を踏まえて、AOCは純粋な競技運営を除いた大会運営を担った。AOCの要員の大部分はボランティアであり、5回にわたる研修など業務内容の習熟に努めたが、用意周到な事前準備とまでは行かなかった。

また、現場での予想外のアクシデントも多かったが、IRBやJRFUの協力のもと、臨機応変に対応することができ、大事に至ることなく運営できた。

(2) 競技運営

競技部分はIRBとJRFUが担当し、円滑な運営となった。

台風11号の影響で参加チームが予定どおりに来秋できないというトラブルもあったが、JRFUスタッフの懸命な対応により、競技への影響は最小限に抑えることができた。AOCもバスの手配や練習会場の管理、ボランティアの出勤計画の変更などにより対応した。

(3) 観客対応

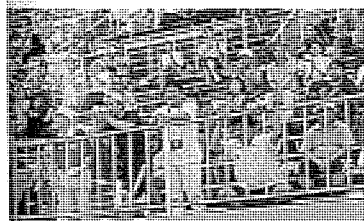
観客席の管理や誘導については、事前準備が行き届いていたため、混乱なく実施できた。

また、特に観客が盛り上がったのは、出場選手がミニチュアのラグビーボールを観客席に投げ入れる「ミニボール・プレゼント」であった。

(4) メディア対応

毎日約30社が来場したが、当初の計画どおりに取材対応がなされ、トラブルも生じなかった。

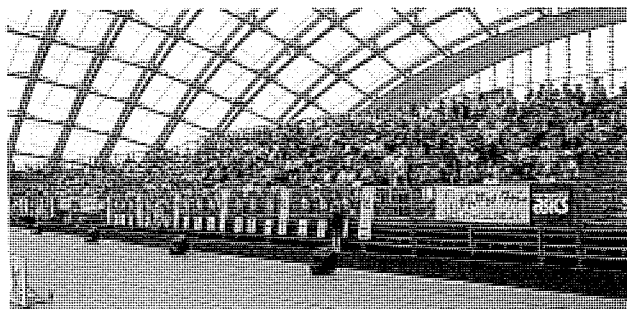
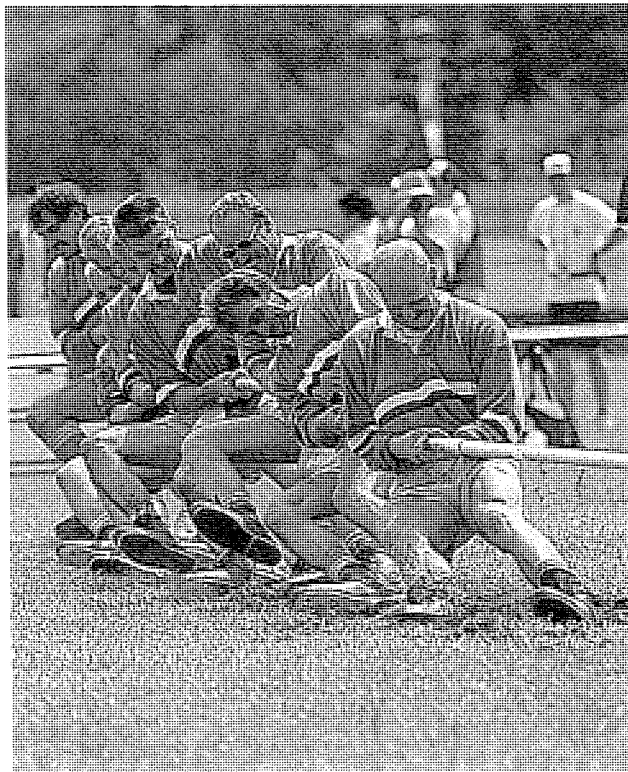
記者会見については、会場内で優勝チームの代表記者会見、IRB会長の会見などが10社程度参加して実施された。





公開競技【女子綱引き】Tug of War Women

公式競技【綱引き】Tug of War



秋田大会実施種目・参加選手数

- 【男子】男子アウトドア680kg(8人の合計体重) 男子インドア600kg(8人の合計体重)
 ●参加選手数/129人(参加枠/各6チーム、合計132人) ●参加国・地域/10
 【女子】※公開競技 女子インドア480kg(8人の合計体重) 女子インドア520kg(8人の合計体重)
 ●参加選手数/100人(参加枠/各6チーム、合計132人) ●参加国・地域/8
 ●国際競技団体名:国際綱引連盟(TWIF) ●本部所在地:アメリカ ●加盟国(地域)数:31

綱引き

8月25日(土)/県立中央公園球技場
 8月26日(日)/スカイドーム

男子アウトドア 8月24日(金) 公式練習
 25日(土) 680kg
 男子インドア 8月24日(日) 公式練習
 26日(火) 600kg

女子綱引き

8月25日(土)~26日(日)/スカイドーム

女子インドア 8月24日(金) 公式練習
 25日(土) 480kg
 26日(日) 520kg

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

AOCで決定した大会スケジュールに基づき競技日程(案)を作成し、TD及び国際綱引連盟(TWIF)との確認を行った。2001年2月にコ・コーレン会長が来秋した際に協議、最終的な日程が決定した。

(2) 会場利用計画等

AOCで原案を作成し、競技団体より承認を得て決定した。

なお、男子アウトドアについて、当初競技エリアに予定していた球技場Bの中央部分の芝状況が悪く競技エリアをサイドに移動すること、グラウンドを転圧して表面を硬くすることについてTD・TWIFから要請があり、最終的には、天候や芝生の育成状況を勘案し、競技エリアをスコアボード側に移動することとした。(転圧はなし)。

また、男女インドアについて、スカイドームの地ならしを行ってレベルを水平にした上で、養生シートを敷設して競技エリアを設置し、更に観客用に1,500席の仮設スタンド及び仮設音響設備を設置することとした。

インドア用レーンマットはアシックスから、8人用計量器は近江度量衡から日本連盟が提供を受け、それをAOCが借用した。その他競技用器具の大部分は県連から借用した。AOCでは、予選リーグ・決勝トーナメント用スコアボード及びチーム名プラカードを製作した。

(3) 運営体制

競技運営は、日本連盟・県連が実施した。AOCは、競技団体の指示のもと競技運営の補助業務を行うとともに、会場運営を担当することとした。



2. 運営と結果について

(1) 競技運営

競技運営に関しては、スケジュールどおり進行した。

但し、初日の女子480kg級でスペインから分離・独立を唱えるバスク地方出身者によって構成されたスペインチームが優勝したが、国旗掲揚中、表彰台から降りるといった事態が発生した。

TWIFは2日目の男女スペインチームの出場を停止するという措置に出たため、26日の競技は、男女とも5チームによる予選リーグで行われた。

(2) 会場運営

ボランティア等スタッフは、競技及び会場運営部毎に各班別の業務を担当したが、会場運営部は綱引競技に特化せず、県立中央公園全体の警備・交通、報道、医療等の業務を行った。

競技運営部も競技団体に協力して各種業務を的確にこなした。

ただ、語学ボランティアに関しては絶対数が不足した。スペイン語については急遽本部SOSセンターから1名派遣を受けた。また、女子綱引関係者の宿泊先となったミネソタ州立大秋田校学生寮における語学等のサポート体制に不備があり、施設側からクレームを寄せられた。

また、初日にメディア受付にAOCのスタッフを配置できなかったため、ビブス(カメラマン識別用ベスト)の交付等で混乱が生じた。また、アリーナ内でビブスを着用していない者(チーム関係者か)がビデオ撮影するケースが多々あり、2日目は競技団体の協力のもとに、ポールパーテーションとテープでアリーナへの入場区域を規制するなどの措置を取った。

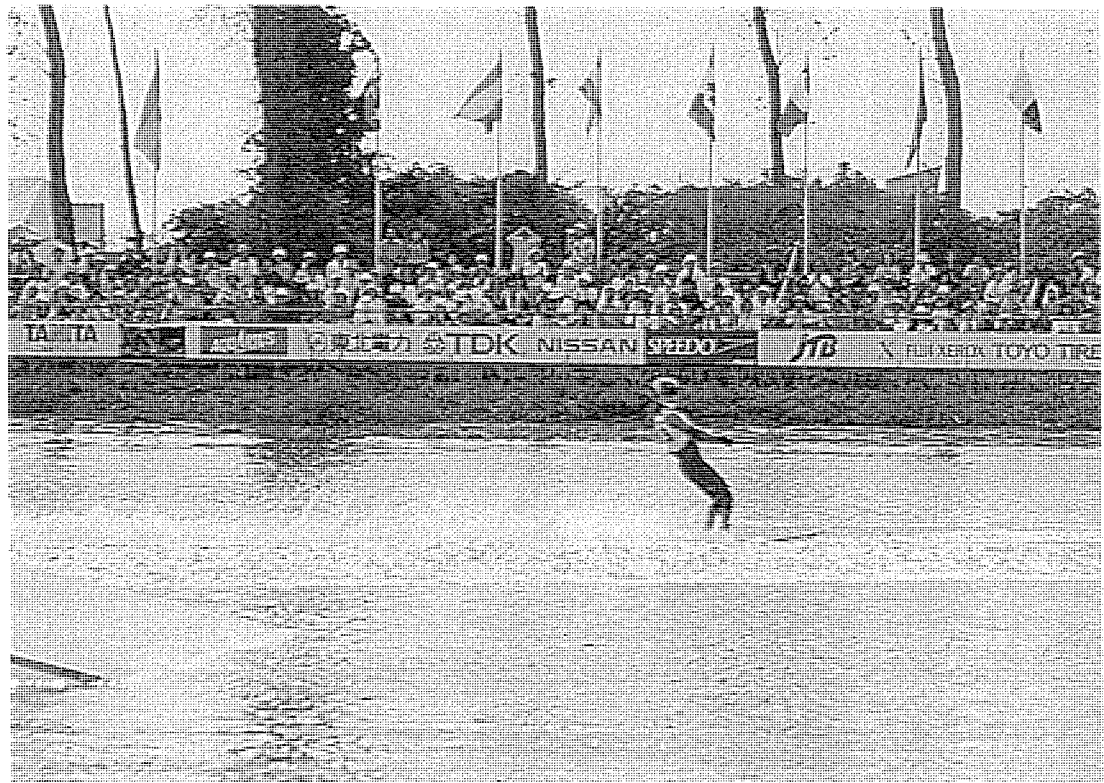
記者会見については、各種目とも決勝終了次第、随時行われ、日本チームを始め各チームに取材陣が集まった。

(2) 観客の状況と対応

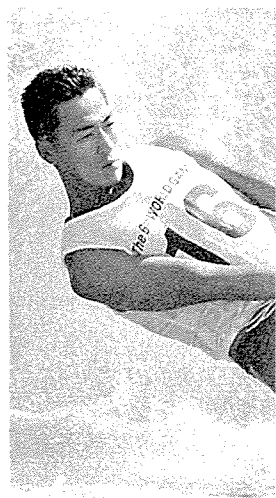
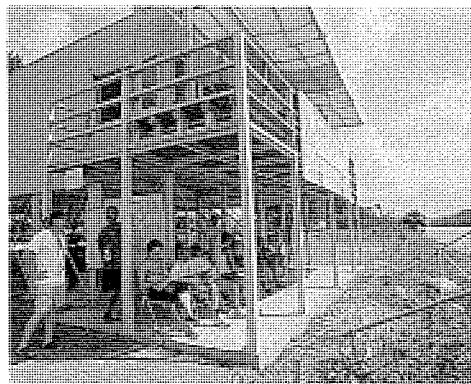
日本ではアウトドア競技はなかなか見られないこと、また、男女インドアには日本チームが参加することもあり、多くの観客が詰めかけ観戦した。特に8月26日(日)は、同会場で行われる閉会式の直前の競技ということもあって、仮設スタンドの収容人員を超える観客があり、パイプ椅子等により、臨時に観客席を増設して対応した。

このため、当日入場券が不足となり、チケット管理センターへも追加発注を行い対処した。

観客には、トイレなどの多少の不便もあったが、日本チームのメダルを獲得する活躍により、大いに満足していただけた。



公式競技【水上スキー】Water Ski



秋田大会実施種目・参加選手数

「男子」・「女子」

トーナメント：スラローム、ジャンプ、トリック

ペアフット：スラローム、ジャンプ、トリック

ウェイクボード：フリーライド

●参加選手数/73人（参加枠/90人）参加国・地域/25

●国際競技団体名：国際水上スキー連盟(IWSF) ●本部所在地：イタリア ●加盟国(地域)数：73

水上スキー

8月24日(金)~26日(日)／大潟村水上スキー場

※(台風のため1日順延)

8月21日(火) 公式練習
22日(水) ※台風のため公式練習中止
23日(木) 公式練習
24日(金) 予選
25日(土) 予選
26日(日) 決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

前回のラハティ大会ではトーナメント・ベアフットの種目が4日間で行われていたが、今大会では3日間の競技期間が組まれた。また、新たな種目としてウェイクボードも行われることになり、全体的に過密なスケジュールとなった。

(2) 会場利用計画等

スムーズな大会運営を行う観点から、観戦エリアは運営本部の対岸に設定された。

観客用には、大潟村が所有していた観客スタンド500人分に加え新たに200人分の仮設スタンド設置することとした。また、観客席側は雑草(葦)・雑木等が繁茂し、地面の凹凸も激しいため、雑草等の除去及び整地を行った。

駐車場については、利用が予定されていたソーラースポーツラインの地盤沈下が懸念されることから、1車線分のみ使用することとした。

また、波消し対策、水位の維持、漂流ゴミ対策等について検討され、波消し対策については、大潟村役場にて両岸に繁茂している葦を刈り、それらを束ねて岸に取付けることとしたほか、水路の水位維持については、水路を管理している八郎潟基幹管理事務所に対しAOCが調整を依頼、漂流ゴミについては上流の橋の下にネットを張る対策をとることとした。

競技に要する器具については、日本水上スキー連盟(JWSA)がビデオ機材及びジャンプ計測器を手配。また、国際水上スキー連盟(IWSF)がベアフットジャンプ台を準備した。

大型スクリーン、浮桟橋の製作、選手の競技用具の保管場所(プレハブ)、夜間の警備、ウェイクボードの曳航艇の手配についてはAOCが準備することとした。

なお、ベアフット用の曳航艇は手配できなかったため、ウェイクボード用の曳航艇を使用することになった。

(3) 運営体制

競技運営に関しては、IWSFが統括し、JWSAは開催国として競技運営の全般を担当した。

会場運営に関してはAOCが行うこと

とした。支援職員、ボランティアを競技及び会場運営部の各班の業務に適正な配置となるよう配慮した。また、事前研修やリハーサルを実施し、業務の理解と役割の確認を行った。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

台風の接近が懸念された事から、21日の夕方に22日の公式練習を中止することを決定するとともに、会場に設営されていたテント等の撤去作業が行われた。

また、台風の影響による増水が予想され、水路の水位を下げなければならない状況となったことからジャンプ台の撤去も行われた。

これにより、競技日程は1日繰り下げて実施されることとなった

23日は会場設営と公式練習にあてられたが、練習できない選手もいたため24日早朝も公式練習が行われ、その後、遅れて初日の競技がスタートした。

競技2日目及び3日目は、早朝からの競技開始となったが、競技進行は遅れがちとなり、表彰式については全種目終了後に一括して行われた。

(2) 会場運営

競技の進行状況により、運営要員の不足する状況が発生したが、ボランティア等のスタッフが相互に協力し臨機応変に対応した。

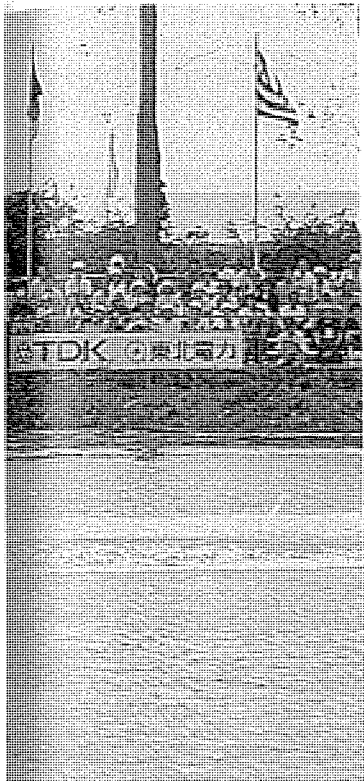
会場には上水道等の施設がなく、飲料水等の確保が問題であったが、自衛隊の協力を得て確保された。仮設トイレについては、観客用として男性用1基、男女兼用2基及び身障者用1基を設置していたが、予想以上の来場者数があったことから男女兼用2基を追加し対応した。

駐車場については、会場に隣接するソーラースポーツライン1車線を駐車場として確保し対応したが、駐車が2キロ以上にもおよび炎天下の中、来場者には不便をかけた。

報道関係者に対しては、必要に応じて競技進行状況やカメラ設置可能エリア等の説明が行われ、取材の便宜を図るとともに競技運営の支障とならないよう注意を促した。

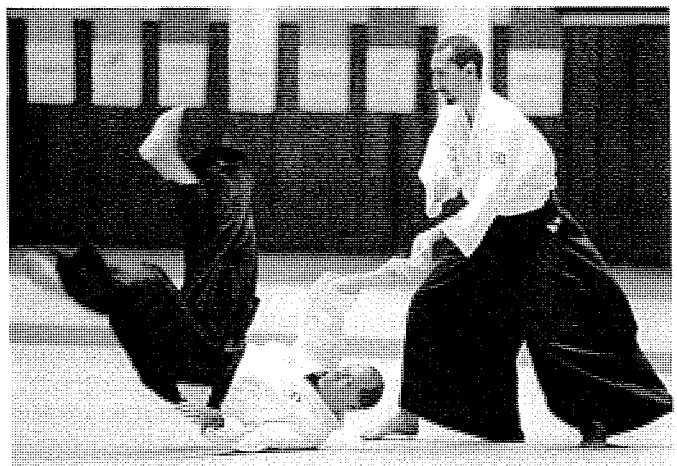
(3) 観客の状況と対応

競技日程が1日ずれたため、前売券の取扱いに注意を要した。また、連日多くの観客が押し寄せ、1,000人分用意した観客席の状況を随時把握しながらの当日券の販売となった。





公開競技【合気道】Aikido



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕 演武

●参加選手数/44人（参加枠/56人）

●参加国・地域/10

●国際競技団体名：国際合気道連盟 (IAF) ●本部所在地：日本 ●加盟国(地域)数：70

合気道

8月18日(土)／秋田県立体育館

8月17日(金) 講習会
18日(土) 演武会

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

国際合気道連盟が提示した原案を基に決定。国際演武会及び国内演武会と国際合気道講習会を行うこととし、スケジュールの詳細についてはTDとの打ち合わせを重ねながら作成した。

(2) 会場等利用計画

大体育館を演武会場とし、小体育館を練習場とする他、選手役員等の控室や事務局などのスペースとして、館内全施設を利用することとした。

演武場用の338枚の畳を秋田市立体育館から借用することとし、設営は県立体育館の指導のもとに秋田県合気道連盟及び秋田大学柔道部、ボランティアで行うこととなった。

(3) 運営体制

支援職員及びボランティアを演武会運

営部および会場運営部の各班に配置し、運営体制を整えた。

事前の研修を計4回実施したほか、大会前にリハーサルを行い大会に備えた。

2. 運営と結果

(1) 運営状況

秋田県連盟が準備から運営に関わり、AOCからは会場の提供と必要機材の準備、運営補助を行った。

演武会は特にトラブルもなく、順調に運営された。

(2) 会場運営

会場の県立体育館は、照明の改善、床の塗装替、その他施設内部の整備を事前に行って大会を迎えたことから、各国の参加選手からは「申し分ない会場」と高い評価を得た。

心配された駐車場については、秋田県連盟スタッフによる交通整理が行き届いたこともあって混乱は無かった。

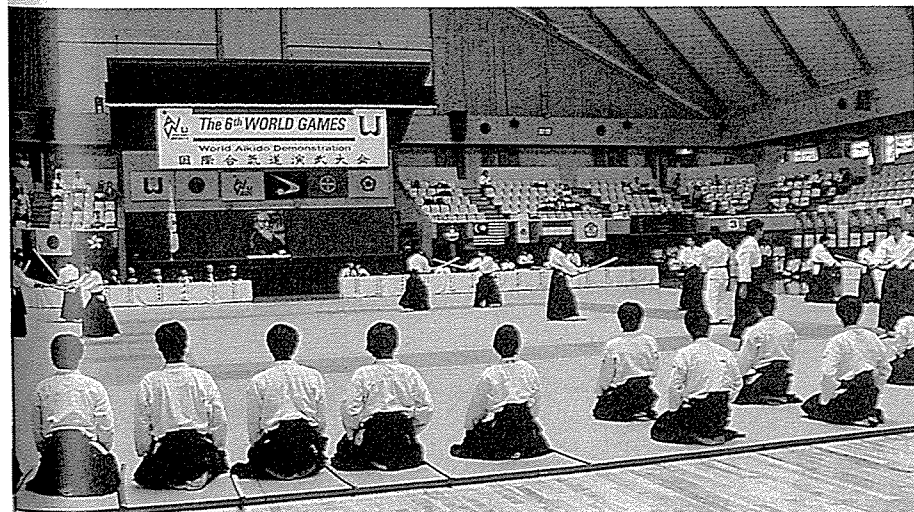
ボランティアも自分の業務をよく理解し活動し、大会運営を支えた。

(3) 観客の状況と対応

同好者の層が厚いとあって観客が思いがけなく多かった。大会当日の18日は世界からの参加者、日本各地からの国内演武者などでほぼ満席状況となり、チケットも「完売」となった。

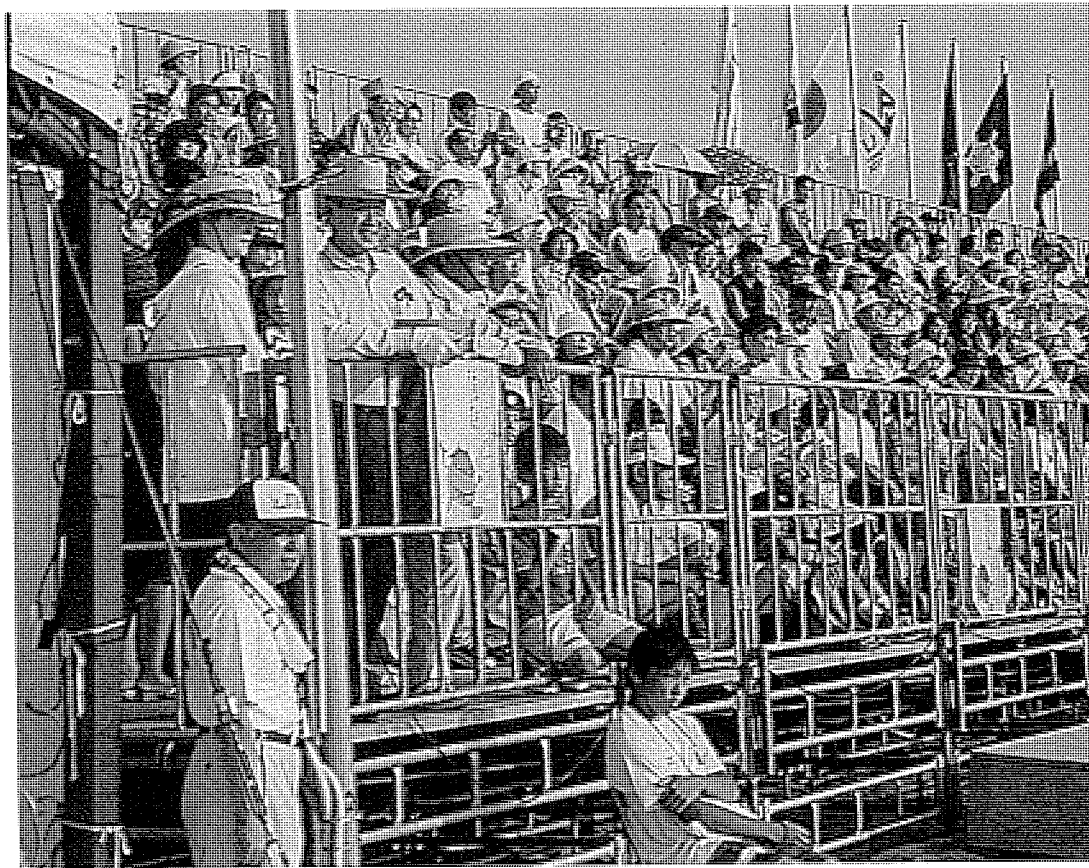
(4) その他

演武会当日は24社の報道関係者の取材があり、特に秋田県出身でブラジル在住の西田孚氏の故郷での演武が大きく報道された。





公開競技【ビーチハンドボール】Beach Handball



秋田大会実施種目・参加選手数

[男子]・[女子] チーム

●参加選手数/122人(参加枠/120人)

●参加国・地域/9

●国際競技団体名:国際ハンドボール連盟(IHF) ●本部所在地:スイス ●加盟国(地域)数:145

ビーチハンドボール

8月23日(木)～25日(土)／本荘マリーナ海水浴場

8月23日(木) 予選リーグ1日目
24日(金) 予選リーグ2日目
25日(土) 準決勝・決勝・順位決定戦

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

国際ハンドボール連盟（IHF）が当初から示していた日程案を基に、日本ハンドボール協会（JHA）及びAOCが日の出・日の入り・干潮・満潮等の気象条件を考慮し決定した。

(2) 会場等利用計画

AOCが叩き台となる会場利用計画図を作成し、競技団体からの承認を得て、決定した。

通常は何もない砂浜であるため、観客スタンド・本部テント・選手控室・トイレ・医療救護室などすべてを仮設設備で賄うこととなった。

また、ゴール・ラインテープ・バックネット・ボール等の競技に要する用具については、基本的に競技団体が準備することとした。

(3) 運営体制

支援職員、ボランティアを各人の情報を基に、適材適所となるよう競技及び会場運営部各班に配置した。

業務研修は、4回実施したが、最終のリハーサルについては台風の影響により実施できなかった。

2. 運営と結果

(1) 運営状況

19日から会場設営を進めていたが、台風の影響が予想されるとのことから、20日午後にAOC本部から設営中止の指示が入り、設営作業は21日・22日と中止された。

競技初日の23日も台風の影響が残り、早朝からの会場設営が困難となったことから、午前6時に競技時間の繰り下げを決定し、午後2時からの開始式となった。

設営作業は、2日半の遅れを半日で取り返すべく、ボランティアや設営業者を含むスタッフが最大限の努力をした結果、開始に間に合わせる事ができた。

競技日程も3日間を2日半に短縮して実施されたが、大きな混乱もなく無事行われた。

メディア対応は、本荘市広報公聴課の支援職員を中心とした班を編制し対応したことにより、大きな混乱はなかった。一部のチームから記録撮影の依頼を受けた者が、ビブス(カメラマン識別用ベスト)を着用しないで撮影を行ったため、メディア側からクレームがついたケースがあり、ビブス着用を徹底させた。

(2) 観客の状況と対応

期間中多くの観客が訪れた。仮設スタンドは620席であるが、真夏の炎天下で1日中観戦する観客は多くないため、席の空き状況をみて随時当日券を販売した。

(3) その他

地元児童や学生との交流事業については予定どおり行われ、それぞれ独自の内容で有意義な国際交流を行うことができた。特に23日のドイツ女子チームとの交流は、会場の中央で実施され、観客・競技団体の役員も大いに盛り上がり、子供たちにとっては大きな思い出となった。





公開競技【ゲートボール】Gateball



秋田大会実施種目・参加選手数

【男女混合】チーム

●参加選手数/44人(参加枠/48人)

●参加国・地域/5

●国際競技団体名:世界ゲートボール連合(WGU) ●本部所在地:日本 ●加盟国(地域)数:13

ゲートボール

8月18日(土)・19日(日)／秋田県立中央公園陸上競技場

8月17日(金) 公式練習
18日(土) 予選リーグ
19日(日) 準決勝・3位決定戦・決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程等

競技団体との協議により、競技日程は当初の計画どおり決定された。

参加国が当初の6カ国から7カ国に変更になり、その後5カ国6チームになったため試合時間に若干の変更があった。

(2) 会場利用計画等

当初計画では観客はスタンドからの観戦を予定していたが、有料入場となったことから、より観戦しやすい位置に観客エリアを設定することとし、施設を管理する(財)秋田県総合公社中央公園管理事務所の許可を得て、試合コート周辺に観客席を設営することとした。

また、選手専用トイレの和式から洋式への改修についても、同管理事務所により改修された。

電光得点ボード・試合球・ゼッケン・チャイム・公式記録表等の競技に要する用具等については世界ゲートボール連合が準備することとした。

秋田県ゲートボール協会は、試合練習コートの設営撤去およびゲート・ゴールポール・練習球などの準備を担当し、AOCは大会看板・国旗パネル・プラカード・組合せ看板等を手配することとなった。

(3) 運営体制

競技運営については、世界ゲートボール連合および秋田県ゲートボール協会が行い、大会運営をAOCで行うこととした。

競技役員及び審判員については、競技団体が指定した。

会場運営については、AOCが主体的に行うこととし、支援職員及びボランティアを各班に配置した。

事前の研修及びセレモニーのリハーサルを実施し業務の習熟を図った。

2. 運営と結果

(1) 競技運営

マニュアルどおり実施され、選手変更、スケジュール変更、遅れ等はなかった。

(2) 会場運営

競技団体から提出された公式記録用紙と、事前にパソコンに入力されていたリザルトフォームが違っていたため、入力に手間取った。事前の確認が必要であった。

競技及び会場運営部間の連絡調整を十分に図り、スムーズに実施された。

ボランティアはひとりの遅刻・欠席者もなく、班長を中心によく業務をこなし、スムーズな運営を支えた。

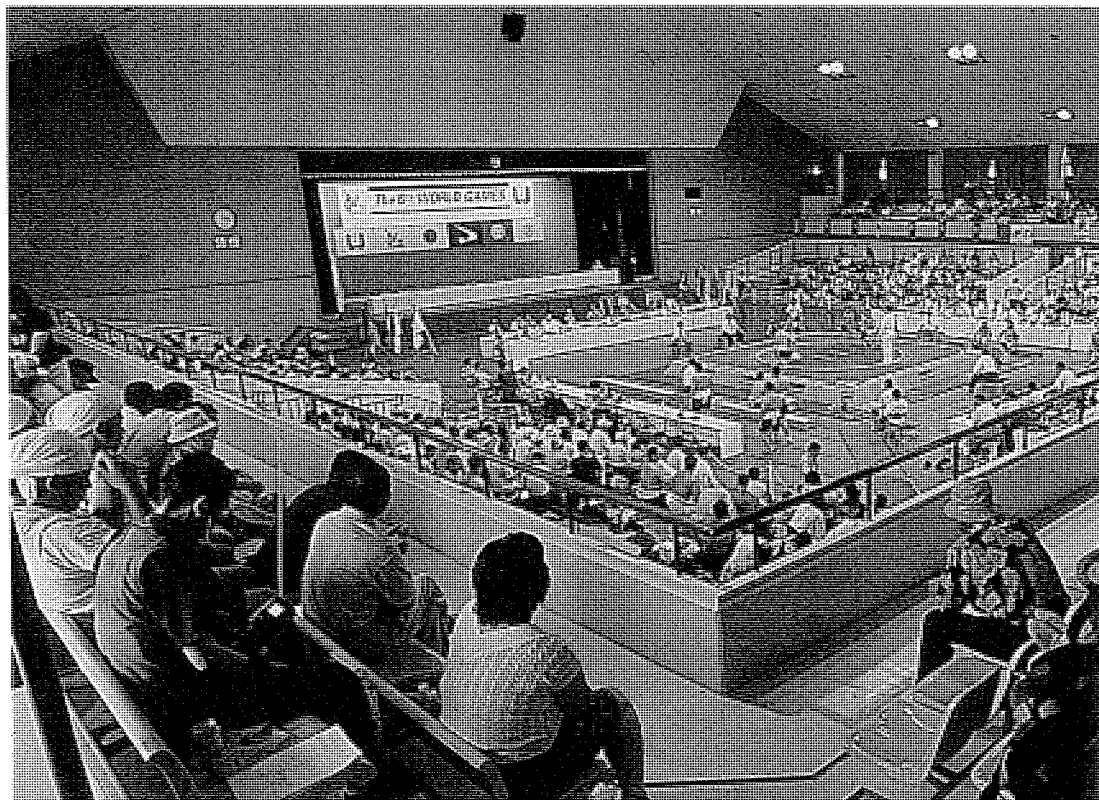
会場での取材では、一部のテレビカメラマンが試合コートまで近づく場面があったが、それ以外ではルールが守られた取材であった。

(3) 観客の状況と対応

日本チームおよび秋田県チームが出場し、日本チームが決勝トーナメントに進出したことにより、多くの観客が声援を送った。

若い選手で構成された日本チームが優勝したことに、観客からは驚きの声があがっていた。ゲートボール競技に対する認識も変わったようであった。





公開競技
【相撲】
Sumo



秋田大会実施種目・参加選手数

〔男子〕-85kg、-115kg、+115kg、無差別級、団体(3人)

〔女子〕軽量級、重量級、団体(3人)

●参加選手数/67人(参加枠/82人) 参加国・地域/14

●国際競技団体名：国際相撲連盟(ISF) ●本部所在地：日本 ●加盟国(地域)数：85

相 撲

8月25日(土)・26日(日)／天王町総合体育館

8月24日(金) 公式練習
25日(土) 予選
26日(日) 決勝

1. 計画と準備状況

(1) 競技日程

競技日程については、国際相撲連盟と協議の上決定された。また、国際相撲連盟からの要望により、女子種目の追加を、2001年6月に決定した。

2日間の競技に要する時間や閉会式出席のための移動時間などを勘案し、競技スケジュールが決定された。

また、競技方法については、個人戦、団体戦ともにトーナメント方式で実施し、3位決定戦については、ダブルレペチャー方式で実施することが決定された。

(2) 会場利用計画等

競技会場および練習会場の配置は当初計画のおりとなった。

選手控室については、女子選手の参加が決まった時点で競技団体と再度打ち合わせを行い、天王町防災センター1階を女子、2階を男子の控室として使用することとした。

土俵の設営、整備は、競技場については天王町実行委員会が行い、練習会場については秋田県連盟が行うこととした。

競技用具、備品については天王町、天王町実行委員会、秋田県相撲連盟の三者が連携し、準備、設置等の業務を担うこととした。

(3) 運営体制

競技運営に関しては、国際相撲連盟及び国際相撲連盟から委嘱を受けた競技役員で行うことを基本原則とした。

大会運営全般に関しては、AOCスタッフ及びボランティアを必要箇所に配置し、各班ごとに運営業務にあたることとした。

ボランティアについては、意欲的に活動ができるように担当業務については本人の希望を優先する形で配置した。

ボランティア等運営スタッフの研修は、最終リハーサルを含めて3回実施した。

競技の概要と施設利用計画についての説明および現地研修を実施するとともに、班別の業務研修や活動を実施し、相互理解を深めた。リハーサルでは天王中学校のブラスバンド部及び女子生徒も参加し、演奏やプラカード保持の練習も行われた。

2. 運営と結果について

(1) 競技運営

競技運営については、スムーズに行うことができた。

(2) 会場運営

運営スタッフの多くは、前週に行われた空手競技で運営業務を経験しており、各班ともに班長を中心としたミーティングを行い、反省点を翌日には改善するなど、非常に能率良く業務を行った。

また、各自の持ち場にこだわらない協力体制が生まれ、ボランティア同士の横の連携も大きな力を発揮した。

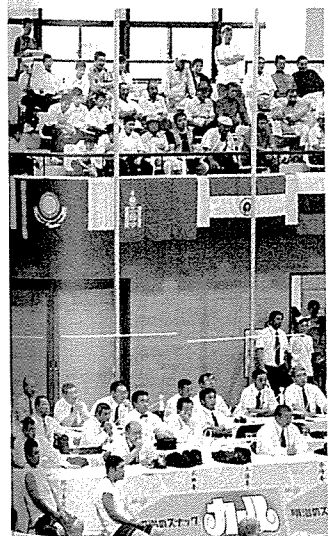
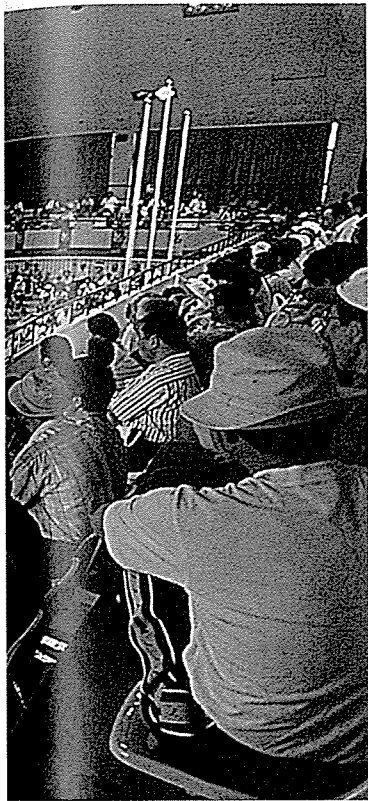
施設管理および環境整備も、天王町総合体育館及び町婦人会と町交通指導隊などの協力を得て、スムーズに行われた。

また、相撲は日本選手の参加が多いため、報道取材も多く記者会見も重要な業務になると判断された。メディアとのトラブルはなかった。しかし、選手の記者会見をチームの監督が許可しない場合があり関係者を混乱させたが、許可がおりた時点で会見することで対応した。

(3) 観客の状況と対応

当日券を求めて、早朝から並ぶ観客が多く見られたが、混乱はなかった。

場内は2日間ともほぼ満席の状態になったが、特にトラブルや迷子等はなかった。



国・地域別参加競技一覧

77カ国/10地域	公 式 競 技																									公開競技						
	ビ リ ヤ ー ド	ホ デ ィ ビ ル デ ィ ン グ	ボ ウ リ ン グ	キ ャ ス テ ィ ン グ	フ ァ ウ ス ス ト ポ ー ル	フ ァ ィ ル ド ス ィ ミ ン グ	フ ラ ィ ン グ デ ィ ス ク	新 体 操	ス ポ ー ツ ア ク ロ バ ッ ク	エ ア ロ ビ ッ ク	タ ン ブ リ ン グ	乗 手 道	空 手	コ ー フ ボ ー ル	オ リ ン ピ ッ ク	バ ラ ィ ユ ー テ ィ ン グ	パ ラ ィ ス ケ ー テ ィ ン グ	ラ グ ビ ー	水 上 ス キ ー	合 気 道	ゲ ー ム	相 撲	女 子 網 球									
競技毎累計	27	22	14	24	12	28	5	20	17	8	19	11	13	19	13	15	28	6	9	19	16	15	15	6	10	25	10	9	5	14	8	
アジア	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヨーロッパ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アメリカ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オセアニア	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
アフリカ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)

大会運営【競技運営/国・地域別参加競技一覧】

国・地域別参加者数一覧

	国名	選手数	役員数	合計
1	エジプト	5	4	9
2	マダガスカル	2		2
3	南アフリカ	44	21	65
4	セネガル	2	2	4
5	アルジェリア		1	1
6	トーゴ	23	6	29
7	チュニジア	4	3	7
8	アルゼンチン	4	5	9
9	キューバ		1	1
10	ブラジル	61	26	87
11	カナダ	38	13	51
12	チリ	11	2	13
13	コロンビア	17	7	24
14	ドミニカ共和国	2		2
15	エルサルバドル	2		2
16	グアテマラ	3	3	6
17	メキシコ	7	8	15
18	パラグアイ	2	1	3
19	ペルー	5	4	9
20	プエルトリコ	2	1	3
21	ウルグアイ	1	1	2
22	USバージン諸島		1	1
23	アメリカ合衆国	126	64	190
24	ベネズエラ	11	5	16
25	バハマ	2		2
26	中華人民共和国	48	32	80
27	ホンコン・チャイナ	7	15	22
28	マカオ・チャイナ	3		3
29	ベトナム	1	1	2
30	インド		2	2
31	インドネシア		1	1
32	イラン・イスラム共和国	11	4	15
33	パキスタン	1		1
34	日本	299	894	1,193
35	カザフスタン	10	5	15
36	大韓民国	33	22	55
37	クウェート		1	1
38	マレーシア	7	7	14
39	モンゴル	5		5
40	フィリピン	5	4	9
41	シンガポール	12	7	19
42	スリランカ	1		1
43	タイ	10	6	16
44	チャイニーズ・タイペイ	78	31	109
45	ウズベキスタン	4	3	7
46	オーストリア	34	30	64
47	ベルギー	45	33	78

※役員のみが参加した6ヶ国・地域を含む

	国名	選手数	役員数	合計
48	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1	1	2
49	ベラルーシ	21	13	34
50	ブルガリア	6	3	9
51	クロアチア	4	4	8
52	キプロス	1	1	2
53	チェコ共和国	28	8	36
54	デンマーク	18	12	30
55	イングランド	31	10	41
56	スペイン	69	37	106
57	エストニア	11	2	13
58	フィンランド	32	10	42
59	フランス	80	42	122
60	イギリス	94	46	140
61	ドイツ	133	69	202
62	ギリシャ	4	6	10
63	ハンガリー	10	7	17
64	アイルランド	23	6	29
65	アイスランド	1	2	3
66	イスラエル	2		2
67	イタリア	57	35	92
68	ラトビア	2		2
69	リトアニア	13	3	16
70	ルクセンブルク	1	1	2
71	オランダ	92	37	129
72	北アイルランド	11	2	13
73	ノルウェー	25	12	37
74	ポーランド	20	9	29
75	ポルトガル	40	26	66
76	ルーマニア	4	5	9
77	ロシア連邦	69	36	105
78	スコットランド	11		11
79	スロベニア	16	9	25
80	サンマリノ	2	2	4
81	スイス	33	16	49
82	スロバキア	20	12	32
83	スウェーデン	48	22	70
84	トルコ	1	4	5
85	ウクライナ	19	14	33
86	ウェールズ	2	3	5
87	ユーゴスラビア	4	3	7
88	オーストラリア	92	32	124
89	フィジー	10	3	13
90	グアム	3	1	4
91	ニューカレドニア	1		1
92	ニュージーランド	36	17	53
93	トンガ	4	1	5
	合計	2,193	1,861	4,054

大会運営【競技運営/国・地域別参加者数一覧】

第6回ワールドゲームズ(秋田大会)大会期間中入場者数一覧

文化式典関係				競技会場																	
計	開・閉会式	WGプラザ	ウェルカムセンター	日	入場区分	計	WGプラザ ブルースポーツ	中央公園 デスタコルフケットボール	大潟村 パラシューティング	大潟村 フィールドアーチェリー	オーパス	県立スケート場 ローラー(ホッケー)	市立体育館 エアロビック	飯島砂防林 オリエンテーリング	八橋陸上競技場 フアウストボール	合気道	県立体育館	文化会館 ボディビルディング	天王町 空手道		
																				入場者数	うち有料
24,700	11,500	8,000	5,200	16	入場者数	0															
8,300	8,300				うち有料	0															
16,400	3,200	8,000	5,200		その他	0															
16,400		11,000	5,400	17	入場者数	4,527	169	750	1,926	184	525	973									
					うち有料	3,011	135	0	1,443	0	500	933									
16,400		11,000	5,400		その他	1,516	34	750	483	184	25	40									
18,700		12,000	6,700	18	入場者数	17,082	314	1,464	6,270	315	515	1,035	310	2,107	2,461	716	1,006				
					うち有料	8,091	289	569	2,346	0	495	995	0	575	1,061	606	706				
18,700		12,000	6,700		その他	8,991	25	895	3,942	315	20	40	310	1,532	1,400	110	300				
24,700		18,000	6,700	19	入場者数	32,215	265	761	19,769	312	576		330	1,993		871	1,157				
					うち有料	11,770	235	461	3,806	0	551		0	642		721	857				
24,700		18,000	6,700		その他	20,445	30	300	15,873	312	25		330	1,351		150	300				
14,200		8,000	6,200	20	入場者数	7,971					243			3,562							
					うち有料	2,679						228			303						
14,200		8,000	6,200		その他	5,292						15			3,259						
6,300		—	6,300	21	入場者数	4,675															
					うち有料	3,529															
6,300		—	6,300		その他	1,146															
6,100		—	6,100	22	入場者数	2,379															
					うち有料	2,045															
6,100		—	6,100		その他	334															
10,000		4,000	6,000	23	入場者数	3,738															
					うち有料	3,349															
10,000		4,000	6,000		その他	389															
17,600		12,000	5,600	24	入場者数	4,776															
					うち有料	3,924															
17,600		12,000	5,600		その他	852															
25,600		20,000	5,600	25	入場者数	14,200															
					うち有料	10,377															
25,600		20,000	5,600		その他	3,823															
21,000	3,000	12,000	6,000	26	入場者数	21,817															
					うち有料	9,763															
21,000	3,000	12,000	6,000		その他	12,054															
185,300	14,500	105,000	65,800	計	入場者数	113,380	748	2,975	27,875	811	1,859	2,008	640	7,662	2,461	1,587	2,163				
8,300	8,300	0	0		うち有料	58,538	659	1,030	7,595	0	1,774	1,928	0	1,520	1,061	1,327	1,563				
185,300	6,200	105,000	65,800		その他	54,842	89	1,945	20,280	811	85	80	640	6,142	1,400	260	600				

※なお、ウェルカムセンターは8月14日からオープンし、27日まで開設

大会期間外を含む入場者数

14	3,800
15	4,800
27	2,600
大会期間外計	11,200
大会期間中計	65,800
合計	77,000

競 技 会 場																	日								
トランポリン	市立体育館 スポーツアクロ体操 タンブリング	柔術	県立体育館	中央公園 アルティメット	文化会館 パワーリフティング	横手市 ボウリング	新体操	市立体育館	セリオン ビリヤード	本荘市 ビーチハンドボール	中央公園 キャスティング	県立スケート場 ローラーアイススケート	岩立ブルー アイススケート	ライオン アイススケート	岩城町 アイススケート	大湯村 水の上スキー	県立スケート場 ローラー(スピード)	八橋陸上競技場 ラクビー	市立体育館 ダンススポーツ	綱引き	中央公園	天王町 相撲			
																								16	
																									17
																									18
	2,430	2,249	889																						19
	2,350	1,049	689																						20
	80	1,200	200																						21
	995	1,803	427	571																					22
	975	533	327	151																					23
	20	1,270	100	420																					24
	2,509		826	709	195																				25
	2,409		422	309	148																				26
	100		404	400	47																				合計
						237	1,047	228				359													
						190	997	218				339													
						44	50	10				20													
						248	1,818	248	352	390	684														
						226	1,748	233	228	262	652														
						22	70	15	124	128	30														
								278	851	660		608			2,034	345									
								260	719	480		573			1,572	320									
								18	132	180		35		462	25										
								254	801			1,329		3,952	445	3,104	2,156	1,308	851						
								242	697			1,286		2,446	415	1,246	2,141	1,193	711						
								12	104			43		1,506	30	1,858	15	115	140						
								260					7,000	3,020	709	5,463	2,537	1,707	1,121						
								245					0	1,839	679	1,825	2,517	1,687	971						
								15					7,000	1,181	30	3,638	20	20	150						
	5,934	4,052	2,142	1,280	677	2,865	1,268	2,004	1,050	1,041	1,937	7,000	9,006	1,499	8,567	4,693	3,015	1,972							
	5,734	1,582	1,438	460	564	2,745	1,198	1,644	742	991	1,859	0	5,857	1,414	3,071	4,658	2,880	1,682							
	200	2,470	704	820	113	120	70	360	308	50	78	7,000	3,149	85	5,496	35	135	290							

メディア来場社数一覧

日	計	競技																											
		開会式・閉会式	WGプラザ	中央公園	大潟村	オーパス	県立スケート場	飯島砂防林	八橋陸上競技場	県立体育館	文化会館	天王町	六郷町	市立体育館	県立体育館	中央公園	文化会館	横手市	セリオン	中央公園	本荘市	県立プール	岩城町	大潟村	八橋陸上競技場	市立体育館	天王町	中央公園	
16	47	47																											
17	103		9	18	16	18	22							20															
18	169		13	18	9	5	7	16	25	9	17	19	10	21															
19	181		11	18	15	6	4	3	23		27	7	7	29	16	15													
20	138						11		21				8	29	24	15	30												
21	114												5	36	33	31	9												
22	86						12						12	28				19	15										
23	89						13							16				12	20	26	2								
24	104						14												15	15	11	28		21					
25	168						7												14		15	22		20	27	28	20	15	
26	180	28					6												13				32	15	30	25	16	15	
計	1,379	75	33	54	40	29	96	19	69	9	44	26	42	179	40	63	61	40	77	41	28	50	32	56	57	53	36	30	

The 6th WORLD GAMES 8/16(Thu)~26(Sun)

大会運営【競技運営／メディア来場社数一覧】

TD及び秋田県連盟名簿

競技名	競技団体(日本連盟)	TD氏名	秋田県連盟事務局担当者等
ビリヤード	(社) 日本ビリヤード協会	西尾 学	坂 武
ボディビルディング	(社) 日本ボディビル連盟	玉利 齋	工藤 基次
ブルスポーツ	日本スポールブル連盟	村瀬 良臣	五十嵐 均
	日本ペタンク連盟		
ボウリング	(財) 全日本ボウリング協会	松沢 勇	伊藤 照子
キャスティング	日本キャスティング協会	宮入健一郎	後藤 弥
		岡本堅史(補助)	
ダンススポーツ	日本ダンススポーツ連盟	鶴飼 慶司	今野久美子
ファウストボール	日本ファウストボール協会	田村吉顕	田村 吉顕
フィールドアーチェリー	(社) 全日本アーチェリー連盟	秦 浩太郎	安部 一昭
フィンスイミング	日本水中スポーツ連盟	吉澤 俊治	
フライングディスク	日本フライングディスク協会	師岡 文男	佐藤 孝志
新体操	(財) 日本体操協会	関田史保子	中野 明子
スポーツアクロ体操	日本スポーツアクロ体操協会	池上 正郷	相場 義知
エアロビック	(社) 日本エアロビック連盟	タミー八木	伊藤 忠幸
トランポリン・タンブリング	(社) 日本トランポリン協会	上山 剛	渡部 明
柔術	全日本柔術競技連盟	Mario J. den Edel	
		原田 貞朋(補助)	
空手道	(財) 全日本空手道連盟	山村 弘一	藤岡 政春
コーフボール	日本コーフボール協会	小原 正彦	村田 嘉一
ライフセービング	日本ライフセービング協会	相澤 千春	
オリエンテーリング	(社) 日本オリエンテーリング協会	村越 真	山内 武美
パラシューティング	(財) 日本航空協会	逆井 幸江	
パワーリフティング	日本パワーリフティング協会	吉田 進	伊藤 和弘
ローラースケートイング	日本ローラースケート連盟	野口 嘉郎	初瀬 武美
ラグビー(7人制)	(財) 日本ラグビーフットボール協会	真下 昇	野坂 肇
綱引き	(社) 日本綱引連盟	井田 勝行	伊藤 昭一
水上スキー	日本水上スキー連盟	長谷川芳成	杉渕 正英
合気道	(財) 合気会	磯山 博	平岡 優
ビーチハンドボール	(財) 日本ハンドボール協会	渡邊 佳英	高山 重雄
ゲートボール	(財) 日本ゲートボール連合	鈴木 哲治	佐藤 隆
相撲	国際相撲連盟	田中 英寿	鈴木斌二郎

